

## はじめに

高等学校までにあなたたちは人として身に付けておくべき基礎・基本をある意味では与えられるように学んできたが、大学はその基礎・基本の上に、自己実現を目指して自らの主体的な意志によって学問する場である。すなわちあなたたち学生が、自らの興味や関心を追求し、卒業後の人生をどのように歩むのかという将来設計を自ら行い、それに沿う授業科目を選択し、自ら選択した専門的な分野の研究を発展深化させるのが大学での「学び」である。

あなたたち大学生には、究めたいと思う学問を納得行くまで追求できる自由と、多くの時間とが与えられている。本学では優れた業績を積んだ教授陣が、学生の学修をきめ細かに導く。この恵まれた学修環境を、あなたたち学生一人ひとりの自己実現のために精一杯活用してほしい。

授業科目選択の指針として、今年度も「履修要項・講義内容」を編集した。現代の社会は、大学へは教育の質を保証し、大学生へは十分な学力と高い資質を身につけて卒業することを強く求めている。従って、本学としても一定の基準に達しない学生を卒業させることはできない。このため、あなたたち学生には真摯に学修に向かい十分な実力を身に付けることを要求する。

「第1章 履修要項」では、学修上の心得や履修登録の手順、単位の修得、定期試験、成績評価等について述べている。特に、成績評価方法としてS, A, B, C, Fの5段階評価を用いるGPA制度を採用している。GPAのポイントは、学生が自らの学修状況を把握し、目標をもって勉学に取り組むための指針となるものである。また、修得した単位数に見合う学力を身に付けてもらうために、GPA制度と合わせて一年間の履修登録単位数に上限を設けるCAP制度を併用している。さらに社会福祉士や保育士、栄養士等の資格取得のための出席時間数確保や、学修内容を確実に身に付け真剣な取り組みを促すため、遅刻や欠席等について厳正に対処している。

「講義内容（シラバス）」は学務システムのポータルサイトに掲載した。各シラバスは科目担当教員によりその科目の目標と各回の授業の学修内容を詳しく記述している。これにより授業科目の内容をよく吟味した上で選択できるようになっている。また各授業科目とディプロマポリシーとの関係もわかるようになっている。あなた自身の興味・関心に合致しているか、自らの進路に必要な科目かを熟慮し、誤りのない科目選択をしてほしい。また、登録した授業の内容を確認し、準備学修をするなど目標をもって授業に臨んでほしい。

各科目のシラバスには、授業内容のほか、成績評価の際に考慮する要素をパーセントで示し、評価基準の明確化・公平化を図っている。評価方法が明確ゆえに評価は厳格になる。科目ごとの評価基準を理解した上で、留意して各科目に取り組むこと。

最後に、大学4年間、短大2年間が実り大きなものとなるよう、常に前向きに授業に参加し、高い学力を目指してほしい。

2026年4月1日

# 目次

## はじめに

## 第1章 履修要項

1	単位・進級・卒業	1
	単位	
	既修得単位の認定	
	進級	
	在学年限	
	卒業の認定	
	学位の授与	
	大学以外の教育施設等における学修の単位認定	
2	履修登録	3
	履修登録	
	抽選科目	
	履修登録上の注意	
	科目における人数制限と抽選について	
	履修登録の流れ	
	登録科目の履修辞退	
	他学科開放科目の履修	
	短期大学部の科目の履修	
	ふじのくに地域・大学コンソーシアム短期集中講義単位互換制度	
3	授業	9
	授業時間	
	休講	
	気象警報発令等による休講について	
	遅刻・欠席について	
	欠席の手続き	
	公認欠席（公欠）	
	公認欠席届・欠席届の提出	
	公欠として認められる欠席	

4	定期試験	13
	試験の種類・方法	
	受験資格の喪失	
	受験上遵守すべき規則	
	不正行為	
	定期試験の欠席	
	追試験	
	再試験	
	定期試験に代わるレポート提出	
	定期試験等受験のための配慮	
5	成績評価	16
	G P A制度	
	G P A (Grade Point Average)	
	成績評価の方法・基準	
	判定基準	
	G P Aの利用	
	「成績表」・「成績証明書」	
	成績異議申立制度	
6	C A P制度	18
	年間履修登録単位数の上限	
7	その他	19
	科目ナンバリングについて	
	カリキュラムマップ	
	実務経験のある教員等による授業科目	

## 第2章 教育課程

人間社会学科	31
基礎教育科目・専門教育科目	
履修登録上の注意事項	
履修モデル	
「卒業研究」について	
認定心理士の資格申請と履修科目について	
公認心理師の受験資格と履修科目について	
社会調査士の資格と履修科目について	
アントレプレナー育成プログラムについて	
コミュニティ福祉学科	53
基礎教育科目・専門教育科目	
履修登録上の注意事項	
履修モデル	
「卒業研究」について	
社会福祉士国家試験受験資格取得について	
保育士資格課程について	
スクールソーシャルワーク教育課程について	
レクリエーション・インストラクター資格取得について	
認定心理士の資格申請と履修科目について	
公認心理師の受験資格と履修科目について	
アントレプレナー養成プログラムについて	
教員免許状取得について（人間社会学科・コミュニティ福祉学科）	90
「数理・DS・AI 教育プログラム（英和LL）」について	113



10月			11月			12月			1月			2月			3月		
1	木		1	日		1	火		1	金	元日	1	月	後期授業終了	1	月	
2	金	後期授業料等納入 期限	2	月		2	水		2	土		2	火	補講・月曜優先	2	火	
3	土		3	火	文化の日	3	木		3	日	↓学校一斉休業日	3	水	↑後期定期試験	3	水	
4	日		4	水		4	金		4	月	前期科目等履修生 申込開始	4	木		4	木	
5	月		5	木		5	土		5	火		5	金		5	金	
6	火		6	金		6	日	地域防災訓練	6	水		6	土		6	土	
7	水	火災防災訓練	7	土		7	月		7	木		7	日		7	日	
8	木		8	日		8	火		8	金		8	月		8	月	
9	金		9	月		9	水		9	土		9	火	↓後期定期試験	9	火	卒業判定教授会
10	土		10	火		10	木		10	日		10	水	↑集中講義	10	水	
11	日		11	水		11	金		11	月	成人の日	11	木	建国記念の日	11	木	
12	月	スポーツの日	12	木		12	土		12	火		12	金		12	金	
13	火		13	金		13	日		13	水	編入学学内 後期 説明会	13	土		13	土	
14	水		14	土		14	月		14	木		14	日		14	日	オープンキャンパス
15	木		15	日		15	火		15	金		15	月		15	月	
16	金		16	月		16	水		16	土		16	火		16	火	卒業礼拝 教職員研修会
17	土		17	火		17	木		17	日		17	水	↓集中講義	17	水	卒業式 卒業記念パーティー
18	日		18	水		18	金		18	月		18	木	後期成績・追再試 発表	18	木	
19	月		19	木		19	土		19	火		19	金	追再試手続〆切	19	金	
20	火		20	金	楓祭準備	20	日		20	水	学内合同企業説明 会	20	土		20	土	
21	水		21	土	楓祭	21	月		21	木		21	日		21	日	春分の日
22	木		22	日	楓祭	22	火		22	金		22	月	↑追再試験	22	月	振替休日
23	金		23	月	勤労感謝の日	23	水	Xmas礼拝	23	土		23	火	天皇誕生日	23	火	
24	土		24	火		24	木		24	日		24	水	前期科目履修生申 込〆切	24	水	
25	日		25	水	創立記念礼拝	25	金	↑学校一斉休業日	25	月		25	木	↓追再試験	25	木	
26	月		26	木	学院創立記念日	26	土		26	火	補講	26	金		26	金	
27	火		27	金		27	日		27	水	補講	27	土	前期科目履修生選 考日	27	土	
28	水		28	土		28	月		28	木	補講	28	日		28	日	
29	木		29	日		29	火		29	金	補講				29	月	健康診断
30	金		30	月		30	水		30	土	補講				30	火	健康診断 ↑履修登録 オリエンテーション
31	土					31	木		31	日					31	水	オリエンテーション

# 第1章

## 履修要項



# 1 単位・進級・卒業

## ■単位

本学では、それぞれの授業科目に単位数が定められており、学則によって定められた授業科目を履修し、所定の試験に合格し、その授業科目に定められた単位を修得して卒業要件や資格取得の要件を満たしていくという、単位制をとっています。

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業により教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとします。(学則第16条)

授業時間は1コマ90分とし、これを2時間として計算します。

1単位を取得するために必要な授業時間数および授業外での学修時間数

授業方法	授業時間数	授業外学修時間数
講義	15時間	30時間
演習	30時間	15時間
	別に定める科目は15時間	30時間
実験・実習・実技	45時間	0
	別に定める科目は30時間	15時間

卒業論文・卒業研究等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めます。

## ■既修得単位の認定

1年次入学の場合	入学前に他の大学や短期大学を卒業または中途退学した者で1年次に入学した者は、単位認定を申請できる。申請の時期は原則として入学後2週間以内とする。単位認定は60単位を超えない範囲で行う。申請の際には、定められた書類を所定の期日内に学部事務室に提出する。詳細については、入学後速やかに学部事務室で確認すること。
3年次編入学の場合	編入学で3年次に入学する者は、オリエンテーション時の「編入学生ガイダンス」で単位認定について説明するので、その指示に従い手続きを進めること。

## ■進級

特別な事情を除いては、修得単位数にかかわらず、入学してから4年次まで順次進級します。ただし、4年次末において卒業に必要な単位数を満たしていなければ、卒業延期となり留年となります。

## ■在学年限

在学最長年限は8年間で、8年を超えて在学することはできません。なお、休学期間は在学期間に算入しません。

## ■卒業の認定

本学に4年以上在学し、学則に定める授業科目および単位数を修得した者については、卒業が認定されます。卒業に必要な単位数の詳細については、「第2章 教育課程」の、各学科の卒業要件単位数の項を参照してください。

## ■学位の授与

本学の卒業者には学士の称号が授与されます。学位に付記される学士の種類は次のとおりです。

学 科	学 位
人 間 社 会 学 科	学 士 (人間社会)
コミュニティ福祉学科	学 士 (コミュニティ福祉)

## ■大学以外の教育施設等における学修の単位認定

本学では学外における学修について、単位認定できる制度を設けています。対象となる学修は下の表を参照してください。なお、前期の申請は6月授業最終日、後期は12月授業最終日までで、取得日より2年以内のものが有効です。詳細は学部事務室で確認してください。

対象となる検定試験の種類	基準	認定する単位数	認定する科目
TOEIC	730点以上	2単位以内	基礎教育科目・コモン ベーシックス・ 外国語表現力
	600点以上	1単位	
実用英語技能検定試験	準1級以上	2単位以内	基礎教育科目・コモン ベーシックス・ 外国語表現力
	2級	1単位	
日商簿記検定試験	3級以上	2単位	専門教育科目・基幹科目「簿記原理」

## 2 履修登録

### ■履修登録

- (1) 履修登録は、前期と後期に行います。前期には前期開講科目のほか通年開講科目および前期集中科目を登録します。後期には後期開講科目および後期集中科目を登録します。
- (2) 履修する科目は、自らの興味・関心・将来の進路を考慮し、学務システムのポータルサイト上のシラバス（講義内容）と、本冊子の各学科の「履修登録上の注意」、オリエンテーションでの説明、または当該年度の「開講授業時間割」等を確認して決めます。
- (3) 履修登録していない授業科目は、授業に出席し試験を受けても単位認定されません。
- (4) すでに単位認定を受けている科目は、再度履修しても単位認定されません。
- (5) 履修登録者が5人以下の場合は、当該授業科目を開講しないことがあります。
- (6) 履修登録はポータルサイトにログインして行います。「履修登録」をクリックし、登録作業を行います。
- (7) 必修科目を含めて履修が確定した全ての科目を登録します。
- (8) 登録は、ポータルサイトの画面に従い、間違いのないように十分に確認し、登録期間内に確実に済ませてください。

### ■抽選科目

受講者人数に制限がある科目は抽選を行います。

- (1) 抽選科目の履修登録期間が終了すると抽選が行われます。
- (2) 抽選結果はポータルサイト上で発表されます。履修希望者は必ず確認してください。「履修登録」画面で、科目が固定されていれば当選、科目が消えていれば落選です。当選した科目はそのまま登録され、原則として履修辞退はできません。
- (3) 抽選科目において定員に達しなかった科目を、定員に達するまで履修登録することができます。ただし、登録は先着順です。
- (4) 抽選を行う科目の情報は、ポータルサイトにてお知らせします。

### ■履修登録上の注意

履修登録や定期試験等、教務関係の日程は履修要項（本冊子）冒頭の年間行事予定表で確認してください。

- (1) 抽選に漏れた（落選した）科目は登録できません。
- (2) 抽選で当選した科目は、原則として履修辞退はできません。
- (3) 履修登録について相談が必要な者は、オリエンテーション期間中の「履修相談」時間に教員に確認するか、履修を確定する前に学科教務委員やゼミ担当教員または学部事務室職員に相談してください。

## 科目における人数制限と抽選について

以下の科目では教室収容数や法令の関係、また適切な指導と授業運営の観点から人数制限を設けています。また科目によっては各学期のオリエンテーション時に抽選を行います。履修希望の学生は必ず抽選に応募し、抽選結果発表後に受講可否の確認を行ってください。次年度以降の履修となる場合もありますので、各自の履修計画についてはゼミ担当教員や学科教務委員に必ず相談してください。

### 基礎教育科目

日本語朗読法	40名	日本語読解法B	130名
日本語文章構成法	35名		
総合英語基礎	20名	英語リスニング&スピーキングⅠ・Ⅱ	20名
英語スピーチクリニック	30名	英語リスニングスキル	30名
英語ボキャブラリービルディング	30名	英語構文理解	30名
英語文章理解	40名	英語文章表現法	30名
総合英語応用Ⅰ～Ⅳ	30名	総合英語応用Ⅴ	40名
フランス語Ⅰ・Ⅱ	40名		
中国語Ⅰ・Ⅱ	40名	韓国語Ⅰ・Ⅱ	40名
ネットワーク・リテラシー	28名	情報発信演習Ⅰ・Ⅱ、Webクリエイター演習	28名
アルゴリズムとプログラミングの基本	28名	データベース	28名
スポーツ実技Ⅰ・Ⅱ	40名	社会生活と法	66名
日本国憲法	66名	自然と災害	50名
静岡の自然と環境	50名	地域創造フィールドワーク	20名

※総合英語基礎およびネットワーク・リテラシーについてはクラス指定です。

### 人間社会学科 専門教育科目

Communicative English Ⅰ・Ⅱ	20名	アンケート調査法	28名
観光学研究法	50名	コンピュータ会計Ⅰ・Ⅱ	28名
書道Ⅰ・Ⅱ	30名	ビジネスと法	40名
Communicative English Advanced	26名	English Presentation Skills	26名
イギリス文学研究	30名		

### コミュニティ福祉学科 専門教育科目

保育士指定科目で人数制限を設けてクラス指定を行う科目

歌唱伴奏法	10名	ピアノ教育	10名
造形Ⅰ・Ⅱ	25名	子どもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ	36名

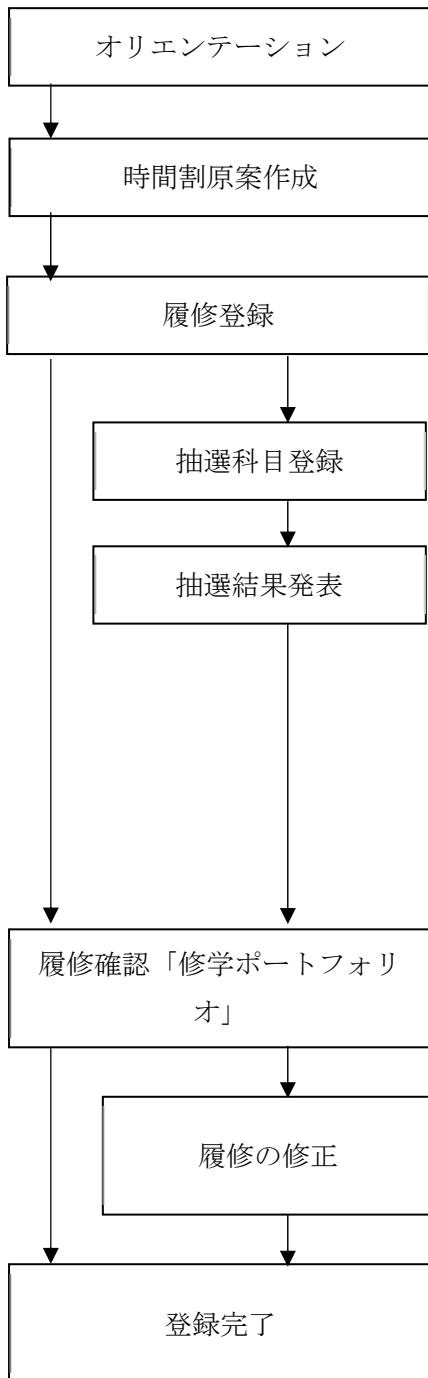
上記以外で人数制限を設ける科目

社会調査法	28名	ICTと福祉	28名
-------	-----	--------	-----

## 人数制限に関する注意

- ・履修希望者が超過した場合は抽選を行います。
- ・適切な指導と授業運営の観点から、決められた人数以下で制限を設ける場合があります。
- ・抽選の有無はポータルサイトから案内し、またガイダンス時に提示します。
- ・抽選に参加しなかった場合、その科目の受講はできません。
- ・クラス指定のある科目についてはポータルサイトから案内し、またガイダンス時に指示します。
- ・履修計画はゼミ担当教員あるいは学科教務委員に相談してください。
- ・保育士指定科目は指定科目以外の科目も人数制限を設けます。(法令上は50人ですが、本校では45人以内で抽選を行います)

## ■履修登録の流れ



- ・前期、後期それぞれの授業開始日前に、各学科で履修についてのオリエンテーションがあります。必ず参加してください。オリエンテーション日程は事前にポータルから案内されます。
- ・履修登録控（裏表紙）に、履修したい授業科目を記入し、各自の時間割原案を作成してみる。
- ・履修する授業科目が決まったら、オリエンテーション日程表に記された登録期間に、ポータルサイトの「履修登録」から登録してください。
- ・抽選科目は、抽選を行います。
- ・抽選結果発表は、ポータルサイトの画面で確認できます。結果発表日時を過ぎて科目が固定されている場合は当選、科目の表示がなくなっている場合は落選となります。
- ・抽選結果発表後、受講者人数に余裕のある科目はポータルサイトの「履修登録」画面に表示されますので、必要に応じて登録をします。
- ・当選した抽選科目は、原則として履修辞退はできません。
- ・自身の履修登録状況は「修学ポートフォリオ」にて確認できます。学部事務室で、「履修登録確認表」をもらう事もできます。
- ・次のような場合は、必ず学部事務室に修正を申し出てください。修正しないと正しく登録されず、単位の修得はできません。①コード番号、科目名、曜日、時限、単位数の誤り。②エラー表示がある場合。
- ・修正は、履修登録修正期間に行ってください。期間外の修正は受け付けません。

## ■登録科目の履修辞退

履修辞退締切日は、年間行事予定表で確認してください。期限内に申請がない場合は受講しているものとみなします。通年科目の履修辞退は前期履修修正期間に行うこと。後期になってからの履修辞退は無効です。

## ■他学科開放科目の履修

幅広い学修を志したいと思う学生は、他学科の専門教育科目を履修し、30単位を超えない範囲で卒業単位に含めることができます。

### (1) 履修可能な科目

開放され履修できる科目は、「基礎科目」、「基幹科目」、「展開科目」の授業科目とします。

### (2) 履修人数制限のある科目は、当該学科の学生を優先します。

### (3) 修得した単位は、その科目と同じ科目群の単位としてカウントします。

### (4) 開放されない科目

「演習科目」、「実習科目」に加え、以下科目は開放されません。

学科	科目群	授 業 科 目
人間社会学科	基幹科目	社会調査法
	展開科目	Communicative English Advanced、English Presentation Skills、観光デザイン論
コミュニティ福祉学科	基幹科目	社会調査法
	展開科目	総合リハビリテーション論、介護技術論、相談援助演習Ⅰ～Ⅴ、子どもの保健、子どもの健康と安全、子どもの食と栄養Ⅰ・Ⅱ

## ■短期大学部の科目の履修

静岡英和学院大学と静岡英和学院大学短期大学部とは、大学間の交流と協力を推進し大学教育の活性化と充実に資するとともに、意欲ある学生に対して多様な学習機会を提供することを目的として2009年度より単位互換制度を実施しています。

これにより、次の静岡英和学院大学短期大学部授業科目について8単位を超えない範囲で履修することができます。(学則第19条 他大学における授業科目の履修等)

### 【学科共通】

科目名	単位数	単位認定分野
ヨガⅠ	1単位	基礎教育科目・コモンベーシックス・健康と余暇
ヨガⅡ	1単位	基礎教育科目・コモンベーシックス・健康と余暇
フィットネス・セルフケアⅠ	1単位	基礎教育科目・コモンベーシックス・健康と余暇
フィットネス・セルフケアⅡ	1単位	基礎教育科目・コモンベーシックス・健康と余暇

履修人数には上限があるため、調整する場合があります。

※「ヨガⅠ」「ヨガⅡ」「フィットネス・セルフケアⅠ」「フィットネス・セルフケアⅡ」は保育士資格指定科目ではありません。

## 【人間社会学科】

・「メンタルヘルス」	2 単位
・「医療事務Ⅰ」	2 単位
・「医療事務Ⅱ」	2 単位
・「医療事務Ⅲ」	2 単位
・「医療事務Ⅳ」	2 単位
・「日本茶アドバイザー」	2 単位
・「茶の湯」	2 単位

上記科目は、専門教育科目の展開科目に含めます。履修人数には上限があるため調整する場合があります。また、「医療事務Ⅰ」「医療事務Ⅱ」「医療事務Ⅲ」「医療事務Ⅳ」は、同学期に全ての科目を履修する必要があります。

## 【コミュニティ福祉学科】

・「メンタルヘルス」	2 単位
・「医療事務Ⅰ」	2 単位
・「医療事務Ⅱ」	2 単位
・「医療事務Ⅲ」	2 単位
・「医療事務Ⅳ」	2 単位
・「ビューティービジネスⅠ」	2 単位
・「ビューティービジネスⅡ」	2 単位
・「ネイルケア・ネイルアートⅠ」	2 単位
・「ネイルケア・ネイルアートⅡ」	2 単位
・「アロマセラピー」	2 単位
・「日本茶アドバイザー」	2 単位
・「茶の湯」	2 単位

上記科目は、専門教育科目の展開科目に含めます。履修人数には上限があるため調整する場合があります。また、「医療事務Ⅰ」「医療事務Ⅱ」「医療事務Ⅲ」「医療事務Ⅳ」は、同学期に全ての科目を履修する必要があります。

## ■ふじのくに地域・大学コンソーシアム短期集中講義単位互換制度

2016 年度に締結した単位互換協定に基づき、1 年間に 6 単位まで履修することができます。この単位は、基礎教育科目の総合教養科目「地域の理解」の卒業要件単位となります。

前期開講科目は 2 年生から、後期開講科目は 1 年生から履修できます。どちらの科目も卒業年次の学生は履修できません。

### 3 授業

#### ■授業時間

第1時限	8:50～10:20
第2時限	10:30～12:00
昼休み	12:00～12:50
第3時限	12:50～14:20
第4時限	14:30～16:00
第5時限	16:10～17:40
(第6時限)	(17:50～19:20)

授業は定期試験とは別に半期15コマを基本としています。休講となった授業については補講を実施します。学期末に補講期間を設けてありますが、金曜日の第5限目または平日の第6時限目や土曜日の午後の時間帯に行うことがあります。

#### ■休講

- (1) 休講の連絡は、ポータルサイトで確認ができます。
- (2) 休講の掲示が出ていないにもかかわらず、開始時間を20分以上経過しても担当教員が現れない場合は、学部事務室に連絡して指示を受けてください。
- (3) 休講となった科目は、必ず補講があるので、ポータルサイトの掲示に注意してください。

#### ■気象警報発令等による休講について

- (1) 気象警報発令等による休講は以下を基準とし、状況により弾力的に扱います。

警報等 判断時点	特別警報	緊急安全 確保	暴風警報	大雨 or 洪水警報 かつ 交通遮断	避難指示
	午前7時	終日休講		午前休講または休日休講	
午前11時	-	-	午後休講		

「警報」・・・気象庁により静岡県中部南に発令されるもの

「緊急安全確保」「避難指示」・・・静岡市により駿河区に発令されるもの

「交通遮断」・・・藤枝駅～富士駅 の JR 東海在来線の不通をいう

- (2) 自宅や通学路を含む地区に警報等が出ている場合は、各自安全に十分配慮し、自宅待機や避難等の安全策を講じてください。
- (3) オンライン授業は原則休講になりません。対面授業をオンライン授業に変更して実施することがあります。
- (4) 上記以外（大規模地震等を含む）の場合において、授業を実施することが困難であると予想される場合には休講とすることがあります。
- (5) 気象警報発令等による休講については、ポータルサイトでお知らせします。

## ■遅刻・欠席について

学生には、興味・関心のある分野の勉学に没頭できるよう、自由な時間と機会が与えられています。しかし、決して自由気ままに遅刻・欠席をしていいわけではありません。毎日の授業は、学問を追求し自分を磨くために不可欠な要件です。遅刻・欠席のないよう自律し、自己管理してください。また、真剣に学ぼうとしている学生の迷惑にならないようにしてください。正当な理由なく、出席が規定の授業時間数の70%に満たない者の評価は「F（不合格）」となり、定期試験の受験資格が与えられません。

(1) 20分以上の遅刻や離席は欠席として扱います。

(2) 遅刻3回で欠席1回として扱います。

なお、20分以内であっても遅刻した場合や授業中に教室を出入りした場合は、入室・受講を断ることもあります。さらに授業中の私語等には退室を命じることもあります。

## ■欠席の手続き

(1) 欠席が1週間以内の場合は、各自で授業科目担当教員に伝える。

(2) 欠席が1週間以上にわたる場合、また集中講義を欠席する場合は、欠席の理由を示す書類（任意）を添えて「欠席届」（所定用紙）を学部事務室に提出する。

(3) 就職採用試験等の受験（3年生12月から）の場合は、キャリア支援課所定の「欠席届」に必要な事項を記入のうえ、課長の許可印を受けて授業科目担当教員に提出する。

(4) 進学・編入試験の受験の場合は、各自で授業科目担当教員に伝える。

(5) 実習（教育実習、ソーシャルワーク実習、介護体験、保育実習）に係わる欠席の場合は、実習担当教員の指示に従う。

## ■公認欠席（公欠）

公認欠席は、欠席を出席扱いにするという意味ではなく、あくまで欠席であるが、出席数が定期試験受験資格に関係してくるような場合に考慮をするという意味です。

## ■公認欠席届・欠席届の提出

「公認欠席届」「欠席届」は、欠席最終日を含めて14日以内に提出する。ただし、年間行事予定表記載の学校一斉休業日は日数に含まない。14日を過ぎた場合は、事情の如何に関わらず原則として受理しません。

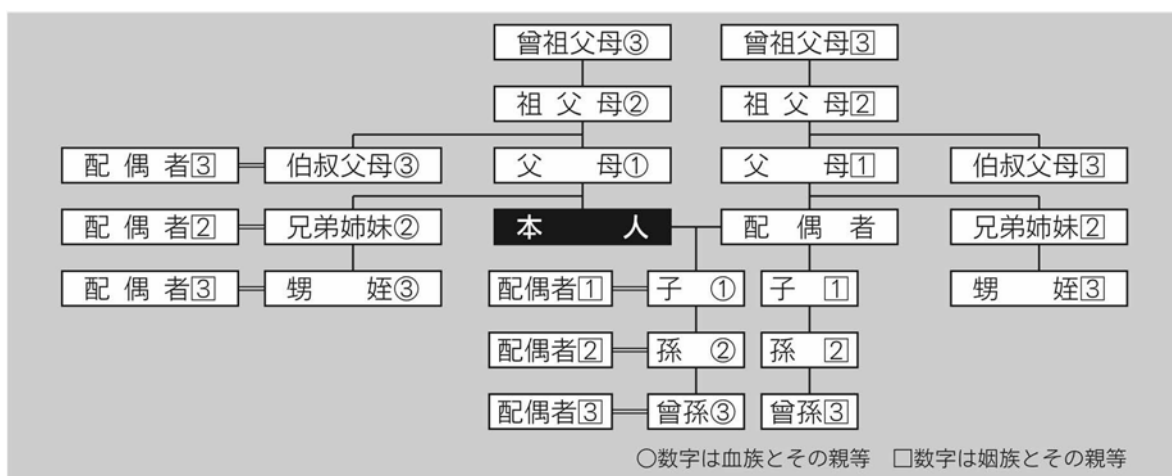
## ■公欠として認められる欠席

種類	内容及び日数	手続き	添付書類等
忌引	公欠表①を参照してください。	・登校後速やかに「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・会葬礼状等 ・「公認欠席届」に保証人の署名
課外活動	公式試合の出場、公式研究会への参加など大学が承認したものにつき原則として3日間とする。但し、リーグ戦等長期にわたる大会、遠隔地会場での出場についてはこの限りではない。	・学生は、事前に「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・「公認欠席届」に学生部長の確認印

伝染病・感染症	公欠表②を参照してください。	・登校後速やかに「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・医師の診断書等 ・新型コロナウイルス、インフルエンザの場合は経過報告書で代用可
国、地方自治体による行事への招へい等	主催者から学長宛の参加要請、委嘱等のあった場合であって、学長が認めたもの。	・参加することとなった学生は、事前に「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・本人宛又は学長宛の招へい通知・委嘱状等の写し
天災、交通機関の事故によるもの	風水害等天災、又は交通機関の事故により通学に支障を来たすことになった場合であって、復旧するまでの間	・登校後速やかに「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・交通機関の発行する遅延証明書
その他	・出身校開催の大学説明会への参加 ・本学が必要と認めた行事への参加 ・本学が推奨するボランティア参加 ・その他学長が特に必要と認めた場合	・学生は、事前に「公認欠席届」を学部事務室に提出する。	・参加する行事の開催を証明するもの

※就職活動に関する欠席は、キャリア支援課で手続きの上、科目担当者に届を提出すること。

[公欠 表①]



忌引きの扱いは3親等以内とし、忌引き日数は以下の通り。

1親等以内……………7日    2親等……………3日    3親等……………1日

なお、忌引きとする期間は連続した日数とし、授業のない日や土日祝日を含んだ日となるので注意が必要。

〔公欠 表②〕

伝染病・感染症 下記の学校感染症に感染または感染の恐れがあると、医師から診断された場合は、医師の許可があるまで登校してはならない。出席停止期間については、他の学生ならびに教職員への感染を防ぐために、必ず守ること。

●第一種学校感染症

出席停止期間	治癒するまで
エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルク病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、南米出血熱、重症急性呼吸器症候群（SARS ウィルスによるもの）、痘瘡、中東呼吸器症候群（MERS ウィルスによるもの）、特定鳥インフルエンザ、これから発生する新型インフルエンザや新型重症急性呼吸器症候群を含む新感染症および指定感染症	

●第二種学校感染症

病名	出席停止期間
新型コロナウイルス	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで
インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く）	発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過するまで
百日咳	特有の咳が消失するまで、 又は 5 日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹（はしか）	解熱した後 3 日を経過するまで
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺の膨張が発現した後 5 日を経過し、 全身状態が良好になるまで
風疹（三日はしか）	発疹が消失するまで
水痘（水ぼうそう）	全ての発疹が痂皮化するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	主要症状が消褪した後 2 日を経過するまで
結核	病状により医師が感染の恐れがないと認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	病状により医師が感染の恐れがないと認めるまで

●第三種学校感染症

出席停止期間	病状により医師が感染の恐れがないと認めるまで
流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、腸管出血性大腸菌感染症（O-157 など）、腸チフス、パラチフス、コレラ、細菌性赤痢、マイコプラズマ肺炎や溶連菌感染症、ノロウィルスその他感染症	

## 4 定期試験

### ■試験の種類・方法

定期試験…… 行事予定表に設定された各学期末の定期試験期間内に実施する単位認定のための試験のこと。前期定期試験中には前期履修科目の、後期定期試験中には後期履修科目および通年科目の試験を実施します。

追試験…… やむを得ない理由により定期試験を受験できなかった者に対し実施します。

再試験…… 原則として実施しません。ただし、最終学年で卒業に係る場合など、授業担当教員が認めた場合に限り考慮します。

その他の試験…小テスト等、授業担当者が必要と認めた場合随時行います。

※追試験および再試験の受験には所定の手続きが必要です。

### ■受験資格の喪失

次のいずれかの項目に該当する者は受験資格が与えられません。

- ① 正当な理由がなく、出席が規定の授業時間数の70%に満たない者
- ② 当該科目の履修登録をしていない者
- ③ 学費未納者

### ■受験上遵守すべき規則

- ① 試験場では、すべて監督者の指示に従うこと。
- ② 必ず学生証を携行して机の上に置き、監督者の確認を受けなくてはならない。
- ③ 学生証を忘れた者は受験できない。学部事務室で所定の手続きをとり、「定期試験等受験票」の交付を受け、机の上に明示する。
- ④ カバン等の荷物はまとめて椅子の下または足元に置く。
- ⑤ 机の上に置いてよいものは、学生証、筆記用具、その他持ち込みを許可された物だけとする。筆入れは机に出しておかない。
- ⑥ 教科書・ノート・参考書等の持込みは許可された場合に限る。
- ⑦ 携帯電話・スマートフォンの類は必ず電源を切り、カバン等の中に入れ足元に置く。
- ⑧ スマートウォッチを含め、電子機器の使用を禁止する。
- ⑨ 遅刻をしないこと。やむを得ない事情がある場合は、試験開始後20分までは受験を許可するが、これを超えた場合は認めない。
- ⑩ 試験監督者の許可があれば、試験開始後30分経過してから退出することができる。
- ⑪ 答案には学生番号および氏名を明瞭に記入する。無記名の答案は無効とする。
- ⑫ 答案は必ず提出する。提出しない場合は不正行為とみなす。
- ⑬ 試験実施中、廊下や階段では静粛にし、その場に留まらないようにする。
- ⑭ 不正行為や不正行為と疑われるような行為は絶対にしてはならない。

### ■不正行為

不正行為または不正行為と疑われるような行為を行った場合、または、行ったと監督者が認めた場合は、直ちに退室させ、当該科目を不合格とし単位を認めない。また、「定期試験等の試験における不正行為者の処分に関する規程」に依り懲戒処分となる。さらに、不正行為の内容等によっては当該年度のすべての履修科目の単位が認められなくなる。

## 不正行為および不正行為とみなされる行為の例

- ・他人の学生証で受験すること。
- ・他人の答案を見て書くこと。他人に答案を見せること。
- ・他人から解答を教えてもらうこと。他人に解答を教えること。
- ・試験開始後、私語をすること。
- ・カンニングペーパーおよびそれに類するものを持ち込むこと。使用すること。
- ・持ち込みが許可されていない文献等を持ち込むこと。使用すること。
- ・試験中に物品を貸借すること。
- ・受験上遵守すべき規則に反すること。
- ・監督者および補助監督者の指示に反する行為をすること。
- ・その他各項に類すると認められる行為。

## ■定期試験の欠席

- (1) やむを得ない事情により定期試験を欠席する場合は、**当該科目の試験開始時刻までに**、本人または保証人がその旨を学部事務室に連絡し指示を受けてください。
- (2) 期日までに手続きがない場合、また、無断で欠席した場合は、**受験放棄とみなし追試験の受験は認められません。**

## ■追試験

- (1) 追試験が認められる場合

ア 病気の場合	……………	医師の診断書等
イ 忌引きの場合	……………	会葬礼状等
ウ 就職試験や就職決定先の研修等	……………	キャリア支援課の証明書
エ 編入・進学試験	……………	受験を証明する書類
オ 公共交通機関（バス・鉄道）の遅延	……………	遅延証明書
カ その他特別な事情	……………	事由書（保証人連署）

- (2) 追試験受験のために必要な手続き

- ア 追試験を受験しようとする者は、**当該試験科目の開始時間までに**、欠席する試験科目と欠席理由を学部事務室に電話にて連絡する。
- イ 事前に連絡のあった学生に「追試験願」を渡す。
- ウ 追試験を受験しようとする者は、**試験日を含めて7日以内に**、受け取った「追試験願」に必要事項を記入し、(1)の各項目に記した証明書類を添付し、学部事務室に提出する。
- エ **追試験発表日（その翌日まで）**に、受験料（1科目 500円）を学部事務室に納入する。
- オ 納入時に交付される「追再試験受験票」を受け取り、受験の際に学生証とともに机の上に明示する。

- (3) 追試験および再試験の、追試験や再試験は実施しません。

## ■再試験（原則として実施しません）

- (1) 最終学年で卒業に係る場合については、授業担当教員が認めた場合に限り実施について考慮します。
- (2) 再試験の受験手続
  - ア **再試験発表日（その翌日まで）**に、受験料（1科目 1000円）を学部事務室に納入する。
  - イ 納入時に交付される「追再試験受験票」を受け取り、受験の際に学生証とともに机の上に明示する。

### (3) 再試験の成績評価

再試験の成績評価は、C（合格）またはF（不合格）のいずれかとします。

#### ■定期試験に代わるレポート提出

- ・提出期限、提出場所を必ず確認する。提出期限に遅れたものは受取ることができません。
- ・学生番号、氏名、タイトル等の必要事項を忘れないこと。
- ・散逸しないようにホッチキス等で留めて提出のこと。
- ・一旦レポートボックスに提出したレポートは、再び取り出せません。
- ・ネットや他人のレポートのコピーは不正行為とみなします。

#### ■定期試験等受験のための配慮

障害等により定期試験等の受験に困難を伴う学生に対して、可能な限り受験上の配慮をします。

(1) 受験上の配慮が必要な学生は「**定期試験等の受験に関する配慮願**」（以下「**配慮願**」という。）を学生修学サポートセンター（以下「**センター**」という。）へ提出してください。

配慮願には医師の診断書等を添付してください。ただし、「合理的配慮の提供に関する申請書」（以下「**申請書**」という。）を提出している学生は、診断書等添付の必要はありません。

(2) 配慮を希望する学生は配慮願の提出前に必ずセンターに相談してください。相談に基づき、センターが配慮の適否や配慮の内容や実施方法について試験科目担当教員（以下「**教員**」という。）と調整します。

(3) 学生・教員・センターの三者で配慮内容の調整がついた段階で配慮願を提出してください。センターは配慮願の内容を学部事務室に報告します。

(4) 障害の種類及び程度により、以下のような配慮が考えられます。

- ア 試験時間の延長（通常の試験時間の1.5倍まで）
- イ 個別の試験時間割の作成
- ウ 別室受験
- エ パソコン使用による受験（パソコン及びフラッシュメモリーは持参する）
- オ 板書や指示カード等、文字による受験に関する指示
- カ 試験をレポート等で代替する場合は、パソコン、録音テープの使用、また第三者による代筆
- キ その他（原則として「大学共通テスト 受験上の配慮案内」に準ずる。）

(5) 受験上の配慮については調整に時間がかかる場合がありますので、必要かどうかも含めて早めに教員やセンターに相談してください。

また、相談内容は教員、センター、学部事務室で共有し、円滑な配慮の実施に努めます。

## 5 成績評価

### ■ GPA制度

成績評価をより明確にし、学生自身が自らの進捗を把握することにより、授業に対する意識を高め、学修に役立てることを目的として、2009年度より従来の優、良、可、不可の評価方法に代わるGPA制度を導入しています。

### ■ GPA (Grade Point Average)

GPAとは、履修登録科目の成績をS、A、B、C、Fの5段階で評価し、Sにグレードポイント(GP)4点、Aに3点、Bに2点、Cに1点、Fに0点を割り振り、それぞれの単位数を掛け、その合計ポイントを履修単位数の総和で割って出した平均点のことです。

$$GPA = \frac{[(\text{科目の単位数}) \times (\text{成績評価グレードポイント})] \text{の総和}}{\text{履修登録科目の総単位数 (不合格科目の単位を含む)}}$$

### ■成績評価の方法・基準

成績評価は、定期試験の得点のみで評価するのではなく、授業担当教員がシラバスに明示した評価の方法・基準に基づき、準備学習、小テスト、レポート、日常の授業への取り組み等々を総合的に判断して出した成績(総合点)をもとに、下記の判定基準によりSからFまでの評価をします。

### ■判定基準

評価	成績(総合点)	判定	GP	内容
S	100点～90点	合格	4	特に優秀な成績
A	89点～80点		3	すぐれた成績
B	79点～70点		2	その科目の要求を満たす成績
C	69点～60点		1	合格と認められる最低限の成績
F	59点以下 および 履修放棄	不合格	0	合格ラインに達していない成績 期間内に履修辞退の手続きを取らなかったもの出席数 不足などで受験資格を喪失したもの
P	成績評価はしない	合格/不合格(F)	—	合格すれば単位を認定するがGPに換算しない

※指定された期限内に履修辞退の手続きを済ませたものは評価の対象から除きます。

※次の科目は、評価をPとして扱います。

人間社会学部

キャリアデザイン演習Ⅰ・Ⅱ、キャリア形成論、インターンシップ、心理実習

人間社会学科

外国文化フィールドワーク、日本文化フィールドワーク

コミュニティ福祉学科

海外福祉現地研究

## ■ GPAの利用

毎学期のGPAを参考に、学生一人ひとりに対して、ゼミ担任またはクラス担任からきめ細かな指導が行われます。場合によっては、保証人（保護者）との面談もあります。

- (1) 1年次の前期のGPAが1.5未満または修得単位数が12単位未満の場合、1年次後期開始時に教務部長による集団指導を行う。また、必要があれば、ゼミ担当教員、教務部長あるいは学科長が個別指導も行う。
- (2) 1年次の通年GPAが1.0未満または修得単位数が24単位未満の場合、2年次前期開始時に学科長による集団指導を行う。また、必要があれば、ゼミ担当教員あるいは学科長が個別指導も行う。
- (3) 2年次後期以降、前学期ごとのGPAが1.0未満または修得単位数が12単位未満（4年次を除く）の場合、ゼミ担当教員による個別指導を行う。
- (4) 2期連続して上記学習指導の対象となった学生に対しては、ゼミ担当教員あるいは学科長が、本人と面談を行い、その保証人に連絡を行う。
- (5) 3期連続して学習指導の対象となった学生に対しては、ゼミ担当教員及び学科長が、本人およびその保証人に対して面談を行い、必要に応じて退学の勧告を行う場合がある。

## ■「成績表」・「成績証明書」

- (1) 成績表はポータルサイトの修学ポートフォリオから確認ができます。
- (2) 「成績表」は、成績発表日等に更新されます。成績発表日は年間行事予定表を確認してください。
- (3) 「成績表」は、保証人にも通知されます。
- (4) 「成績証明書」には、不合格科目は表示されません。GPAは通算のみ表示されます。

## ■成績異議申立制度

ポータルサイトに掲載された成績評価に関して疑問がある場合や異議を申し立てたい場合は、成績発表日を含めて7日以内に「成績評価に関する異議申立書」（所定用紙）へ必要事項を記入のうえ、学部事務室に提出してください。ただし、正当な理由がある場合に限りです。

## 6 CAP制度

学生が履修登録した科目に責任を持ち、自主的、意欲的な学習に取り組み、学んだ知識や技能をより深くかつ確実なものとするため、CAP制度を導入し、下表に示すように年間の履修登録単位数に上限を設けています。また、前期で不合格となった科目の単位数を、後期の履修に持ち越すことはできません。

### ■年間履修登録単位数の上限

#### 【人間社会学部】

学年	1年次
上限単位数	44単位まで

(1) 前期試験結果によるGPAが3.4以上の場合特例超過単位(4単位)を認めます。

(2) 次の各項に該当する科目はCAP制度を適用しません。

ア 集中講義科目

#### 【人間社会学科】(学年によるCAP制度)

学年	2年次	3年次	4年次
上限単位数	38単位まで	38単位まで	46単位まで

(1) 前学年終了時点でのGPA(前後期通算)が3.4以上の場合特例超過単位(4単位)を認めます。

(2) 次の各項に該当する科目はCAP制度を適用しません。

ア 集中講義科目

イ 国語科、英語科、公民科の教職課程選択者

#### 【コミュニティ福祉学科】(GPAによるCAP制度)

GPA	2.5以上	1.5以上2.5未満	1.5未満
上限単位数	48単位まで	44単位まで	40単位まで

(1) 前学年終了時点でのGPA(前後期通算)によって年間履修登録単位数の上限を定めます。

(2) 次の各項に該当する科目はCAP制度を適用しません。

ア ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、幼稚園教育実習、インターンシップ、海外福祉現地研究、スクールソーシャルワーク実習

イ 集中講義科目

ウ 福祉科の教職課程選択者

エ 学科で承認された公認心理師課程選択者

オ 資格免許取得を希望する3年次編入生

# 7 その他

## ■科目ナンバリングについて

「科目ナンバリング」とは、教育課程の体系が理解しやすくなるよう、科目間の連携や科目内容等を表現する番号を付したものです。具体的には、学年、分野、その科目のカリキュラム上の分類、授業のタイプ等、その番号を見れば全科目の中でその科目がどのような位置にあるかがわかります。

本学では、以下のコード分配規則によって番号付けをしています。

コード分配規則

学問分野 アルファベット 3桁	学部学科 数字1桁	科目の位置づけ 数字 2桁		対象学年 数字1桁	通し番号 数字 2桁
学問分野を アルファベット 3文字で表します。 以下の表をご参照 ください。	1 人間社会学部 人間社会学科	1 基礎教育科目	1 コモンベーシック	1 1年次から開講	01~99
	2 人間社会学部 コミュニティ福祉学科		2 総合教養科目	2 2年次から開講	
	3 人間社会学部共通		3 人間の理解	3 3年次から開講	
	4 短期大学部 現代コミュニケーション学科		4 自然と社会	4 4年次から開講	
	5 短期大学部 食物学科		5 言語表現力		
	6 短期大学部共通		6 情報処理		
			7 健康管理		
			0 教職科目		
			1 基礎科目 ・基本科目		
			2 基幹科目		
			3 展開科目		
			4 演習科目		
			5 キャリア科目		
			6 食物必修科目		
	7 食物選択科目				

学問分野細目

略称	細目英文	分野細目	略称	細目英文	分野細目
ACC	accounting	会計学	HSS	health/sports science	健康科学
AMP	anatomical physiology	解剖生理学	INF	Informatics	情報学
ART	art	芸術	INN	Information network	情報ネットワーク
BAS	basic seminar	基礎演習	INP	information processing	情報処理
BCM	biochemistry	生化学	INR	international relations	国際関係論
BIO	bioscience	生命科学	JAL	japanese literature	日本文学
BLG	biology	生物学	JLE	japanese language education	日本語教育
BRD	bridal	ブライダル	JLI	japanese linguistics	日本語学
BRM	bromatology	食品学	LAW	law	法学
BSN	business	ビジネス	LIE	literature in english	英米文学
BSS	basic science	基礎科学	LIG	literature in general	文学一般
CAE	career education	キャリア教育	LIN	linguistics	言語学
CHL	chinese literature	中国文学	MAN	management	経営学
CHR	christian studies	キリスト教	MDC	medicalclark	医療事務
CHS	childhood science	保育・幼児教育	MOF	money/finance	金融・ファイナンス
CKS	cooking science	調理学	MSC	music	音楽
CML	comparative literature	比較文学	MUD	Multimedia database	マルチメディア・データベース
CMS	communication studies	コミュニケーション学	NTE	nutrition education	栄養教育学
COS	communication seminar	コミュニケーション演習	NTS	nutrition science	栄養学
CUA	cultural anthropology	文化人類学	PBH	public health	公衆衛生学
ECO	economics	経済学	PHS	philosophy	哲学
EDU	education	教育学	PRI	Principles of Informatics	計算基盤
ELE	english language education	英語教育	PSY	psychology	心理学
ENL	english linguistics	英語学	SCL	sociology	社会学
ENV	environmental science	環境学	SEM	seminar	専門演習・総合演習
FAB	fashion and beauty	ファッション・ビューティー	SIH	studies in humanity	人間学
FDH	food hygienics	食品衛生学	SLM	school lunch management	給食管理
FDS	food science	フードサイエンス	SOF	Software	ソフトウェア
FLE	foreign language education	外国語教育	STA	statistics	統計学
GGR	geography	地理学	SWS	social welfare and social work studies	社会福祉学
HEH	home economics/human life	家政・生活学一般	THE	thesis	卒業論文
HIS	history	歴史学	TRS	tourism studies	観光学

- (例)
- ・番号が「MAN121101」: 経営学に位置づけられる人間社会学科・専門教育科目・基礎科目で1年生から履修できる科目。(通し番号1番)
  - ・番号が「SWS222209」: 社会福祉学に位置づけられるコミュニティ福祉学科・専門教育科目・基幹科目で2年生から履修できる科目。(通し番号9番)

◎入学年度別の科目ナンバリングを参照の上、各科目の位置づけの確認等に活用してください。

科目ナンバリング 2023年度入学生用

大学共通	
JLE311101	日本語表現法
JLE311102	日本語朗読法
JLE311103	日本語読解法
JLE311104	日本語文章構成法
ELE311101	総合英語基礎
ELE311102	英語リスニング&スピーキングⅠ
ELE311103	英語リスニング&スピーキングⅡ
ELE311104	英語スピーチクリニック
ELE311105	英語リスニングスキル
ELE311106	英語ポキャブラリービルディング
ELE311107	英語構文理解
ELE311108	総合英語応用Ⅰ
ELE311109	総合英語応用Ⅱ
ELE311110	総合英語応用Ⅲ
ELE311111	総合英語応用Ⅳ
ELE311112	総合英語応用Ⅴ
ELE311201	英語文章理解
ELE311202	英語文章表現法
CHR312101	キリスト教
CHR312103	キリスト教と現代社会
FLE311101	フランス語Ⅰ
FLE311102	フランス語Ⅱ
FLE311103	ドイツ語Ⅰ
FLE311104	ドイツ語Ⅱ
FLE311105	中国語Ⅰ
FLE311106	中国語Ⅱ
FLE311107	韓国語Ⅰ
FLE311108	韓国語Ⅱ
FLE311109	日本語Ⅰ
FLE311110	日本語Ⅱ
INN316101	ネットワーク・リテラシー
INN316201	Webクリエイター演習
PRJ316201	情報発信演習Ⅰ
SOF316101	情報発信演習Ⅱ
SOF316202	アルゴリズムとプログラミングの基本
INF316201	社会基盤のICT概論
MUD316201	データベース
CMS312101	異文化の理解
EDU312101	人間と教育
HIS312101	歴史と社会
HIS312102	静岡の歴史と文化
GG312101	静岡の自然と環境
GG312102	自然と災害
ENV312101	科学技術と地球環境
PHS312101	人間と哲学
BI0312101	生命の科学
LIG312101	人間と文学
LIG312102	静岡の風土と文学
HSS311101	健康と暇論
HSS311102	健康行動学
HSS311103	スポーツ実技Ⅰ
HSS311104	スポーツ実技Ⅱ
PSY312101	人間の心と行動
ECO312101	経済と社会
SCL312101	人間と社会生活
INR312101	現代の国際社会
LAW312101	社会生活と法
LAW312102	日本国憲法
NTS312101	健康と栄養科学
TRS312101	地域創造フィールドワーク
SIH321101	人間社会総論
SIH321102	人間学基礎
PSY321101	心理学基礎 (心理学概論)
SCL321101	社会学基礎
ECO321101	経済学基礎
MAN321101	経営学基礎
JAL321101	日本文化論基礎
LIE321101	英米文化論基礎
LIN321101	言語学基礎
SWS321101	社会福祉総論Ⅰ
SWS321102	社会福祉総論Ⅱ
SWS321103	地域福祉論Ⅰ
SWS321104	地域福祉論Ⅱ
INF321101	概理・データサイエンス・AI基礎

人間社会	
ACC122201	簿記原理
ACC123302	会計学
ACC123303	コンピュータ会計Ⅰ
ACC123304	コンピュータ会計Ⅱ
BAS124101	基礎演習Ⅰ
BAS124102	基礎演習Ⅱ
BAS124201	基礎演習Ⅲ
CAE122201	キャリア形成論
CAE122202	インターンシップ
CAE123301	キャリアデザイン演習Ⅰ
CAE123302	キャリアデザイン演習Ⅱ
CHL123301	中国文学研究
CML123301	日英比較文化論
CML123302	日米比較文化論
CMS122201	国際ビジネスコミュニケーション
CUA122201	文化人類学
ECO122201	ミクロ経済学
ECO122202	マクロ経済学
ECO123301	日本経済論
ECO123302	国際経済学
ELE122201	Communicative English I
ELE122202	Communicative English II
ELE123301	English Presentation Skills
ELE123302	Communicative English Advanced
ENL123301	英語学研究
ENL123302	英語構造論
ENL123303	日英語比較
INR123301	国際関係論
JAL122201	日本伝統文化論
JAL122202	日本近代文化論
JAL123101	日本文化フィールドワーク
JAL123201	書道Ⅰ
JAL123202	書道Ⅱ
JAL123301	日本文学ジャンル論
JAL123302	日本古典文学研究
JAL123303	日本近代文学研究
JLI123301	日本語学研究
JLI123302	日本語資料研究
LAW122201	法学概論
LAW122202	民法
LAW122203	商法
LAW122204	ビジネスと法
LIE122201	イギリス文化論
LIE122202	アメリカ文化論
LIE123101	外国文化フィールドワーク
LIE123301	イギリス文学研究
LIE123302	アメリカ文学研究
LIG122201	言語文化論
LIG122202	演劇論
LIG123301	児童文学研究
LIG123302	文芸創作技法
LIN123301	第二言語習得論
MAN122201	マーケティング論
MAN123302	流通システム論
MAN123304	起業・経営戦略実践論
MAN123305	ソーシャル・ビジネス論
MAN123306	中小企業論
MOF122201	金融論
MOF123301	国際金融論
MOF123302	ファイナンス論
PSY122201	心理学研究法
PSY122202	心理学実験Ⅰ
PSY122203	発達心理学
PSY122204	教育・学校心理学
PSY122205	学習・言語心理学
PSY122206	心理学特殊講義
PSY122207	社会・集団・家族心理学
PSY122208	臨床心理学概論
PSY123301	心理学実験Ⅱ
PSY123302	知覚・認知心理学
PSY123303	感情・人格心理学
PSY123304	神経・生理心理学
PSY123305	産業・組織心理学
PSY123306	教育相談 (心理学的支援法)
PSY123307	公認心理師の職業
PSY123308	心理的アセスメント
PSY123309	障害者・障害児心理学
PSY123310	福祉心理学
PSY123311	司法・犯罪心理学
PSY123312	関係行政論
PSY123313	心理演習
PSY123314	心理実習
SCL122201	地域社会学
SEM124201	専門演習Ⅰ
SEM124301	専門演習Ⅱ
STA122201	心理学統計法Ⅰ
STA122202	社会調査法
STA122202	アンケート調査法
STA123301	心理学統計法Ⅱ

THE124401	卒業研究
TRS122201	視光学
TRS122202	視光地域フィールドワーク論
TRS122203	視光学研究法
TRS122204	国際視光コミュニケーション
TRS122205	文化視光論
TRS123302	視光デザイン論
TRS123303	視光ビジネス事情
TRS123304	視光学特殊講義Ⅰ
TRS123305	視光学特殊講義Ⅱ
TRS123306	国際視光演習
TRS123307	視光産業特論Ⅰ
TRS123308	視光産業特論Ⅱ
TRS123309	地域政策論

コミュニティ福祉	
BAS224101	基礎演習Ⅰ
BAS224102	基礎演習Ⅱ
BAS224201	基礎演習Ⅲ
BAS224202	基礎演習Ⅳ
CAE223201	キャリア形成論
CAE223202	インターンシップ
CAE223203	キャリアスタディ
CAE223204	キャリアデザイン演習Ⅰ
CAE223304	キャリアデザイン演習Ⅱ
CHS222101	保育原理Ⅰ
CHS222102	保育原理Ⅱ
CHS222201	幼児教育課程総論
CHS222202	児童家庭福祉
CHS222203	保育内容総論
CHS222204	子どもの保健
CHS222206	保育内容論-健康
CHS222207	保育内容論-人間関係
CHS222208	保育内容論-環境
CHS222209	保育内容論-言葉
CHS222210	保育内容論-表現
CHS222211	子どもの食と栄養Ⅰ
CHS222212	子どもの食と栄養Ⅱ
CHS223101	乳児保育Ⅰ
CHS223102	乳児保育Ⅱ
CHS223103	ピアノ教育
CHS223104	音楽表現
CHS223105	造形Ⅰ
CHS223106	造形Ⅱ
CHS223201	保育内容演習-健康
CHS223202	保育内容演習-人間関係
CHS223203	保育内容演習-環境
CHS223204	保育内容演習-言葉
CHS223205	保育内容演習-表現
CHS223206	保育・表現
CHS223208	障害児保育Ⅰ
CHS223209	障害児保育Ⅱ
CHS223210	子どもと言葉
CHS223211	保育実習Ⅰ (保育所)
CHS223212	保育実習指導Ⅰ (保育所)
CHS223213	社会的養護内容
CHS223214	音楽療法入門
CHS223215	歌唱伴奏法
CHS223301	幼児理解
CHS223302	教育・保育相談
CHS223304	レクリエーション論Ⅰ
CHS223305	レクリエーション論Ⅱ
CHS223306	子ども家庭支援論
CHS223308	保育実習Ⅱ (施設)
CHS223309	保育実習指導Ⅱ (施設)
CHS223310	幼稚園教育実習指導
CHS223311	幼稚園教育実習
CHS223312	子どもの健康と安全
CHS223317	子ども家庭支援の心理学
CHS223318	ミュージカルⅠ
CHS223319	ミュージカルⅡ
CHS223401	保育実習Ⅲ
CHS223402	保育実習Ⅳ
CHS223403	保育実習指導Ⅱ
CHS223404	保育実習指導Ⅲ
CHS223405	保育実習Ⅴ (幼稚園)
EDU220101	教育原理
EDU220103	教育社会学
EDU220201	教師論
EDU220202	教育方法論 (ICT活用の理論と実践を含む)
EDU220203	幼児教育の方法と技術
HEH223301	生活学

PSY222201	発達心理学
PSY222202	保育の心理学
PSY222203	教育・学校心理学
PSY222204	心理学特殊講義
PSY222205	社会・集団・家族心理学
PSY223301	心理学
PSY223302	臨床心理学概論
PSY223303	感情・人格心理学
PSY223304	障害者・障害児心理学
PSY223305	心理的アセスメント
PSY223306	教育相談 (心理学的支援法)
PSY223307	福祉心理学
PSY223308	司法・犯罪心理学
PSY223309	産業・組織心理学
PSY223310	心理実習
PSY223311	心理演習
SCL222201	社会理論と社会システム
SEM224301	専門演習Ⅰ
SEM224302	専門演習Ⅱ
STA222201	社会調査法
SWS222201	ソーシャルワーク論Ⅰ
SWS222202	ソーシャルワーク論Ⅱ
SWS222203	ソーシャルワーク論Ⅲ
SWS222204	ソーシャルワーク論Ⅳ
SWS222205	社会保障論Ⅰ
SWS222206	社会保障論Ⅱ
SWS222207	公的扶助論
SWS222208	福祉サービスの組織と経営
SWS222209	高齢者福祉論
SWS222210	介護概論
SWS222211	障害者福祉論
SWS222212	医療福祉論
SWS222213	社会的養護
SWS223101	海外福祉現地研究
SWS223102	ICTと福祉
SWS223103	障害者サポート
SWS223201	相談援助演習Ⅰ
SWS223202	相談援助演習Ⅱ
SWS223203	相談援助演習Ⅲ
SWS223204	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
SWS223205	スクールソーシャルワーク演習
SWS223206	ソーシャルワーク論Ⅴ
SWS223302	ソーシャルワーク論Ⅵ
SWS223304	司法福祉論
SWS223306	権利擁護を支える法制度
SWS223308	相談援助演習Ⅳ
SWS223309	相談援助演習Ⅴ
SWS223310	スクールソーシャルワーク演習
SWS223311	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
SWS223312	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
SWS223314	国際福祉
SWS223315	老年学
SWS223316	介護技術論
SWS223317	総合リハビリテーション論
SWS223319	人間の構造と機能及び疾病
SWS223320	精神保健論 (精神疾患とその治療)
SWS223321	女性福祉論
SWS223323	ソーシャルワーク実習Ⅰ
SWS223324	ソーシャルワーク実習Ⅱ
SWS223325	ソーシャルサービス・イノベーション演習
SWS223326	NPO論
SWS223401	社会福祉特講Ⅰ
SWS223402	社会福祉特講Ⅱ
SWS223403	スクールソーシャルワーク実習指導
SWS223404	スクールソーシャルワーク実習
THE224401	卒業研究

教職	
EDU320201	教育課程の意義と編成の方法
EDU320202	学校体験活動
EDU320203	生徒指導 (進路指導とキャリア教育を含む)
EDU320204	特別活動と総合的な学習の時間の指導法
EDU320205	道徳の理論と指導法
EDU120201	国語科教育法Ⅰ
EDU120202	英語科教育法Ⅰ
EDU320301	特別支援教育
EDU120301	国語科教育法Ⅱ
EDU120302	国語科教育法Ⅲ
EDU120303	公民科教育法Ⅰ
EDU120304	公民科教育法Ⅱ
EDU120305	英語科教育法Ⅱ
EDU120306	英語科教育法Ⅲ
EDU220301	福祉科教育法Ⅰ
EDU220302	福祉科教育法Ⅱ
EDU120401	国語科教育法Ⅳ
EDU120402	英語科教育法Ⅳ
EDU320401	教育実習Ⅰ
EDU320402	教育実習Ⅱ-A
EDU320403	教育実習Ⅱ-B
EDU320404	教職実践演習 (中・高)

科目ナンバリング 2024・2025・2026 年度入学生用

大学共通	
JLE311101	日本語表現法
JLE311102	日本語朗読法
JLE311103	日本語読解法
JLE311104	日本語文章構成法
ELE311101	総合英語基礎
ELE311102	英語リスニング&スピーキングⅠ
ELE311103	英語リスニング&スピーキングⅡ
ELE311104	英語スピーチクリニック
ELE311105	英語リスニングスキル
ELE311106	英語ポキャブラリービルディング
ELE311107	英語構文理解
ELE311108	総合英語応用Ⅰ
ELE311109	総合英語応用Ⅱ
ELE311110	総合英語応用Ⅲ
ELE311111	総合英語応用Ⅳ
ELE311112	総合英語応用Ⅴ
ELE311201	英語文章理解
ELE311202	英語文章表現法
CHR312101	キリスト教
CHR312103	キリスト教と現代社会
FLE311101	フランス語Ⅰ
FLE311102	フランス語Ⅱ
FLE311103	ドイツ語Ⅰ
FLE311104	ドイツ語Ⅱ
FLE311105	中国語Ⅰ
FLE311106	中国語Ⅱ
FLE311107	韓国語Ⅰ
FLE311108	韓国語Ⅱ
FLE311109	日本語Ⅰ
FLE311110	日本語Ⅱ
INN316101	ネットワーク・リテラシー
INN316201	Webクリエイター演習
PRO316201	情報発信演習Ⅰ
SOF316101	情報発信演習Ⅱ
SOF316202	アルゴリズムとプログラミングの基礎
INF316201	社会基盤のICT概論
MUD316201	データベース
CMS312101	異文化の理解
EDU312101	人間と教育
HIS312101	歴史と社会
HIS312102	静岡の歴史と文化
GG312101	静岡の自然と環境
GG312102	自然と災害
ENV312101	科学技術と地球環境
PHS312101	人間と哲学
BI0312101	生命の科学
LIG312101	人間と文学
LIG312102	静岡の風土と文学
HSS311101	健康と栄養
HSS311102	健康行動学
HSS311103	スポーツ実技Ⅰ
HSS311104	スポーツ実技Ⅱ
PSY312101	人間の心と行動
ECO312101	経済と社会
SCL312101	人間と社会生活
INR312101	現代の国際社会
LAW312101	社会生活と法
LAW312102	日本国憲法
NTS312101	健康と栄養科学
TRS312101	地域創造フィールドワーク
SIH321101	人間社会総論
SIH321102	人間学基礎
PSY321101	心理学基礎(心理学概論)
SCL321101	社会学基礎
ECO321101	経済学基礎
MAN321101	経営学基礎
JAL321101	日本文化論基礎
LIE321101	英米文化論基礎
LIN321101	言語学基礎
SWS321101	社会福祉総論Ⅰ
SWS321102	社会福祉総論Ⅱ
SWS321103	地域福祉論Ⅰ
SWS321104	地域福祉論Ⅱ
INF321101	概理・データサイエンス・AI基礎

人間社会	
ACC122201	簿記原理
ACC123302	会計学
ACC123303	コンピュータ会計Ⅰ
ACC123304	コンピュータ会計Ⅱ
BAS124101	基礎演習Ⅰ
BAS124102	基礎演習Ⅱ
BAS124201	基礎演習Ⅲ
CAE122201	キャリア形成論
CAE122202	インターンシップ
CAE123301	キャリアデザイン演習Ⅰ
CAE123302	キャリアデザイン演習Ⅱ
CHL123301	中国文学研究
CML123301	日英比較文化論
CML123302	日米比較文化論
CMS122201	国際ビジネスコミュニケーション
CUA122201	文化人類学
ECO122201	ミクロ経済学
ECO122202	マクロ経済学
ECO123301	日本経済論
ECO123302	国際経済学
ELE122201	Communicative English I
ELE122202	Communicative English II
ELE123301	English Presentation Skills
ELE123302	Communicative English Advanced
ENL123301	英語学研究
ENL123302	英語構造論
ENL123303	日英語比較
INR123301	国際関係論
JAL122201	日本伝統文化論
JAL122202	日本近代文化論
JAL123101	日本文化フィールドワーク
JAL123201	書道Ⅰ
JAL123202	書道Ⅱ
JAL123301	日本文学ジャンル論
JAL123302	日本古典文学研究
JAL123303	日本近代文学研究
JLI123301	日本語学研究
JLI123302	日本語資料研究
LAW122201	法学概論
LAW122202	民法
LAW122203	商法
LAW122204	ビジネスと法
LIE122201	イギリス文化論
LIE122202	アメリカ文化論
LIE123101	外国文化フィールドワーク
LIE123301	イギリス文学研究
LIE123302	アメリカ文学研究
LIG122201	言語文化論
LIG122202	演劇論
LIG123301	児童文学研究
LIG123302	文芸創作技法
LIN123301	第二言語習得論
MAN122201	マーケティング論
MAN123302	流通システム論
MAN123304	起業・経営戦略実践論
MAN123305	ソーシャル・ビジネス論
MAN123306	中小企業論
MOF122201	金融論
MOF123301	国際金融論
MOF123302	ファイナンス論
PSY122201	心理学研究法
PSY122202	心理学実験Ⅰ
PSY122203	発達心理学
PSY122204	教育・学校心理学
PSY122205	学習・言語心理学
PSY122206	心理学特殊講義
PSY122207	社会・集団・家族心理学
PSY122208	臨床心理学概論
PSY123301	心理学実験Ⅱ
PSY123302	知覚・認知心理学
PSY123303	感情・人格心理学
PSY123304	神経・生理心理学
PSY123305	産業・組織心理学
PSY123306	教育相談(心理学的支援法)
PSY123307	公認心理師の職業
PSY123308	心理的アセスメント
PSY123309	障害者・障害児心理学
PSY123310	福祉心理学
PSY123311	司法・犯罪心理学
PSY123312	関係行政論
PSY123313	心理演習
PSY123314	心理実習
SCL122201	地域社会学
SEM124201	専門演習Ⅰ
SEM124301	専門演習Ⅱ
STA122201	心理学統計法Ⅰ
STA122202	社会調査法
STA122202	アンケート調査法
STA123301	心理学統計法Ⅱ

THE124401	卒業研究
TRS122201	視光学
TRS122202	観光地域フィールドワーク論
TRS122203	観光学研究法
TRS122204	国際観光コミュニケーション
TRS122205	文化観光論
TRS123302	観光デザイン論
TRS123303	観光政策論
TRS123304	観光地誌学
TRS123305	観光地理学
TRS123306	国際観光演習
TRS123307	観光産業特論Ⅰ
TRS123308	観光産業特論Ⅱ
TRS123309	地域政策論

コミュニティ福祉	
BAS224101	基礎演習Ⅰ
BAS224102	基礎演習Ⅱ
BAS224201	基礎演習Ⅲ
BAS224202	基礎演習Ⅳ
CAE223201	キャリア形成論
CAE223202	インターンシップ
CAE223203	キャリアアスタディ
CAE223303	キャリアデザイン演習Ⅰ
CAE223304	キャリアデザイン演習Ⅱ
CHS222101	保育原理Ⅰ
CHS222102	保育原理Ⅱ
CHS222201	幼児教育課程総論
CHS222202	児童家庭福祉
CHS222203	保育内容総論
CHS222204	子どもの保健
CHS222206	保育内容論-健康
CHS222207	保育内容論-人間関係
CHS222208	保育内容論-環境
CHS222209	保育内容論-言葉
CHS222210	保育内容論-表現
CHS222211	子どもの食と栄養Ⅰ
CHS222212	子どもの食と栄養Ⅱ
CHS223101	乳児保育Ⅰ
CHS223102	乳児保育Ⅱ
CHS223103	ピアノ教育
CHS223104	音楽表現
CHS223105	造形Ⅰ
CHS223106	造形Ⅱ
CHS223201	保育内容演習-健康
CHS223202	保育内容演習-人間関係
CHS223203	保育内容演習-環境
CHS223204	保育内容演習-言葉
CHS223205	保育内容演習-表現
CHS223206	保育・表現
CHS223208	障害児保育Ⅰ
CHS223209	障害児保育Ⅱ
CHS223210	子どもと言葉
CHS223211	保育実習Ⅰ(保育所)
CHS223212	保育実習指導Ⅰ(保育所)
CHS223213	社会的養護内容
CHS223214	音楽療法入門
CHS223215	歌唱伴奏法
CHS223301	幼児理解
CHS223302	教育・保育相談
CHS223304	レクリエーション論Ⅰ
CHS223305	レクリエーション論Ⅱ
CHS223306	子ども家庭支援論
CHS223308	保育実習Ⅰ(施設)
CHS223309	保育実習指導Ⅰ(施設)
CHS223310	幼稚園教育実習指導
CHS223311	幼稚園教育実習
CHS223312	子どもの健康と安全
CHS223317	子ども家庭支援の心理学
CHS223318	ミュージカルⅠ
CHS223319	ミュージカルⅡ
CHS223401	保育実習Ⅱ
CHS223402	保育実習Ⅲ
CHS223403	保育実習指導Ⅱ
CHS223404	保育実習指導Ⅲ
CHS223405	保育実習Ⅰ(施設)
EDU220101	教育原理
EDU220103	教育社会学
EDU220201	教師論
EDU220202	教育方法論(ICT活用の理論と実践を含む)
EDU220203	幼児教育の方法と技術
HEH223301	生活学

PSY222201	発達心理学
PSY222202	保育の心理学
PSY222203	教育・学校心理学
PSY222204	心理学特殊講義
PSY222205	社会・集団・家族心理学
PSY223301	心理学
PSY223302	臨床心理学概論
PSY223303	感情・人格心理学
PSY223304	障害者・障害児心理学
PSY223305	心理的アセスメント
PSY223306	教育相談(心理学的支援法)
PSY223307	福祉心理学
PSY223308	司法・犯罪心理学
PSY223309	産業・組織心理学
PSY223310	心理実習
PSY223311	心理演習
SCL222201	社会理論と社会システム
SEM224301	専門演習Ⅰ
SEM224302	専門演習Ⅱ
STA222201	社会調査法
SWS222201	ソーシャルワーク論Ⅰ
SWS222202	ソーシャルワーク論Ⅱ
SWS222203	ソーシャルワーク論Ⅲ
SWS222204	ソーシャルワーク論Ⅳ
SWS222205	社会保障論Ⅰ
SWS222206	社会保障論Ⅱ
SWS222207	公的扶助論
SWS222208	福祉サービスの組織と経営
SWS222209	高齢者福祉論
SWS222210	介護概論
SWS222211	障害者福祉論
SWS222212	医療福祉論
SWS222213	社会的養護
SWS223101	海外福祉現地研究
SWS223102	ICTと福祉
SWS223103	障害者スポーツ
SWS223201	相談援助演習Ⅰ
SWS223202	相談援助演習Ⅱ
SWS223203	相談援助演習Ⅲ
SWS223204	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
SWS223205	スクールソーシャルワーク演習
SWS223206	ソーシャルワーク論Ⅴ
SWS223302	ソーシャルワーク論Ⅵ
SWS223304	司法福祉論
SWS223306	権利擁護を支える法制度
SWS223308	相談援助演習Ⅳ
SWS223309	相談援助演習Ⅴ
SWS223310	スクールソーシャルワーク実習
SWS223311	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
SWS223312	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
SWS223314	国際福祉
SWS223315	老年学
SWS223316	介護技術論
SWS223317	総合リハビリテーション論
SWS223319	人体の構造と機能及び疾病
SWS223320	精神保健論(精神疾患とその治療)
SWS223321	女性福祉論
SWS223323	ソーシャルワーク実習Ⅰ
SWS223324	ソーシャルワーク実習Ⅱ
SWS223325	ソーシャルサービス・イノベーション演習
SWS223326	NPO論
SWS223401	社会福祉特講Ⅰ
SWS223402	社会福祉特講Ⅱ
SWS223403	スクールソーシャルワーク実習指導
SWS223404	スクールソーシャルワーク実習
THE224401	卒業研究

教職	
EDU320201	教育課程の意義と編成の方法
EDU320202	学校体験活動
EDU320203	生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)
EDU320204	特別活動と総合的な学習の時間の指導法
EDU320205	道徳の理論と指導法
EDU120201	国語科教育法Ⅰ
EDU120202	英語科教育法Ⅰ
EDU320301	特別支援教育
EDU120301	国語科教育法Ⅱ
EDU120302	国語科教育法Ⅲ
EDU120303	公民科教育法Ⅰ
EDU120304	公民科教育法Ⅱ
EDU120305	英語科教育法Ⅱ
EDU120306	英語科教育法Ⅲ
EDU220301	福祉科教育法Ⅰ
EDU220302	福祉科教育法Ⅱ
EDU120401	国語科教育法Ⅳ
EDU120402	英語科教育法Ⅳ
EDU320401	教育実習Ⅰ
EDU320402	教育実習Ⅱ-A
EDU320403	教育実習Ⅱ-B
EDU320404	教職実践演習(中・高)

## 人間社会学科 カリキュラムマップ (2026年度版)

本学では学科ごとにディプロマポリシーを定めています。ディプロマポリシーとはどのような能力・資質を備えた学生に学位を授与するのかという方針です。

この表は各授業が学科のディプロマポリシーのどの項目と連動し、受講することでどのような力が伸ばすことができるのかを示しています。履修する上で参考してみてください。

### 【人間社会学科のディプロマポリシー】

1. (知識・理解) 社会、文化、自然についての幅広い知識・教養と、自らの専攻する学問分野における基本的、専門的な知識を修得している。
2. (技能・能力) 国際化、情報化、高度技術化が進む現代社会を総合的に捉える適切な判断力、実践力、コミュニケーション方法を身につけている。
3. (問題発見・解決力) 情報収集や情報分析を行い、自ら社会における問題を発見したり解決のアイデアを構想し、提案することができる。
4. (ジェネリックスキル) 他者の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自らの思いや考えも的確に表現、発信し、円滑なコミュニケーションを取って協働することができる。
5. (市民性の涵養) 現代社会の市民として多様な人々の存在、様々な文化、価値観の存在を理解し、建学の精神である愛と奉仕の実践に基づき、社会や他者のために主体的に行動し貢献できる。
6. (自律性・生涯学習力) 自らの目標を絶えず持ち、その実現のための学修行動に主体的、自律的に取り組むことができる。

## 人間社会学科 カリキュラムマップ (2026年度版)

### 基礎教育科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
日本語表現法	○	○	○	○	○	○
日本語朗読法	○	○	○	○	○	○
日本語読解法	○	○	○	○	○	○
日本語文章構成法	○	○	○	○	○	○
総合英語基礎	○	○	○	○	○	○
英語リスニング&スピーキングI	○	○	○	○	○	○
英語リスニング&スピーキングII	○	○	○	○	○	○
英語スピーチクリニック	○	○	○	○	○	○
英語リスニングスキル	○	○	○	○	○	○
英語ポキャブラリービルディング	○	○	○	○	○	○
英語構文理解	○	○	○	○	○	○
英語文章理解	○	○	○	○	○	○
英語文章表現法	○	○	○	○	○	○
総合英語応用II	○	○	○	○	○	○
総合英語応用III	○	○	○	○	○	○
総合英語応用IV	○	○	○	○	○	○
総合英語応用V	○	○	○	○	○	○
フランス語I	○	○	○	○	○	○
フランス語II	○	○	○	○	○	○
ドイツ語I	○	○	○	○	○	○
ドイツ語II	○	○	○	○	○	○
中国語I	○	○	○	○	○	○
中国語II	○	○	○	○	○	○
韓国語I	○	○	○	○	○	○
韓国語II	○	○	○	○	○	○
日本語I	○	○	○	○	○	○
日本語II	○	○	○	○	○	○
ネットワーク・リテラシー	○	○	○	○	○	○
情報発信演習I	○	○	○	○	○	○
情報発信演習II	○	○	○	○	○	○
Webクリエイター演習	○	○	○	○	○	○
社会基盤のICT概論	○	○	○	○	○	○
アルゴリズムとプログラミングの基本	○	○	○	○	○	○
データベース	○	○	○	○	○	○
健康余暇論	○	○	○	○	○	○
健康行動学(健康・医療心理学)	○	○	○	○	○	○
スポーツ実技I(バドミントン)	○	○	○	○	○	○
スポーツ実技I(卓球)	○	○	○	○	○	○
スポーツ実技II(バレーボール)	○	○	○	○	○	○
スポーツ実技II(バドミントン)	○	○	○	○	○	○
キリスト教	○	○	○	○	○	○
キリスト教と現代社会	○	○	○	○	○	○
人間と哲学	○	○	○	○	○	○
人間と教育	○	○	○	○	○	○
人間と文学	○	○	○	○	○	○
人間の心と行動	○	○	○	○	○	○
人間と社会生活	○	○	○	○	○	○
社会生活と法	○	○	○	○	○	○
日本国憲法	○	○	○	○	○	○
経済と社会	○	○	○	○	○	○
現代の国際社会	○	○	○	○	○	○
歴史と社会	○	○	○	○	○	○
異文化の理解	○	○	○	○	○	○
生命の科学	○	○	○	○	○	○
健康と栄養科学	○	○	○	○	○	○
自然と災害	○	○	○	○	○	○
科学技術と地球環境	○	○	○	○	○	○
静岡の自然と環境	○	○	○	○	○	○
静岡の歴史と文化	○	○	○	○	○	○
静岡の風土と文学	○	○	○	○	○	○
地域創造フィールドワーク	○	○	○	○	○	○

### 専門教育科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
人間社会総論(オムニバス)	○	○	○	○	○	○
人間学基礎	○	○	○	○	○	○
心理学基礎(心理学概論)	○	○	○	○	○	○
経済学基礎	○	○	○	○	○	○
経営学基礎	○	○	○	○	○	○
社会学基礎	○	○	○	○	○	○
英米文化論基礎	○	○	○	○	○	○
言語学基礎	○	○	○	○	○	○
社会福祉総論I	○	○	○	○	○	○
社会福祉総論II	○	○	○	○	○	○
地域福祉論I	○	○	○	○	○	○
地域福祉論II	○	○	○	○	○	○
教育・データサイエンス・AI基礎	○	○	○	○	○	○
日本文化論基礎	○	○	○	○	○	○
心理学研究法	○	○	○	○	○	○
心理統計法I	○	○	○	○	○	○
心理学実験I	○	○	○	○	○	○
発達心理学	○	○	○	○	○	○
教育・学校心理学	○	○	○	○	○	○
学習・言語心理学	○	○	○	○	○	○
心理学特講講義	○	○	○	○	○	○
社会・集団・家族心理学	○	○	○	○	○	○
臨床心理学概論	○	○	○	○	○	○
金融論	○	○	○	○	○	○
ミクロ経済学	○	○	○	○	○	○
マクロ経済学	○	○	○	○	○	○
マーケティング論	○	○	○	○	○	○
簿記原理	○	○	○	○	○	○
法学概論	○	○	○	○	○	○
民法	○	○	○	○	○	○
商法	○	○	○	○	○	○
ビジネスと法	○	○	○	○	○	○
観光学	○	○	○	○	○	○
文化観光論	○	○	○	○	○	○
文化人類学	○	○	○	○	○	○
社会調査法	○	○	○	○	○	○
アンケート調査法	○	○	○	○	○	○
観光地域フィールドワーク論	○	○	○	○	○	○
観光学研究法	○	○	○	○	○	○
地域社会学	○	○	○	○	○	○
イギリス文化論	○	○	○	○	○	○
アメリカ文化論	○	○	○	○	○	○
Communicative English I	○	○	○	○	○	○
Communicative English II	○	○	○	○	○	○
国際ビジネスコミュニケーション	○	○	○	○	○	○
国際観光コミュニケーション	○	○	○	○	○	○
日本伝統文化論	○	○	○	○	○	○
日本近代文化論	○	○	○	○	○	○
言語文化論	○	○	○	○	○	○
演劇論	○	○	○	○	○	○
キャリア形成論	○	○	○	○	○	○
インターンシップ	○	○	○	○	○	○

専門教育科目（前ページからのつづき）

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
心理学統計法Ⅱ	○	○	○			○
心理学実験Ⅱ	○	○	○	○		○
知覚・認知心理学	○		○			
感情・人格心理学	○			○		
神経・生理心理学	○		○		○	
産業・組織心理学	○		○			
教育相談（心理学的支援法）	○	○	○			
公認心理師の職責	○		○		○	○
心理的アセスメント	○	○	○			
障害者・障害児心理学	○	○	○			○
福祉心理学	○	○			○	
司法・犯罪心理学	○		○			
関係行政論	○		○		○	
心理演習	○	○	○			
心理実習		○				○
国際経済学	○		○	○	○	
国際金融論	○		○		○	
ファイナンス論	○		○	○	○	
日本経済論	○		○		○	○
流通システム論	○					
起業・経営戦略実践論	○	○	○	○		○
ソーシャル・ビジネス論	○	○	○	○	○	○
中小企業論						
会計学	○	○	○	○		○
コンピュータ会計Ⅰ	○	○	○	○		○
コンピュータ会計Ⅱ	○	○	○	○		○
観光政策論	○		○		○	
観光デザイン論		○	○			
観光地誌学	○	○	○	○	○	○
観光地理学	○	○	○	○	○	○
国際観光演習	○	○	○	○	○	○
国際関係論	○	○	○	○	○	○
地域政策論	○	○				
観光産業特論Ⅰ	○	○				
観光産業特論Ⅱ	○	○				
イギリス文学研究	○		○			○
アメリカ文学研究	○	○		○	○	○
日英比較文化論	○	○	○	○		○
日米比較文化論	○	○		○	○	○
異文化コミュニケーション論	○					
日英語比較	○	○	○	○	○	○
英語学研究		○				
第二言語習得論	○	○	○	○	○	○
English Presentation Skills	○	○	○			○
Communicative English Advanced	○	○	○			○
外国文化フィールドワーク				○	○	
日本文学ジャンル論	○	○	○	○	○	○
日本古典文学研究	○					
日本近代文学研究	○	○	○	○	○	○
児童文学研究	○	○	○	○	○	○
文芸創作技法	○	○		○	○	○
中国文学研究	○		○	○		
日本語学研究	○	○	○	○	○	○
日本語資料研究	○	○	○	○	○	○
日本文化フィールドワーク	○				○	○
書道Ⅰ		○		○		
書道Ⅱ		○		○		
キャリアデザイン演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○
キャリアデザイン演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
基礎演習Ⅰ		○	○	○		○
基礎演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
基礎演習Ⅲ	○	○	○	○	○	○
専門演習Ⅰ	講義毎のシラバスを確認してください。					
専門演習Ⅱ	講義毎のシラバスを確認してください。					
卒業研究	講義毎のシラバスを確認してください。					

教職科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
教育課程の意義と編成の方法	○				○	
国語科教育法Ⅰ	○	○		○	○	○
国語科教育法Ⅱ	○	○	○			○
国語科教育法Ⅲ	○	○	○	○	○	○
国語科教育法Ⅳ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅰ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅱ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅲ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅳ	○	○	○			○
公民科教育法Ⅰ	○	○	○	○	○	○
公民科教育法Ⅱ	○	○	○	○	○	○
道徳の理論と指導法						
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	○		○		○	
教育方法論(CT活用の理論と実践を含む)	○	○				
特別支援教育						
学校体験活動						
生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)	○					
教育相談(心理学的支援法)	○	○	○			
教職実践演習(中・高)	○		○			
教育実習Ⅰ	○					
教育実習Ⅱ-A					○	
教育実習Ⅱ-B					○	

コミュニティ福祉学科 カリキュラムマップ (2026年度版)

本学では学科ごとにディプロマポリシーを定めています。ディプロマポリシーとはどのような能力・資質を備えた学生に学位を授与するのかという方針です。

この表は各授業が学科のディプロマポリシーのどの項目と連動し、受講することでどのような力が伸ばすことができるのかを示しています。履修する上で参考してみてください。

【コミュニティ福祉学科のディプロマポリシー】

1. (知識・理解) 社会、文化、自然についての幅広い知識・教養と、教育・社会福祉従事者として必要とされる基本的、専門的な知識を修得している。
2. (技能・能力) 国際化、情報化、高度技術化が進む現代社会を総合的に捉える適切な判断力、実践力、コミュニケーション方法を身につけている。
3. (問題発見・解決力) 教育・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸問題を自ら発見、理解し、論理的、実践的知識、資源を活用することで、問題解決に必要な方法を構想し、行動することができる。
4. (ジェネリックスキル) 他者の思いや考えを受け止め、理解するとともに、自らの思いや考えも的確に表現、発信し、円滑なコミュニケーションを取って協働することができる。
5. (市民性の涵養) 現代社会の市民として多様な人々の存在、様々な文化、価値観の存在を理解し、建学の精神である愛と奉仕の実践に基づき、社会や他者のために主体的に行動し貢献できる。
6. (自律性・生涯学習力) 教育・社会福祉従事者としての目標を絶えず持ち、その実現のための学修行動に主体的、自律的に取り組むことができる。

基礎教育科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
日本語表現法	○	○		○	○	○
日本語朗読法	○	○	○	○	○	○
日本語読解法	○	○	○	○	○	○
日本語文章構成法	○	○	○	○	○	○
総合英語基礎	○	○	○	○	○	○
英語リスニング&スピーキングⅠ	○	○	○	○	○	○
英語リスニング&スピーキングⅡ	○	○	○	○	○	○
英語スピーチクリニック	○	○	○	○	○	○
英語リスニングスキル	○	○	○	○	○	○
英語ボキャブラリービルディング	○	○	○	○	○	○
英語構文理解	○	○	○	○	○	○
英語文章理解	○	○	○	○	○	○
英語文章表現法	○	○	○	○	○	○
総合英語応用Ⅱ	○	○	○	○	○	○
総合英語応用Ⅳ	○	○	○	○	○	○
総合英語応用Ⅴ	○	○	○	○	○	○
フランス語Ⅰ				○	○	
フランス語Ⅱ				○	○	
ドイツ語Ⅰ				○	○	
ドイツ語Ⅱ				○	○	
中国語Ⅰ	○	○	○			○
中国語Ⅱ	○	○	○			○
韓国語Ⅰ	○	○	○			○
韓国語Ⅱ	○	○	○			○
日本語Ⅰ	○	○	○			○
日本語Ⅱ	○	○	○			○
ネットワーク・リテラシー	○	○	○	○	○	○
情報発信演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○
情報発信演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
Webクリエイター演習	○	○	○	○	○	○
社会基盤のICT概論	○	○	○	○	○	○
アルゴリズムとプログラミングの基本	○	○	○	○	○	○
データベース	○	○	○	○	○	○
健康余暇論	○	○	○			○
健康行動学(健康・医療心理学)	○	○	○			○
スポーツ実技Ⅰ(バドミントン)				○		○
スポーツ実技Ⅰ(卓球)	○	○	○			○
スポーツ実技Ⅱ(バレーボール)	○	○	○			○
スポーツ実技Ⅱ(バドミントン)	○	○	○			○
キリスト教と現代社会	○	○	○			○
人間と哲学	○	○	○			○
人間と教育	○	○	○			○
人間と文学	○	○	○			○
人間の心と行動	○	○	○			○
人間と社会生活	○	○	○			○
社会生活と法	○	○	○			○
日本国憲法	○	○	○			○
経済と社会	○	○	○	○	○	○
現代の国際社会	○	○	○	○	○	○
歴史と社会	○	○	○	○	○	○
異文化の理解	○	○	○	○	○	○
生命の科学	○	○	○	○	○	○
健康と栄養科学	○	○	○	○	○	○
自然と災害	○	○	○	○	○	○
科学技術と地球環境	○	○	○	○	○	○
静岡の自然と環境	○	○	○	○	○	○
静岡の歴史と文化	○	○	○	○	○	○
静岡の風土と文学	○	○	○	○	○	○
地域創造フィールドワーク	○	○	○	○	○	○

専門教育科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
人間社会総論	○				○	
心理学基礎(心理学概論)	○		○			○
経済学基礎	○		○		○	
経営学基礎	○		○			
社会学基礎	○	○				
英米文化論基礎	○					
言語学基礎	○		○	○		○
社会福祉総論Ⅰ	○	○	○	○	○	○
社会福祉総論Ⅱ	○	○	○	○	○	○
地域福祉論Ⅰ	○		○	○	○	
地域福祉論Ⅱ	○		○	○	○	
数理・データサイエンス・AI基礎	○	○	○	○		○
保育原理Ⅰ	○					
保育原理Ⅱ	○	○	○	○		○
教育原理	○					
幼児教育課程総論	○	○				○
ソーシャルワーク論Ⅰ	○	○	○			
ソーシャルワーク論Ⅱ	○	○	○		○	
ソーシャルワーク論Ⅲ	○	○	○	○		○
ソーシャルワーク論Ⅳ	○	○	○	○		○
高齢者福祉論	○		○	○	○	○
介護概論	○		○	○	○	○
障害者福祉論	○	○	○	○	○	○
社会保障論Ⅰ	○	○	○	○	○	○
社会保障論Ⅱ	○	○	○	○	○	○
公的扶助論	○	○	○	○	○	○
社会理論と社会システム	○	○	○	○	○	○
福祉サービスの組織と経営	○	○	○	○	○	○
医療福祉論	○					○
社会調査法	○	○	○	○		○
児童家庭福祉	○	○	○	○		○
保育内容総論	○	○	○	○	○	○
社会的養護	○	○	○	○		○
保育の心理学	○	○	○	○		○
教育・学校心理学	○	○	○	○		○
発達心理学	○	○	○	○		○
子どもの食と栄養Ⅰ	○		○	○		○
子どもの食と栄養Ⅱ	○	○	○	○		○
子どもの保健	○		○	○		○
保育内容論-健康	○	○	○	○	○	○
保育内容論-人間関係	○	○	○	○	○	○
保育内容論-環境	○	○	○	○	○	○
保育内容論-言葉	○	○	○	○	○	○
保育内容論-表現	○	○	○	○	○	○
教師論	○					
教育社会学	○					
教育の方法及び技術		○	○			
幼児教育の方法及び技術		○	○			
社会・集団・家族心理学	○	○	○	○		○
心理学特殊講義	○	○	○	○		○

専門教育科目（前ページからのつづき）

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
人体の構造と機能及び疾病	○		○	○		
心理学	○		○	○		
社会福祉援助技術論Ⅱ	○	○	○			
社会福祉援助技術論Ⅲ	○	○	○			○
司法福祉論	○		○	○		
権利擁護を支える法制度	○	○	○	○	○	○
スクールソーシャルワーク論	○	○	○	○	○	○
ソーシャルサービス・イノベーション演習						
社会福祉特講Ⅰ	○					○
社会福祉特講Ⅱ	○					○
子ども家庭支援論	○	○	○			
生活学	○		○		○	
精神保健論	○		○	○		
総合リハビリテーション論	○		○		○	○
介護技術論	○	○	○	○	○	○
老年学	○	○	○	○	○	○
国際福祉	○	○	○	○	○	○
女性福祉論	○			○	○	○
NPO論						
臨床心理学概論	○			○	○	○
レクリエーション論Ⅰ	○	○		○		
レクリエーション論Ⅱ	○	○		○		○
体育・表現	○	○	○	○	○	
音楽療法入門		○			○	○
海外福祉現地研究			○	○		○
幼児理解	○		○	○	○	○
保育内容演習－健康	○	○	○			
保育内容演習－人間関係	○	○	○			
保育内容演習－環境	○	○	○			
保育内容演習－言葉	○	○	○	○		○
保育内容演習－表現	○	○	○			
教育・保育相談	○	○	○	○		
ピアノ教育		○				
音楽表現		○				
歌唱伴奏法		○		○		○
造形Ⅰ	○	○	○			○
造形Ⅱ	○	○	○	○	○	○
乳児保育Ⅰ	○	○	○			○
乳児保育Ⅱ	○	○	○	○		
障害児保育Ⅰ	○					○
障害児保育Ⅱ	○					○
子どもと言葉	○	○	○	○		○
社会的養護内容	○	○	○			
子ども家庭支援の心理学						
ミュージカルⅠ		○	○	○	○	○
ミュージカルⅡ		○	○	○	○	○
相談援助演習Ⅰ		○	○			
相談援助演習Ⅱ		○	○			
相談援助演習Ⅲ		○	○			
相談援助演習Ⅳ		○	○			
スクールソーシャルワーク演習		○	○			○
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク実習	○	○	○	○	○	○
スクールソーシャルワーク実習指導		○	○			○
ソーシャルワーク実習Ⅰ	○	○	○	○	○	○
ソーシャルワーク実習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
子どもの健康と安全	○	○		○		
感情・人格心理学	○			○		
障害者・障害児心理学	○	○	○			○
心理的アセスメント	○	○	○			
教育相談（心理学的支援法）	○	○	○			
福祉心理学	○				○	
司法・犯罪心理学	○		○		○	
産業・組織心理学	○		○			
心理演習		○				
心理実習		○				○
保育実習Ⅰ（保育所）		○	○		○	○
保育実習Ⅰ（施設）		○	○		○	○
保育実習Ⅱ		○	○		○	○
保育実習Ⅲ		○	○		○	○
保育実習指導Ⅰ（保育所）		○	○		○	○
保育実習指導Ⅰ（施設）		○	○		○	○
保育実習指導Ⅱ		○	○		○	○
保育実習指導Ⅲ		○	○		○	○
幼稚園教育実習指導		○	○		○	○
幼稚園教育実習		○	○		○	○
キャリア形成論		○	○	○		
インターンシップ		○	○	○		
ICTと福祉	○	○	○			○
障害者スポーツ	○	○	○			○
キャリアスタディ		○	○			○
キャリアデザイン演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○
キャリアデザイン演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○
基礎演習Ⅰ				○		○
基礎演習Ⅱ				○		○
基礎演習Ⅲ				○		○
基礎演習Ⅳ				○		○
専門演習Ⅰ						講義毎のシラバスを確認してください。
専門演習Ⅱ						講義毎のシラバスを確認してください。
卒業研究						講義毎のシラバスを確認してください。

教職科目

科目名	1 知識・ 理解	2 技能・ 能力	3 問題 発見・ 解決力	4 ジェネ リック スキル	5 市民性 の涵養	6 自律性 ・生涯 学習力
教育課程の意義と編成の方法	○		○		○	
国語科教育法Ⅰ	○	○	○	○	○	○
国語科教育法Ⅱ	○	○	○	○	○	○
国語科教育法Ⅲ	○	○	○	○	○	○
国語科教育法Ⅳ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅰ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅱ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅲ	○	○	○	○	○	○
英語科教育法Ⅳ	○	○	○	○	○	○
公民科教育法Ⅰ	○	○	○	○	○	○
公民科教育法Ⅱ	○	○	○	○	○	○
道徳の理論と指導法	○		○			
特別活動と総合的な学習の時間の指導法	○		○			○
教育方法論（ICT活用の理論と実践を含む）	○	○				
特別支援教育						
学校体験活動						
生徒指導（進路指導とキャリア教育を含む）	○	○				
教育相談（心理学的支援法）	○	○		○		○
教職実践演習（中・高）	○		○			○
保育・教職実践演習（幼稚園）	○	○	○	○	○	○
教育実習Ⅰ	○					
教育実習Ⅱ-A					○	
教育実習Ⅱ-B					○	

## 実務経験のある教員等による授業科目

担当する授業科目に関連した実務経験を有する者が、その実務経験を十分に生かしつつ、実践的教育を行っている科目等を以下に示します。

### 静岡英和学院大学 共通

授業科目	単位数	担当教員	実務経験
実務経験のある教員による授業科目			
地域創造フィールドワーク	2	毛利康秀	出版社、地域活性化団体
日本語朗読法	2	今村政司	アナウンサー
英語ボキャブラリービルディング	1	ピーターズ・マイケル	通訳
英語構文理解	1	ピーターズ・マイケル	通訳
健康と栄養科学	2	杉本富士子	児童福祉施設、行政機関での栄養相談
単位数合計	8		
実践的教育から構成される授業科目			
地域創造フィールドワーク	2	毛利康秀	学外の人と連携しプロジェクトを企画・実践
キャリア形成論	1	宇賀田栄次	人材採用育成支援企業の代表
インターンシップ	1	宇賀田栄次	人材採用育成支援企業の代表
キャリアデザイン演習Ⅰ	1	宇賀田栄次	人材採用育成支援企業の代表
キャリアデザイン演習Ⅱ	1	宇賀田栄次	人材採用育成支援企業の代表
単位数合計	6		

### 人間社会学科

授業科目	単位数	担当教員	実務経験
実務経験のある教員による授業科目			
簿記原理	2	金 承子	一般企業の経理事務
会計学	2	金 承子	一般企業の経理事務
コンピュータ会計Ⅰ	2	金 承子	一般企業の経理事務
コンピュータ会計Ⅱ	2	金 承子	一般企業の経理事務
文芸創作技法	2	上田日差し	俳人
演劇論	2	宮城 聡	劇団主宰者、演出家
単位数合計	12		

### コミュニティ福祉学科

授業科目	単位数	担当教員	実務経験
実務経験のある教員による授業科目			
児童家庭福祉	2	川島貴美江	児童相談所、福祉施設勤務
社会的養護	2	川島貴美江	児童相談所、福祉施設勤務
社会的養護内容	1	川島貴美江	児童相談所、福祉施設勤務
子ども家庭支援論	2	川島貴美江	児童相談所、福祉施設勤務
ソーシャルワーク論Ⅵ	2	川島貴美江	児童相談所、福祉施設勤務
音楽療法入門	2	山田美代子	音楽療法士
司法福祉論	2	飯田智子	更生支援活動NPO代表
障害児保育Ⅰ	2	金子明子	児童発達支援事業所勤務
障害児保育Ⅱ	2	金子明子	児童発達支援事業所勤務
総合リハビリテーション論	2	山内・橋本	理学療法士
造形Ⅰ	1	木俣創志	画家
造形Ⅱ	1	木俣創志	画家
介護概論	2	大村貴美	福祉施設勤務
子どもの食と栄養Ⅰ	1	杉本富士子	児童福祉施設、行政機関での栄養相談
子どもの食と栄養Ⅱ	1	杉本富士子	児童福祉施設、行政機関での栄養相談

高齢者福祉論	2	呉羽かおる	社会福祉協議会、福祉施設、相談支援事業所
医療福祉論	2	呉羽かおる	社会福祉協議会、福祉施設、相談支援事業所
老年学	2	呉羽かおる	社会福祉協議会、福祉施設、相談支援事業所
単位数合計	31		
実践的教育から構成される授業科目			
保育実習Ⅰ（保育所）	2	内山・赤羽	保育士実習
保育実習Ⅰ（施設）	2	川島貴美江 他	保育士実習
保育実習Ⅱ	2	内山・赤羽	保育士実習
保育実習Ⅲ	2	川島・栗原	保育士実習
保育実習指導Ⅰ（施設）	1	川島貴美江 他	学外講師を招き指導
保育実習指導Ⅲ	1	川島・栗原	学外講師を招き指導
ソーシャルワーク実習Ⅰ	1	梓川 一	ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ
ソーシャルワーク実習Ⅱ	5	梓川 一	ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ
スクールソーシャルワーク実習	2	栗原拓也	スクールソーシャルワーカー
相談援助演習Ⅰ	2	呉羽かおる	相談援助演習Ⅰ
総合リハビリテーション論	2	山内・橋本	学外リハビリ見学・体験・実習
レクリエーション論Ⅰ	2	青野宏子	県レクリエーション協会事業への参加・実習
海外福祉現地研究	2		海外での現地視察
単位数合計	26		



## 第2章

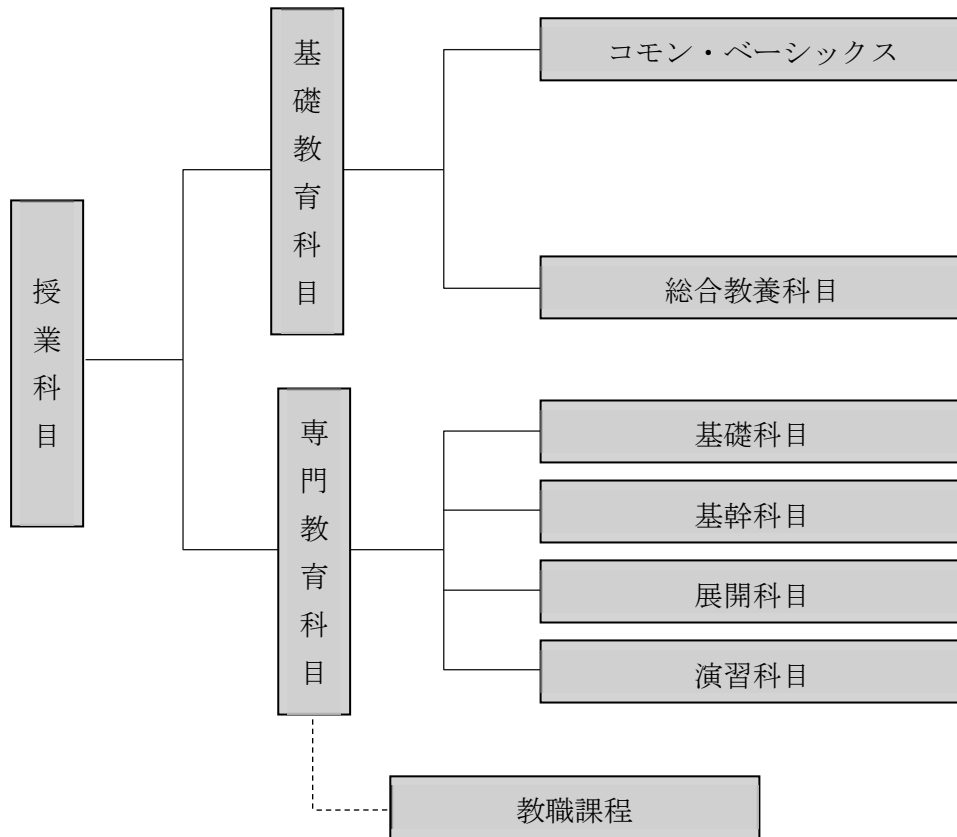
# 教育課程



# 人間社会学科 (Department of Humanities and Social Sciences)

授業科目の分類

2023 年度入学生用



## 卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	6 ※	20
		外国語表現力	1	5		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
基礎教育科目	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2	2 ◎	14
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解	—	4		
専門教育科目	専門教育科目	基礎科目	10	8	18 ★	90
		基幹科目	—	24		
		展開科目	—	20		
		演習科目	10	—		
合計			27	97		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から6単位選択する。

◎さらに総合教養科目全体から2単位選択する。

★さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から18単位選択する。

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
日本語表現力	日本語表現法	2		1	前期	菊池綾香 (A 留学生)、鈴木正和・久保博雅(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修 2 単位を含め 4 単位以上
	日本語朗読法		2	1	前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)	
	日本語読解法		2	1	後期	久保博雅・菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)	
	日本語文章構成法		2	1	前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)	
外国語表現力 コミュニケーション	総合英語基礎	1		1	前期	ハリントン(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、鈴木恵子(G・J)、森雅人(H・K)	必修 1 単位を含め 6 単位以上
	英語リスニング&スピーキング I		1	1	前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語リスニング&スピーキング II		1	1	後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語スピーチクリニック		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)	
	英語リスニングスキル		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)	
	英語ボキャブラリービルディング		1	1	前期・後期	ピーターズ (A・B 前期・C 後期)	
	英語構文理解		1	1	後期	鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B・C)	
	英語文章理解		1	2	前期・後期	鬼塚大輔(A 前期)、幸田明子(B・C 後期)	
	英語文章表現法		1	2	前期	幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)	
	総合英語応用 I		1	1	後期	開講せず	
	総合英語応用 II		1	1	後期	松永ジョアンナ	
	総合英語応用 III		1	1	後期	鈴木恵子	
	総合英語応用 IV		1	1	後期	開講せず	
	総合英語応用 V		1	1	後期	鬼塚大輔	
	フランス語 I		1	1	前期・後期	今野喜和人(A・B 前期・C 後期)	
	フランス語 II		1	1	後期	今野喜和人	
	ドイツ語 I		1	1	前期	小柴浩稔	
	ドイツ語 II		1	1	後期	小柴浩稔	
	中国語 I		1	1	前期・後期	望月裕之(A・B 前期・C 後期)	
	中国語 II		1	1	後期	望月裕之	
韓国語 I		1	1	前期・後期	大木喜義(A・B 前期・C・D 後期)		
韓国語 II		1	1	前期・後期	大木喜義(A・B)		
日本語 I (留学生対象)		1	1	前期	菊池綾香		
日本語 II (留学生対象)		1	1	後期	菊池綾香		
情報処理	ネットワーク・リテラシー	2		1	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、飯塚重善(F)、永田正樹(Z 再履修 前期 2 コマ)	必修 2 単位を含め 2 単位以上
	情報発信演習 I		1	1	前期・後期	渡辺 司(A 前期・C 後期)、金 承子(B 前期)	
	情報発信演習 II		1	2	前期	沖山貴裕	
	Web クリエイター演習		1	2	後期	飯塚重善 (A・B)	
	社会基盤の ICT 概論		2	2	後期	飯塚重善	
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2	前期	相良陸成	
データベース		2	2	前期・後期	湯瀬裕昭(A 前期・B 後期)		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考	
		必修	選択					
コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク	健康余暇論		2	1	後期	赤田信一	2 単位以上	
	健康行動学 (健康・医療心理学)		2	1	後期	赤田信一		
	スポーツ実技 I		1	1	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)		
					前期・後期	森 啓彰(卓球 A・B)		
	スポーツ実技 II		1	1	前期・後期	森 啓彰(バレーボール A・B)		
					前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)		
	ヨガ I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
	ヨガ II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
フィットネス・セルフケア I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
フィットネス・セルフケア II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
コモン・ベーシックス全体からさらに 6 単位を選択のうえ計 20 単位以上								
総 合 教 養 目	キリスト教と人間の理解	キリスト教学	2		1	後期	佐々木謙一	必修 2 単位を 含め 4 単位以上
		キリスト教と現代社会		2	1	前期	佐々木謙一	
		人間と哲学		2	1	後期	佐々木謙一	
		人間と教育		2	1	前期	金田健司	
		人間と文学		2	1	後期	古郡康人	
		人間の心と行動		2	1	後期	永山ルツ子	
	現代社会と国際理解	人間と社会生活		2	1	前期	毛利康秀	4 単位以上
		社会生活と法		2	1	後期	板倉美奈子	
		日本国憲法		2	1	前期	板倉美奈子	
		経済と社会		2	1	後期	勝田佳裕	
		現代の国際社会		2	1	後期	服部慶亘	
		歴史と社会		2	1	後期	毛利康秀	
		異文化の理解		2	1	後期	鈴木 瑞	
	科学と環境の理解	生命の科学		2	1	前期	池谷和子	4 単位以上
健康と栄養科学			2	1	前期	杉本富士子		
自然と災害			2	1	後期	湯佐泰久		
科学技術と地球環境			2	1	後期	雨谷敬史		
地域の理解	静岡の自然と環境		2	1	前期	湯佐泰久	4 単位以上	
	静岡の歴史と文化		2	1	前期	小和田泰経		
	静岡の風土と文学		2	1	前期	古郡康人		
	地域創造フィールドワーク		2	1	後期	毛利康秀		
総合教養科目全体からさらに 2 単位を選択のうえ計 14 単位以上								
合計 34 単位以上								

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1	前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 18 単位 以上履修
	人間学基礎	2		1	前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1	前期		
	社会学基礎		2	1	前期	志田倫子(A)、毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1	後期	菅 隆彦・市川充俊	
	経営学基礎		2	1	後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1	前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1	後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1	後期	久保博雅(前半)・石山久美(後半)	
	社会福祉総論 I	2		1	前期	呉羽かおる	
	社会福祉総論 II		2	1	後期	呉羽かおる	
	地域福祉論 I		2	1	前期	梓川 一	
	地域福祉論 II		2	1	後期	梓川 一	
	数理・データサイエンス・AI 基礎	2		1	前期	飯塚重善	
基 幹 科 目	心理学研究法		2	2	前期	永山ルツ子	24 単位以上 選択
	心理学統計法 I		2	2	後期	林 智幸	
	心理学実験 I		2	2	前期	林 智幸・永山ルツ子	
	発達心理学		2	2	前期	松野 真	
	教育・学校心理学		2	2	後期	林 智幸	
	学習・言語心理学		2	2	前期	林 智幸	
	心理学特殊講義		2	2	前期	林 智幸	
	社会・集団・家族心理学		2	2	後期	波多野純	
	臨床心理学概論		2	2	後期		
	金融論		2	2	前期	勝田佳裕	
	ミクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦	
	マクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦	
	マーケティング論		2	2	前期	川島美奈子	
	起業・経営戦略実践論		2	2	前期	川島美奈子	
	簿記原理		2	2	前期	金 承子	
	法学概論		2	2	後期	井柳美紀	
	民法		2	2	前期	朱 曄	
	商法		2	2	後期	西川義晃	
	ビジネスと法		2	2	後期	知念晃子	
	観光学		2	2	前期	洪 明真	
	文化観光論		2	2	後期	洪 明真	
	文化人類学		2	2	前期	川崎一平	
	観光学研究法		2	2	前期	郭 育仁	
	アンケート調査法		2	2	後期	郭 育仁	
	地域社会学		2	2	後期	志田倫子	
	社会調査法		2	2	前期	毛利康秀	
	観光地域フィールドワーク論		2	2	後期	毛利康秀	
	イギリス文化論		2	2	後期	鬼塚大輔	
アメリカ文化論		2	2	前期	狭間敏行		
Communicative English I		2	2	前期	クレイナー		
Communicative English II		2	2	後期	クレイナー		

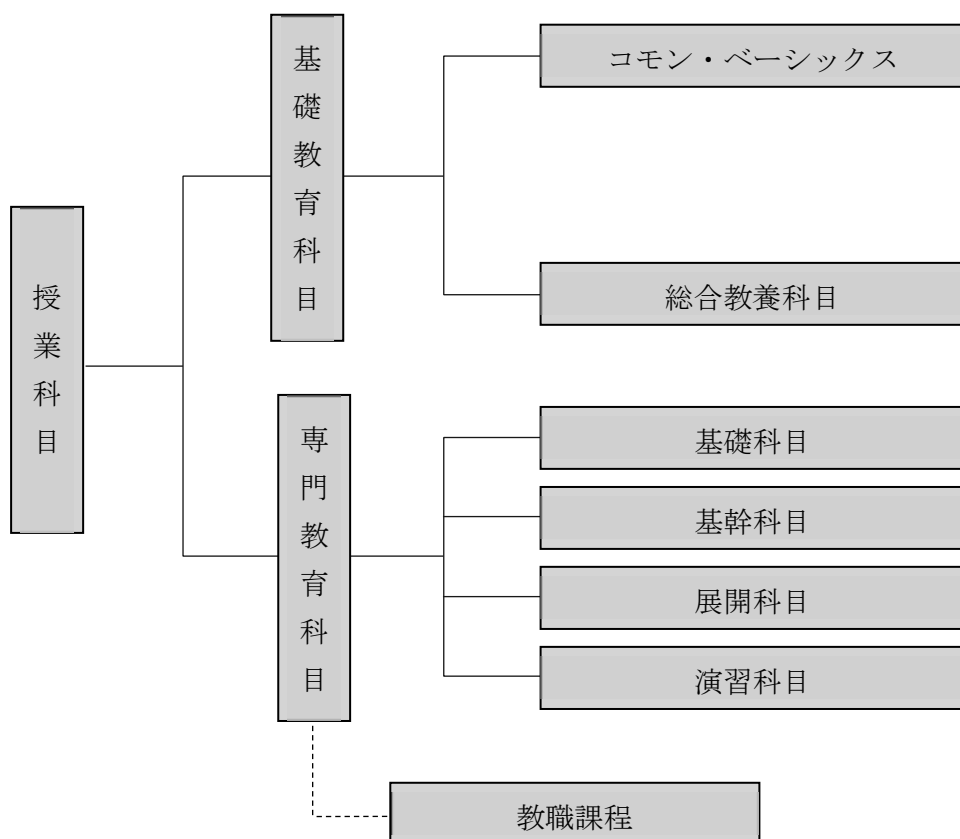
	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考				
		必修	選択								
基 幹 科 目	国際ビジネスコミュニケーション		2	2	後期	狭間敏行	24 単位以上 選択				
	国際観光コミュニケーション		2	2	後期	ハリントン					
	日本伝統文化論		2	2	後期	畑恵里子					
	日本近代文化論		2	2	前期	鈴木正和					
	言語文化論		2	2	前期	久保博雅					
	演劇論		2	2	前期集中	宮城 聰					
	キャリア形成論		1	1	前期	宇賀田栄次					
	インターンシップ		1	3	前期集中	宇賀田栄次					
展 開 科 目	心理メジャー	心理学統計法Ⅱ		2	3	前期	林 智幸	20 単位以上 選択			
		心理学実験Ⅱ		2	3	前期	林 智幸				
		知覚・認知心理学		2	3	前期	永山ルツ子				
		感情・人格心理学		2	3	後期	林 智幸				
		神経・生理心理学		2	3	後期	松岡恵子				
		産業・組織心理学		2	3	後期	波多野純				
		教育相談（心理学的支援法）		2	3	前期					
		公認心理師の職責		2	3	前期					
		心理的アセスメント		2	3	後期	松野 真				
		障害者・障害児心理学		2	3	後期	松野 真				
		福祉心理学		2	3	後期	波多野純				
		司法・犯罪心理学		2	3	後期	ジェイムス朋子				
		関係行政論		2	3	前期	笠井 仁				
		心理演習		2	4	後期					
		心理実習		2	3	集中	林 智幸・波多野純				
		展 開 科 目	経済経営メジャー	国際経済学		2	3		前期	菅 隆彦・市川充俊	20 単位以上 選択
				国際金融論		2	3		前期	勝田佳裕	
				ファイナンス論		2	3		前期	菅 隆彦	
日本経済論				2	3	後期	勝田佳裕				
ソーシャル・ビジネス論				2	3	前期	川島美奈子				
中小企業論				2	3	後期	児玉和人				
流通システム論				2	3	後期	川島美奈子				
会計学				2	3	後期	金 承子				
コンピュータ会計Ⅰ				2	3	前期	金 承子				
コンピュータ会計Ⅱ				2	3	後期	金 承子				
展 開 科 目	観光地域デザインメジャー	観光ビジネス事情		2	3	後期	郭 育仁	20 単位以上 選択			
		観光デザイン論		2	3	前期	郭 育仁				
		観光産業特論Ⅰ		2	3	前期	郭 育仁				
		観光産業特論Ⅱ		2	3	後期	郭 育仁				
		観光学特殊講義Ⅰ		2	3	前期	洪 明真				
		観光学特殊講義Ⅱ		2	3	前期集中	洪 明真				
		国際観光演習		2	3	後期	洪 明真				
		国際関係論		2	3	後期	服部慶亘				
		地域政策論		2	3	後期	毛利康秀				

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択						
展 開 科 目	英語文化メジャー		2	3	後期	有元志保	20 単位以上選択		
			2	3	後期	狭間敏行			
			2	3	前期	ハリントン			
			2	3	前期	狭間敏行			
			2	3	後期	石山久美			
			2	3	前期	石山久美			
			2	3		開講せず			
			2	3	前期	石山久美			
			2	3	前期	クレイナー			
			2	3	後期	クレイナー			
		2	1		開講せず				
	日本語文化メジャー		2	3	後期	古郡康人			
			2	3	後期	畑恵里子			
			2	3	後期	鈴木正和			
			2	3	前期	鈴木正和			
			2	3	後期集中	上田日差し			
			2	3	前期	埋田重夫			
			2	3	後期	久保博雅			
			2	3	前期	久保博雅			
			2	1		開講せず			
			1	2	前期	鈴木千恵美			
		1	2	後期	鈴木千恵美				
		1	1	前期	宇賀田栄次				
		1	1	後期	宇賀田栄次				
	基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに 18 単位を選択のうえ 62 単位以上								
	演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1	前期		鈴木、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保	必修科目 10 単位
基礎演習Ⅱ		1		1	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
基礎演習Ⅲ		1		2	前期	ハリントン、鈴木、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
専門演習Ⅰ		1		2	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
専門演習Ⅱ		2		3	通年	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
卒業研究		4		4	通年	永山、ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
合計 90 単位以上									

# 人間社会学科 (Department of Humanities and Social Sciences)

授業科目の分類

2024・2025・2026 年度入学生用



## 卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	6 ※	20
		外国語表現力	2	4		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2	2 ◎	14
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解	—	—		
	専門教育科目	基礎科目	10	8	18 ★	90
		基幹科目	—	24		
		展開科目	—	20		
		演習科目	10	—		
合計			28	96		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から6単位選択する。

◎さらに総合教養科目全体から2単位選択する。

★さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から18単位選択する。

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
日本語表現力	日本語表現法	2		1	前期	菊池綾香 (A 留学生)、鈴木正和・久保博雅(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修2単位を含め4単位以上
	日本語朗読法		2	1	前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)	
	日本語読解法		2	1	後期	久保博雅・菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)	
	日本語文章構成法		2	1	前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)	
外国語表現力	総合英語基礎	2		1	前期	ハリントン(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、鈴木恵子(G・J)、森雅人(H・K)	必修2単位を含め6単位以上
	英語リスニング&スピーキングⅠ		1	1	前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語リスニング&スピーキングⅡ		1	1	後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語スピーチクリニック		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)	
	英語リスニングスキル		1	1	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)	
	英語ボキャブラリービルディング		1	1	前期・後期	ピーターズ (A・B 前期・C 後期)	
	英語構文理解		1	1	後期	鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B・C)	
	英語文章理解		1	2	前期・後期	鬼塚大輔(A 前期)、幸田明子(B・C 後期)	
	英語文章表現法		1	2	前期	幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)	
	総合英語応用Ⅰ		1	1	後期	開講せず	
	総合英語応用Ⅱ		1	1	後期	松永ジョアンナ	
	総合英語応用Ⅲ		1	1	後期	鈴木恵子	
	総合英語応用Ⅳ		1	1	後期	開講せず	
	総合英語応用Ⅴ		1	1	後期	鬼塚大輔	
	フランス語Ⅰ		1	1	前期・後期	今野喜和人(A・B 前期・C 後期)	
	フランス語Ⅱ		1	1	後期	今野喜和人	
	ドイツ語Ⅰ		1	1	前期	小柴浩稔	
	ドイツ語Ⅱ		1	1	後期	小柴浩稔	
	中国語Ⅰ		1	1	前期・後期	望月裕之(A・B 前期・C 後期)	
	中国語Ⅱ		1	1	後期	望月裕之	
韓国語Ⅰ		1	1	前期・後期	大木喜義(A・B 前期・C・D 後期)		
韓国語Ⅱ		1	1	前期・後期	大木喜義(A・B)		
日本語Ⅰ (留学生対象)		1	1	前期	菊池綾香		
日本語Ⅱ (留学生対象)		1	1	後期	菊池綾香		
情報処理	ネットワーク・リテラシー	2		1	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、飯塚重善(F)、永田正樹(Z 再履修 前期2コマ)	必修2単位を含め2単位以上
	情報発信演習Ⅰ		1	1	前期・後期	渡辺 司(A 前期・C 後期)、金 承子(B 前期)	
	情報発信演習Ⅱ		1	2	前期	沖山貴裕	
	Web クリエイター演習		1	2	後期	飯塚重善 (A・B)	
	社会基盤の ICT 概論		2	2	後期	飯塚重善	
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2	前期	相良陸成	
データベース		2	2	前期・後期	湯瀬裕昭(A 前期・B 後期)		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考	
		必修	選択					
コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク	健康余暇論		2	1	後期	赤田信一	2 単位以上	
	健康行動学（健康・医療心理学）		2	1	後期	赤田信一		
	スポーツ実技 I		1	1	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)		
					前期・後期	森 啓彰(卓球 A・B)		
	スポーツ実技 II		1	1	前期・後期	森 啓彰(バレーボール A・B)		
					前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)		
	ヨガ I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
	ヨガ II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
フィットネス・セルフケア I		1	1	前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
フィットネス・セルフケア II		1	1	後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目		
コモン・ベーシックス全体からさらに 6 単位を選択のうえ計 20 単位以上								
総 合 教 養 目	キリスト教と人間の理解	キリスト教学	2		1	後期	佐々木謙一	必修 2 単位を 含め 4 単位以上
		キリスト教と現代社会		2	1	前期	佐々木謙一	
		人間と哲学		2	1	後期	佐々木謙一	
		人間と教育		2	1	前期	金田健司	
		人間と文学		2	1	後期	古郡康人	
		人間の心と行動		2	1	後期	永山ルツ子	
	現代社会と国際理解	人間と社会生活		2	1	前期	毛利康秀	4 単位以上
		社会生活と法		2	1	後期	板倉美奈子	
		日本国憲法		2	1	前期	板倉美奈子	
		経済と社会		2	1	後期	勝田佳裕	
		現代の国際社会		2	1	後期	服部慶亘	
		歴史と社会		2	1	後期	毛利康秀	
		異文化の理解		2	1	後期	鈴木 瑞	
	科学と環境の理解	生命の科学		2	1	前期	池谷和子	4 単位以上
健康と栄養科学			2	1	前期	杉本富士子		
自然と災害			2	1	後期	湯佐泰久		
科学技術と地球環境			2	1	後期	雨谷敬史		
地域の理解	静岡の自然と環境		2	1	前期	湯佐泰久	4 単位以上	
	静岡の歴史と文化		2	1	前期	小和田泰経		
	静岡の風土と文学		2	1	前期	古郡康人		
	地域創造フィールドワーク		2	1	後期	毛利康秀		
総合教養科目全体からさらに 2 単位を選択のうえ計 14 単位以上								
合計 34 単位以上								

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択				
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1	前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 18 単位 以上履修
	人間学基礎	2		1	前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1	前期		
	社会学基礎		2	1	前期	志田倫子(A)、毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1	後期	菅 隆彦・市川充俊	
	経営学基礎		2	1	後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1	前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1	後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1	後期	久保博雅(前半)・石山久美(後半)	
	社会福祉総論 I	2		1	前期	呉羽かおる	
	社会福祉総論 II		2	1	後期	呉羽かおる	
	地域福祉論 I		2	1	前期	梓川 一	
	地域福祉論 II		2	1	後期	梓川 一	
	数理・データサイエンス・AI 基礎	2		1	前期	飯塚重善	
基 幹 科 目	心理学研究法		2	2	前期	永山ルツ子	24 単位以上 選択
	心理学統計法 I		2	2	後期	林 智幸	
	心理学実験 I		2	2	前期	林 智幸・永山ルツ子	
	発達心理学		2	2	前期	松野 真	
	教育・学校心理学		2	2	後期	林 智幸	
	学習・言語心理学		2	2	前期	林 智幸	
	心理学特殊講義		2	2	前期	林 智幸	
	社会・集団・家族心理学		2	2	後期	波多野純	
	臨床心理学概論		2	2	後期		
	金融論		2	2	前期	勝田佳裕	
	ミクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦	
	マクロ経済学		2	2	後期	菅 隆彦	
	マーケティング論		2	2	前期	川島美奈子	
	起業・経営戦略実践論		2	2	前期	川島美奈子	
	簿記原理		2	2	前期	金 承子	
	法学概論		2	2	後期	井柳美紀	
	民法		2	2	前期	朱 曄	
	商法		2	2	後期	西川義晃	
	ビジネスと法		2	2	後期	知念晃子	
	観光学		2	2	前期	洪 明真	
	文化観光論		2	2	後期	洪 明真	
	文化人類学		2	2	前期	川崎一平	
	観光学研究法		2	2	前期	郭 育仁	
	アンケート調査法		2	2	後期	郭 育仁	
	地域社会学		2	2	後期	志田倫子	
	社会調査法		2	2	前期	毛利康秀	
観光地域フィールドワーク論		2	2	後期	毛利康秀		
イギリス文化論		2	2	後期	鬼塚大輔		
アメリカ文化論		2	2	前期	狭間敏行		
Communicative English I		2	2	前期	クレイナー		
Communicative English II		2	2	後期	クレイナー		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考	
		必修	選択					
基 幹 科 目	国際ビジネスコミュニケーション		2	2	後期	狭間敏行	24 単位以上 選択	
	国際観光コミュニケーション		2	2	後期	ハリントン		
	日本伝統文化論		2	2	後期	畑恵里子		
	日本近代文化論		2	2	前期	鈴木正和		
	言語文化論		2	2	前期	久保博雅		
	演劇論		2	2	前期集中	宮城 聰		
	キャリア形成論		1	1	前期	宇賀田栄次		
	インターンシップ		1	3	前期集中	宇賀田栄次		
展 開 科 目	心理メジャー 経済経営メジャー 観光地域デザインメジャー	心理学統計法Ⅱ		2	3	前期	林 智幸	20 単位以上 選択
		心理学実験Ⅱ		2	3	前期	林 智幸	
		知覚・認知心理学		2	3	前期	永山ルツ子	
		感情・人格心理学		2	3	後期	林 智幸	
		神経・生理心理学		2	3	後期	松岡恵子	
		産業・組織心理学		2	3	後期	波多野純	
		教育相談（心理学的支援法）		2	3	前期		
		公認心理師の職責		2	3	前期		
		心理的アセスメント		2	3	後期	松野 真	
		障害者・障害児心理学		2	3	後期	松野 真	
		福祉心理学		2	3	後期	波多野純	
		司法・犯罪心理学		2	3	後期	ジェイムス朋子	
		関係行政論		2	3	前期	笠井 仁	
		心理演習		2	4	後期		
		心理実習		2	3	集中	林 智幸・波多野純	
		国際経済学		2	3	前期	菅 隆彦・市川充俊	
		国際金融論		2	3	前期	勝田佳裕	
		ファイナンス論		2	3	前期	菅 隆彦	
日本経済論		2	3	後期	勝田佳裕			
ソーシャル・ビジネス論		2	3	前期	川島美奈子			
中小企業論		2	3	後期	児玉和人			
流通システム論		2	3	後期	川島美奈子			
会計学		2	3	後期	金 承子			
コンピュータ会計Ⅰ		2	3	前期	金 承子			
コンピュータ会計Ⅱ		2	3	後期	金 承子			
観光政策論		2	3	後期	郭 育仁			
観光デザイン論		2	3	前期	郭 育仁			
観光産業特論Ⅰ		2	3	前期	郭 育仁			
観光産業特論Ⅱ		2	3	後期	郭 育仁			
観光地誌学		2	3	前期	洪 明真			
観光地理学		2	3	前期集中	洪 明真			
国際観光演習		2	3	後期	洪 明真			
国際関係論		2	3	後期	服部慶亘			
地域政策論		2	3	後期	毛利康秀			

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択						
展 開 科 目	英語文化メジャー	イギリス文学研究		2	3	後期	有元志保	20 単位以上選択	
		アメリカ文学研究		2	3	後期	狭間敏行		
		日英比較文化論		2	3	前期	ハリントン		
		日米比較文化論		2	3	前期	狭間敏行		
		日英語比較		2	3	後期	石山久美		
		英語学研究		2	3	前期	石山久美		
		英語構造論		2	3		開講せず		
		第二言語習得論		2	3	前期	石山久美		
		English Presentation Skills		2	3	前期	クレイナー		
		Communicative English Advanced		2	3	後期	クレイナー		
	外国文化フィールドワーク		2	1		開講せず			
	日本語文化メジャー	日本文学ジャンル論		2	3	後期	古郡康人		
		日本古典文学研究		2	3	後期	畑恵里子		
		日本近代文学研究		2	3	後期	鈴木正和		
		児童文学研究		2	3	前期	鈴木正和		
		文芸創作技法		2	3	後期集中	上田日差し		
		中国文学研究		2	3	前期	埋田重夫		
		日本語学研究		2	3	後期	久保博雅		
		日本語資料研究		2	3	前期	久保博雅		
		日本文化フィールドワーク		2	1		開講せず		
		書道Ⅰ		1	2	前期	鈴木千恵美		
	書道Ⅱ		1	2	後期	鈴木千恵美			
	キャリアデザイン演習Ⅰ		1	1	前期	宇賀田栄次			
	キャリアデザイン演習Ⅱ		1	1	後期	宇賀田栄次			
	基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに 18 単位を選択のうえ 62 単位以上								
	演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1	前期	鈴木、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保		必修科目 10 単位
基礎演習Ⅱ		1		1	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
基礎演習Ⅲ		1		2	前期	ハリントン、鈴木、川島、畑、林、金、毛利、勝田、佐々木、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
専門演習Ⅰ		1		2	後期	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
専門演習Ⅱ		2		3	通年	ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
卒業研究		4		4	通年	永山、ハリントン、鈴木、波多野、川島、畑、林、金、毛利、勝田、郭、狭間、洪、菅、石山、久保			
合計 90 単位以上									

## 人間社会学科 履修登録上の注意事項

### 【一般事項】

- 1 履修登録後は、原則として履修内容の変更は認められません。
- 2 授業科目は、基本的にそれぞれに割り当てられた学年で履修してください。
- 3 授業科目のうちで、A、B、C等の区分のあるものは、いずれか一つしか履修できません。
- 4 クラス指定がされている授業科目は、自分が指定された授業科目を履修してください。
- 5 本学に入学する前に、他の大学、短大、または教育施設等において修得した単位が、本学の単位として認定されることがあります。1年次入学後2週間以内に学部事務室まで申し出てください。
- 6 卒業要件は、科目群ごとに必修・選択による必要単位数を満たさなければならないので、注意してください。

### 【基礎教育科目】

- 1 スポーツ実技Ⅰ・Ⅱについて
  - (1) 「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」の履修順序に制限はありません。
  - (2) 異なるスポーツ種目であっても、「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」からはそれぞれ1種目しか履修できません。
- 2 フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱについて
  - (1) 原則としてⅠの単位を修得していないとⅡを履修できません。

### 【専門教育科目】

- 1 資格・免許に関連する科目については、本「履修要項」の該当ページ及び各資格のガイダンスを参考にし、遺漏のないよう注意してください。
- 2 単位不認定のため、再履修になった科目がある場合は資格が取得できなくなることがあります。

# 人間社会学科履修モデル(2023年度入学生用)

専門教育科目

開講学年	系	心理系	総合マネジメント系		言語文化系	
	メジャー	心理	経済経営	観光地域デザイン	英語文化	日本語文化
	教育目標	人間の心と行動を分析し、理解する力を身につけさせる。	社会人としての日常の経済活動や世界経済の動向を分析し、理解する力を身につけさせる。	観光産業や地域社会に関する課題を解決する力を身につけさせる。	高い英語力と、豊かな異文化コミュニケーション力を身につけさせる。	日本文化の特質と豊かさを理解する力を身につけさせる。
1年次	演習科目	<b>基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ</b>				
	基礎科目	人間社会総論 人間学基礎 社会福祉総論ⅠⅡ 地域福祉論ⅠⅡ 教理・データサイエンス・AI基礎				
		心理学基礎(心理学概論)	経済学基礎 経営学基礎	社会学基礎	英米文化論基礎	日本文化論基礎
					言語学基礎	
	基幹科目	キャリア形成論				
展開科目				外国文化フィールドワーク	日本文化フィールドワーク	
2年次	演習科目	<b>基礎演習Ⅲ 専門演習Ⅰ</b>				
	基幹科目	心理学研究法 心理学統計法Ⅰ 心理学実験Ⅰ 発達心理学 教育・学校心理学 学習・言語心理学 心理学特殊講義 社会・集団・家族心理学 臨床心理学概論	金融論 ミクロ経済学 マクロ経済学 起業・経営戦略実践論 マーケティング論 簿記原理 法学概論 民法 商法 ビジネスと法	観光学 文化観光論 文化人類学 地域社会学 観光学調査法 アンケート調査法 社会調査法 観光地域フィールドワーク論	イギリス文化論 アメリカ文化論 Communicative English I・II 国際ビジネスコミュニケーション 国際観光コミュニケーション	日本伝統文化論 日本近代文化論 言語文化論 演劇論
3年次	演習科目	<b>専門演習Ⅱ</b>				
	基幹科目	インターンシップ				
	展開科目	心理学統計法Ⅱ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 産業・組織心理学 教育相談(心理学的支援法) 公認心理師の職責 心理的アセスメント 障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学 関係行政論 心理実習	国際経済学 国際金融論 ファイナンス論 日本経済論 ソーシャル・ビジネス論 中小企業論 流通システム論 会計学 コンピュータ会計Ⅰ コンピュータ会計Ⅱ	観光デザイン論 観光ビジネス事情 観光産業特論Ⅰ 観光産業特論Ⅱ 観光学特殊講義Ⅰ 観光学特殊講義Ⅱ 国際観光演習 地域政策論 国際関係論	イギリス文学研究 アメリカ文学研究 日英比較文化論 日米比較文化論 日英語比較 英語学研究 英語構造論 第二言語習得論 English Presentation Skills Communicative English Advanced	日本文学ジャンル論 日本古典文学研究 日本近代文学研究 児童文学研究 文芸創作技法 中国文学研究 日本語学研究 日本語資料研究 書道Ⅰ 書道Ⅱ
4年次	演習科目	<b>卒業研究</b>				
	展開科目	心理演習				

太字の科目は必修科目です。また、所属するゼミのメジャーに開講されている科目は、全ての科目を履修することを原則とします。

# 人間社会学科履修モデル(2024・2025・2026年度入学生用)

専門教育科目

開講 学年	系	心理系	総合マネジメント系		言語文化系	
	メジャー	心理	経済経営	観光地域デザイン	英語文化	日本語文化
	教育目標	人間の心と行動を分析し、理解する力を身につけさせる。	社会人として日常の経済活動や世界経済の動向を分析し、理解する力を身につけさせる。	観光産業や地域社会に関する課題を解決する力を身につけさせる。	高い英語力と、豊かな異文化コミュニケーション力を身につけさせる。	日本文化の特質と豊かさを理解する力を身につけさせる。
1年次	演習科目	<b>基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ</b>				
	基礎科目	人間社会総論 人間学基礎 社会福祉総論ⅠⅡ 地域福祉論ⅠⅡ 数理・データサイエンス・AI基礎				
		心理学基礎(心理学概論)	経済学基礎 経営学基礎	社会学基礎	英米文化論基礎	日本文化論基礎
	基幹科目	キャリア形成論				
	展開科目				外国文化フィールドワーク	日本文化フィールドワーク
2年次	演習科目	<b>基礎演習Ⅲ 専門演習Ⅰ</b>				
	基幹科目	心理学研究法 心理学統計法Ⅰ 心理学実験Ⅰ 発達心理学 教育・学校心理学 学習・言語心理学 心理学特殊講義 社会・集団・家族心理学 臨床心理学概論	金融論 ミクロ経済学 マクロ経済学 起業・経営戦略実践論 マーケティング論 簿記原理 法学概論 民法 商法 ビジネスと法	観光学 文化観光論 文化人類学 地域社会学 観光学調査法 アンケート調査法 社会調査法 観光地域フィールドワーク論	イギリス文化論 アメリカ文化論 Communicative EnglishⅠ・Ⅱ 国際ビジネスコミュニケーション 国際観光コミュニケーション	日本伝統文化論 日本近代文化論 言語文化論 演劇論
3年次	演習科目	<b>専門演習Ⅱ</b>				
	展開科目	心理学統計法Ⅱ 心理学実験Ⅱ 知覚・認知心理学 感情・人格心理学 神経・生理心理学 産業・組織心理学 教育相談(心理学的支援法) 公認心理師の職責 心理的アセスメント 障害者・障害児心理学 福祉心理学 司法・犯罪心理学 関係行政論 心理実習	国際経済学 国際金融論 ファイナンス論 日本経済論 ソーシャル・ビジネス論 中小企業論 流通システム論 会計学 コンピュータ会計Ⅰ コンピュータ会計Ⅱ	観光デザイン論 観光政策論 観光産業特論Ⅰ 観光産業特論Ⅱ 観光地誌学 観光地理学 国際観光演習 地域政策論 国際関係論	イギリス文学研究 アメリカ文学研究 日英比較文化論 日米比較文化論 日英語比較 英語学研究 英語構造論 第二言語習得論 English Presentation Skills Communicative English Advanced	日本文学ジャンル論 日本古典文学研究 日本近代文学研究 児童文学研究 文芸創作技法 中国文学研究 日本語学研究 日本語資料研究 書道Ⅰ 書道Ⅱ
4年次	演習科目	<b>卒業研究</b>				
	展開科目	心理演習				

太字の科目は必修科目です。また、所属するゼミのメジャーに開講されている科目は、全ての科目を履修することを原則とします。

## 「卒業研究」について【人間社会学科】

### 1 卒業研究の位置づけ

- (1) 本学の教育課程における卒業認定単位数は 124 単位となっており、卒業研究は 4 年次にこれまでの学習の総括として行なう必修科目です。履修により 4 単位が取得できます。
- (2) 学生の関心に応じてテーマを設定し、3 年次専門演習に所属した教員の指導を受けながら研究にあたるものとします。

### 2 卒業研究の形式

#### (1) 論文・実践研究の卒業研究

- ア 様式 本文 12000 字以上（但し、表紙・目次・脚注は本文に含めない）  
A4 版、1 ページあたりの字数 1600 字（40 字×40 行に設定）、フォント 10.5

#### (2) 論文形式以外の卒業研究

- ア 作品概要 作品の目的・意図、製作過程・方法、考察・作品の意義を 5000 字にまとめ提出する。  
イ 様式 A4 版、基本は横書き、1 ページあたりの字数 1600 字（40 字×40 行に設定）、  
フォント 10.5

### 3 共同研究

- (1) 指導教員が適切であると認めた場合に限り、卒業研究において、複数の学生が共同研究を行い、共同執筆することができます。但し、論文・作品において各人が共同研究で担った論文、役割を明記すること。
- (2) 共同研究における各人の形式は、前記「2 卒業研究の形式」に基づくものとします。

### 4 その他

その他、卒業論文の体裁・詳細については、各所属担当教員からの指示に厳格に従うこと。

## 認定心理士の資格申請と履修科目について【人間社会学科向け】

人間社会学科の学生で、卒業後に『認定心理士』の資格取得を希望する人は、以下を参考にして履修計画を立ててください。認定心理士の資格取得についてさらに詳しく知りたい学生は、社団法人 日本心理学会のウェブサイト (<http://www.psych.or.jp/qualification/>) を参照してください。

### 認定心理士資格の概略と本学科の科目構成

『認定心理士』は、社団法人 日本心理学会が認定する資格です。学会が定める心理学関係の単位を修得し、日本心理学会に申請して審査を受け、認定されることで資格が得られます。資格取得に必要な単位数を、本学科のカリキュラムと対応させて以下に示します。

人間社会学科には認定心理士に関連する科目が、2018年度以降は合計29科目(59単位分)が設置されています。資格取得のためには合計36単位以上を取得する必要があります。

(1) 基礎科目 (12単位以上) ただしA領域から4単位以上、BC領域から合計8単位以上履修(ただし、C領域から4単位以上)すること。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名・他の教育機関(No.)	基	副	備考
A 心理学概論	人間の心と行動	2	心理学入門講義	永山ルツ子 教授	2		
	心理学基礎(心理学概論)	2	心理学概説講義(歴史方法・発達・性格・行動など)		2		
	心理学(コミュニティ福祉)	2	心理学概説講義(歴史方法・発達・性格・行動など)	松野 真 教授	2		他学科開放科目
	心理学特殊講義	2	心理学検定対策を通しての心理学各分野の基礎知識の学習	林 智幸 教授	2		
B 心理学 研究法	心理学研究法	2	研究法の講義(基礎領域の各種研究法・処理法の概説を含む)	永山ルツ子 教授	2		
	心理学統計法Ⅰ	2	初歩統計学を含む心理統計学の基礎的講義	林 智幸 教授	2		
	心理学統計法Ⅱ	2	多変量解析などの心理統計学の応用的講義	林 智幸 教授	2		
C 心理学 実験実習	心理学実験Ⅰ	2	知覚・記憶・社会心理など7種の実験実習	永山ルツ子 教授 林 智幸 教授	2		
	心理学実験Ⅱ	2	認知実験・行動観察法・調査・質的分析など6種の実験演習	林 智幸 教授	2		
	心理演習	2	心理支援に関する基本的知識と技能習得の演習			1	

修得単位小計【20単位】

(2) 選択科目 (16単位以上) D~Hのうち3領域で、各領域4単位以上を含み履修すること。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名・他の教育機関(No.)	基	副	備考
D 知覚心理学 学習心理学	学習・言語心理学	2	学習心理学の理論と方法論を中心とした講義	林 智幸 教授	2		
	知覚・認知心理学	2	認知心理学の基礎と現代的トピックスを中心とした講義	永山ルツ子 教授	2		
E 生理心理学 比較心理学	神経・生理心理学	2	脳神経系の構造と様々な認知機能の生理心理学的反応の講義	松岡恵子 講師 (蒲田寺子屋)	2		
F 教育心理学 発達心理学	教育・学校心理学	2	教育場面における心理学理論の講義	林 智幸 教授	2		
	発達心理学	2	発達論一般と発達心理学の講義	松野 真 教授	2		
G 臨床心理学 人格心理学	感情・人格心理学	2	性格論一般と性格心理学の講義	林 智幸 教授	2		
	臨床心理学概論	2	臨床心理学の理論と方法に関する講義		2		
	教育相談(心理学的支援法)	2	カウンセリングの諸派の理論と技法に関する講義		2		
	障害者・障害児心理学	2	様々な障害の概要と障害者・児の心理社会的支援の講義	松野 真 教授	2		

	心理的アセスメント	2	心理的アセスメントを理解し、方法や技術を身に付ける講義と演習	松野 真 教授	2		
	健康行動学 (健康・医療心理学)	2	心の健康を維持・促進させるための話題に関する講義	赤田信一 講師 (静岡大学)	2		
	福祉心理学	2	福祉現場における心理的支援に関する基本的事項の講義	波多野純 教授	2		
	精神保健論 (精神疾患とその治療)	2	福祉現場における心理的支援に関する基本的事項の講義	呉羽 かおる 講師		1	他学科 開放科目
H 社会心理学 産業心理学	産業・組織心理学	2	産業・組織心理学の歴史と現代的トピックスに関する講義	波多野純 教授	2		
	社会・集団・家族心理学	2	社会心理学の歴史と現代的トピックスに関する講義	波多野純 教授	2		
	司法・犯罪心理学	2	司法・犯罪 分野の心理的支援に関する制度及び基本的事項の講義	ジェイムス朋子 講師 (京都橘大学)	2		

修得単位小計【32単位】

(3) その他の科目 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究は心理系教員が担当している科目にのみ適用。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名・他の教育機関 (No.)	基	副	備考
I 心理学 関連科目 卒業論文 卒業研究	専門演習Ⅰ (心理系教員による)	1	心理学的手法を用いた実験と調査に関する演習Ⅰ※	心理系教員☆	1		
	専門演習Ⅱ (心理系教員による)	2	心理学的手法を用いた実験と調査に関する演習Ⅱ※	心理系教員☆	2		
	卒業研究 (心理系教員による)	4	各自の卒論テーマを記載※	心理系教員☆	4		

修得単位小計【7単位】

修得単位総計【59単位】

※専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究についても受講した授業内容・テーマを「内容」欄に記入すること。

☆心理系教員は受講した授業科目の「担当者氏名・職名」などの情報を具体的に記述すること。

## 公認心理師の受験資格と履修科目について【人間社会学科向け】

### ●公認心理師とは？

公認心理師とは、「公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健・医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者」を指します。

- ① 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ② 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④ 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

この資格を取得するためには、国が実施する公認心理師試験に合格する必要があります。公認心理師試験の受験資格を得るためには、公認心理師法で定められた所定の科目を大学在学中に全て取得して卒業した上で、(A) 大学院で別に定められた所定科目を取得するか、あるいは、(B) 公認心理師法第7条2号に規定する認定施設で一定期間の実務経験を積むか、のいずれかの条件を満たす必要があります。大学で単位取得しただけでは公認心理師資格を得られないので注意してください。

### ●公認心理師の受験資格に必要な本学で取得すべき科目

公認心理師法に定められた科目に対応するものとして、本学では下表の科目を開講しています。受験資格を得るためには下記の27科目全てを取得しなければなりません。

省令名称	本学の科目名称	学年	備考
心理学概論	心理学基礎（心理学概論）	1	
健康・医療心理学	健康行動学（健康・医療心理学）	1	
心理学研究法	心理学研究法	2	
心理学統計法	心理学統計法Ⅰ	2	Ⅱもあり
心理学実験	心理学実験Ⅰ	2	Ⅱもあり
発達心理学	発達心理学	2	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	
心理学統計法	心理学統計法Ⅱ	3	Ⅰもあり
心理学実験	心理学実験Ⅱ	3	Ⅰもあり
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	3	
感情・人格心理学	感情・人格心理学	3	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	3	
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	
心理学的支援法	教育相談（心理学的支援法）	3	
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	
心理的アセスメント	心理的アセスメント	3	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	3	

福祉心理学	福祉心理学	3	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3	
関係行政論	関係行政論	3	
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	他学科
精神疾患とその治療	精神保健論（精神疾患とその治療）	3	他学科
心理実習	心理実習	3	人数制限あり
心理演習	心理演習	4	人数制限あり

●履修において注意を要する科目

(1) 「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」について

全ての科目を取得する必要があります。また授業受講者に想定する知識・技能や、授業難易度から「Ⅰ」を先に取得後に「Ⅱ」を取得してください。

(2) 「人体の構造と機能及び疾病」「精神保健論（精神疾患とその治療）」について

これらの科目はコミュニティ福祉学科の他学科開放科目なので、人間社会学科の学生も通常の履修登録手続によって受講できます。

(3) 「心理実習（3年開講）」「心理演習（4年開講）」について

授業担当者の実習生担当可能人数の問題や、実習先施設の受入可能の都合の問題により、また、受講に必要となる知識・技能などの問題から、この2科目については履修者に制限をかけます。この制限は人間社会学科・コミュニティ福祉学科合わせての人数です。

・両科目の履修者人数の制限：それぞれの科目は上限を約10人とする

・「心理実習」の履修条件：3年次開始までに「心理学検定2級以上合格」を前提とする。

また履修希望者が多い場合は、履修の明確な意思を確認した上で、「公認心理師対応科目の取得状況」「心理学検定の成績」を考慮して履修者の選抜を行う予定である。

・「心理演習」の履修条件：前年度までに「心理実習」の単位取得を前提とする。

## 社会調査士の資格と履修科目について

社会調査士とは、一般社団法人社会調査協会が認定する資格で、〈社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する「調査の専門家」〉のことであります。マーケティングや調査業務だけでなく、営業職や一般事務を含む幅広い分野での活躍が期待されています。認定試験等に合格する必要はなく、取得に必要な科目を履修して申請すると、希望者は在学中にキャンディデイト資格(取得見込資格)、卒業時の申請で正式な資格を取得できます。詳細は、社会調査協会のホームページを参照してください。

### 【取得に必要な科目】

社会調査士資格取得のためには、以下のA～Gに対応する科目を全て履修する必要があります。(ただし、EとFはどちらか1つを選択して履修すれば大丈夫です。)

社会調査士資格のカリキュラム		年次	本学の対応科目名	2025年度担当
A	社会調査の基本的事項に関する科目	2～	社会調査法(注1)	毛利康秀
B	調査設計と実施方法に関する科目	2～	アンケート調査法	郭 育仁
C	基本的な資料とデータの分析に関する科目	2～	観光学研究法	郭 育仁
D	社会調査に必要な統計学に関する科目	2～	心理学統計法Ⅰ	林 智幸
E	量的データ解析の方法に関する科目	3～	心理学統計法Ⅱ	林 智幸
F	質的な調査と分析の方法に関する科目	2～	観光地域フィールドワーク論	毛利康秀
G	社会調査の実習を中心とする科目	3～	専門演習Ⅱ	郭 育仁
		3～	専門演習Ⅱ	洪 明真
		3～	専門演習Ⅱ	毛利康秀

(注1)「社会調査法」は、人間社会学科の開設科目(担当：毛利康秀)を履修して下さい。コミュニティ福祉学科の開設科目(担当：志田倫子)は、社会調査士資格のカリキュラムに対応していません。

(注2)社会調査士資格のカリキュラムに対応しているG科目は、観光地域デザインメジャー教員が担当する「専門演習Ⅱ」(3年生対象、担当：郭 育仁・洪 明真・毛利康秀)となります。そのため、社会調査士資格取得希望者は、観光地域デザインメジャーの郭ゼミ、洪ゼミ、または毛利ゼミを選択する必要があります。他のゼミに所属している学生で、社会調査士資格の取得を希望する場合、(少なくとも3年次は)所属ゼミの変更が必要となりますので、教員に相談してください。

### 【社会調査士(キャンディデイト)資格とその申請手順】

社会調査士資格は、大学の卒業が認定の要件になります。よって、実際の資格取得は大学卒業後となりますが、社会調査協会では、資格の就職活動での活用を想定し、社会調査士資格を取得見込みであることを証明する「社会調査士(キャンディデイト)」資格を希望者に発行しています。申請の時期は、6月中旬および10月中旬の2回です。詳細はG科目の履修者を対象に、別途案内します。

※キャンディデイト資格の申請時に審査・認定手数料がかかります。

### 【社会調査士資格の申請手順】

社会調査士資格(キャンディデイト資格からの変更も含む)の申請は、卒業前の1月から3月にかけて、社会調査協会のホームページから学生自身で手続きを行います。さらに、単位取得と卒業を証明する書類等を卒業までに準備しておく必要があります。詳細はG科目の履修者を対象に、別途案内します。

※社会調査士資格の申請時に審査・認定手数料がかかります。

## アントレプレナー育成プログラムについて【人間社会学科向け】

激しく変化する社会情勢等により、多くの既存企業が変革を迫られ、在宅ワークを始め今までの業態が大きく変わってきています。そのため、専門知識と起業できる力を身に付け、社会の問題解決に自分で企業経営を行うという手法を使って取り組んでいく人材育成を目的とし、このプログラムを修得した学生に対し本学独自の認証資格としてオープンバッジ（デジタル証明書）を発行します。発行希望者は、プログラム修了後、学部事務室へ申し込みください。

### 【オープンバッジとは？】

可視化された「学習歴」であり、就職活動等に利用できます。

（一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク <https://www.openbadge.or.jp/about-ob>）

### 【修得すべき科目】

次の全ての科目を修得する必要があります。

科目名称	学年	備考
現代の国際社会	1	
異文化の理解	1	
経営学基礎	1	
社会学基礎	1	毛利康秀教員の科目の単位を修得
社会福祉総論 I	1	
地域福祉論 I	1	
地域創造フィールドワーク	1	
外国文化フィールドワーク	1	任意修得
国際福祉	1	他学科
キャリア形成論	1	
マーケティング論	2	
起業・経営戦略実践論	2	
商法	2	
ビジネスと法	2	
地域社会学	2	
観光地域フィールドワーク論	2	
地域政策論	3	
ソーシャル・ビジネス論	3	
中小企業論	3	
NPO 論	3	他学科
インターンシップ	3	任意修得

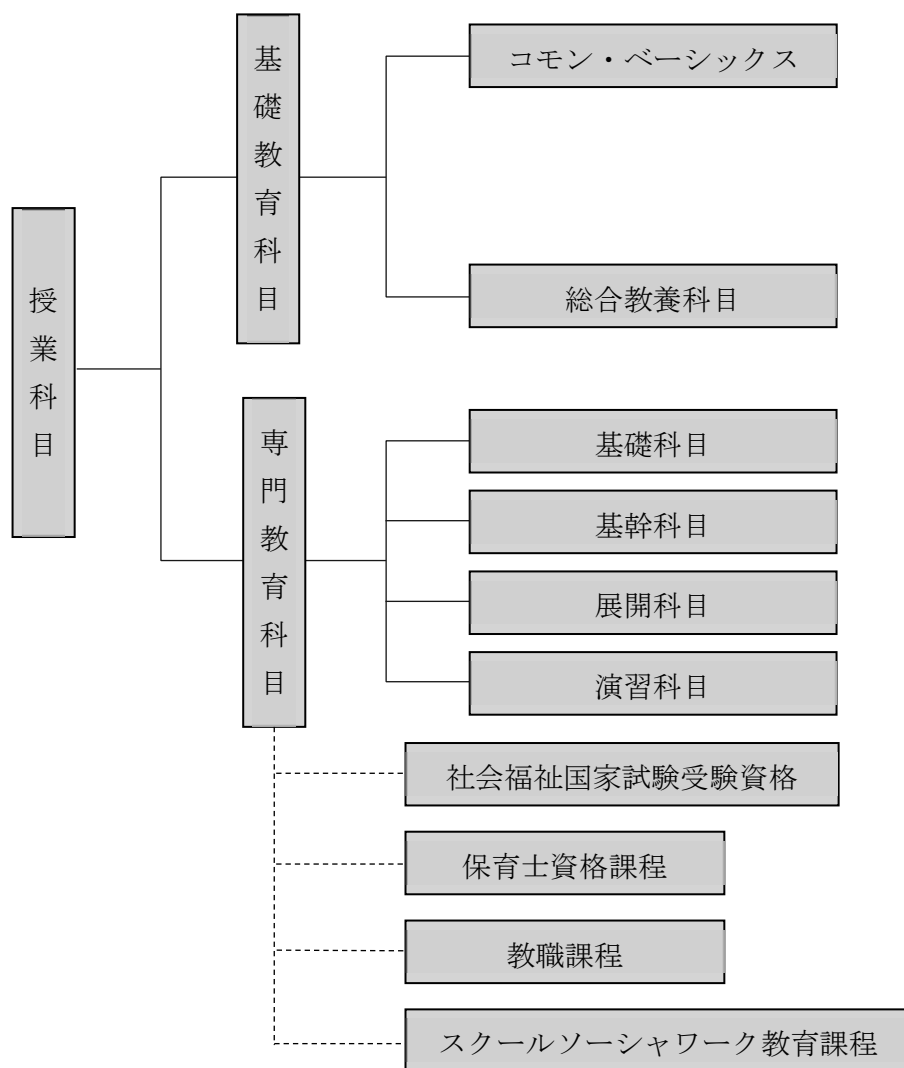
### 【履修可能メジャー】

経済経営メジャー、観光地域デザインメジャーのいずれかに所属する（予定を含む）学生が対象です。

# コミュニティ福祉学科 (Department of Community and Social Welfare)

授業科目の分類

2023 年度入学生用



卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	2 ※	14
		外国語表現力	1	3		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
基礎教育科目	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2		12
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解	—	4		
専門教育科目		基礎科目	10	4	4 ◎	98
		基幹科目	—	30		
		展開科目	—	40		
		演習科目	10	—		
合計			27	97		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から2単位選択する。

◎さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から4単位選択する。

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
日本語表現力	日本語表現法	2		1				前期	菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・久保博雅(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修 2 単位を含め 4 単位以上
	日本語朗読法		2	1				前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)	
	日本語読解法		2	1				後期	久保博雅・菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)	
	日本語文章構成法		2	1				前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)	
外国語表現力	総合英語基礎	1		1		◎	◎	前期	ハリントン(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、鈴木恵子(G・J)、森 雅人(H・K)	必修 1 単位を含め 4 単位以上
	英語リスニング&スピーキング I		1	1				前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語リスニング&スピーキング II		1	1				後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)	
	英語スピーチクリニック		1	1		○	○	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)	
	英語リスニングスキル		1	1		○	○	前期・後期	松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)	
	英語ボキャブラリービルディング		1	1		○	○	前期・後期	ピーターズ(A・B 前期、C 後期)	
	英語構文理解		1	1		○	○	後期	鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B・C)	
	英語文章理解		1	2				前期・後期	鬼塚大輔(A 前期)、幸田明子(B・C 後期)	
	英語文章表現法		1	2		○	○	前期	幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)	
	総合英語応用 I		1	1		○	○		開講せず	
	総合英語応用 II		1	1		○	○	後期	松永ジョアンナ	
	総合英語応用 III		1	1				後期	鈴木恵子	
	総合英語応用 IV		1	1					開講せず	
	総合英語応用 V		1	1				後期	鬼塚大輔	
	フランス語 I		1	1		○	○	前期・後期	今野喜和人(A・B 前期・C 後期)	
	フランス語 II		1	1		○	○	後期	今野喜和人	
	ドイツ語 I		1	1		○	○	前期	小柴浩稔	
	ドイツ語 II		1	1		○	○	後期	小柴浩稔	
	中国語 I		1	1		○	○	前期・後期	望月裕之(A・B 前期・C 後期)	
	中国語 II		1	1		○	○	後期	望月裕之	
韓国語 I		1	1		○	○	前期・後期	大木喜義(A・B 前期・C・D 後期)		
韓国語 II		1	1		○	○	前期・後期	大木喜義(A・B)		
日本語 I (留学生用)		1	1				前期	菊池綾香		
日本語 II (留学生用)		1	1				後期	菊池綾香		
情報処理	ネットワーク・リテラシー	2		1		◎	○	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、飯塚重善(F)、永田正樹(Z 再履修 前期 2 コマ)	必修 2 単位を含め 2 単位以上
	情報発信演習 I		1	1		○	○	前期・後期	渡辺 司(A 前期・C 後期)、金承子(B 前期)	
	情報発信演習 II		1	2		○	○	前期	沖山貴裕	
	Web クリエイター演習		1	2		○	○	後期	飯塚重善 (A・B)	
	社会基盤の ICT 概論		2	2				後期	飯塚重善	
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2				前期	相良陸成	
	データベース		2	2				前期・後期	湯瀬裕昭 (A 前期・B 後期)	

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択									
コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	健 康 と 余 暇	健康余暇論		2	1		◎		後期	赤田信一	2 単位以上	
		健康行動学 (健康・医療心理学)		2	1				後期	赤田信一		
		スポーツ実技 I		1	1		◎	◎	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)		
									前期・後期	森 啓彰(卓球 A・B)		
		スポーツ実技 II		1	1		◎	◎	前期・後期	森 啓彰(バレーボール A・B)		
									前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)		
		ヨガ I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
		ヨガ II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目
フィットネス・セルフケア I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
フィットネス・セルフケア II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
コモン・ベーシックス全体から、さらに2単位を選択のうえ計14単位以上												
総 合 教 養 科 目	キ リ ス ト 教 と 人 間 の 理 解	キリスト教学	2		1		◎		後期	佐々木謙一	必修2単位を 含め4単位以上	
		キリスト教と現代社会		2	1				前期	佐々木謙一		
		人間と哲学		2	1				後期	佐々木謙一		
		人間と教育		2	1				前期	金田健司		
		人間と文学		2	1				後期	古郡康人		
		人間の心と行動		2	1		○		後期	永山ルツ子		
	現 代 社 会 と 国 際 理 解	人間と社会生活		2	1		○		前期	毛利康秀	4 単位以上	
		社会生活と法		2	1		○		後期	板倉美奈子		
		日本国憲法		2	1		○	◎	前期	板倉美奈子		
		経済と社会		2	1		○		後期	勝田佳裕		
		現代の国際社会		2	1		○		後期	服部慶亘		
		歴史と社会		2	1		○		後期	毛利康秀		
	科 学 と 環 境 の 理 解	生命の科学		2	1		○		前期	池谷和子	4 単位以上	
		健康と栄養科学		2	1		○		前期	杉本富士子		
		自然と災害		2	1				後期	湯佐泰久		
		科学技術と地球環境		2	1				後期	雨谷敬史		
	地 域 の 理 解	静岡の自然と環境		2	1				前期	湯佐泰久	4 単位以上	
		静岡の歴史と文化		2	1				前期	小和田泰経		
静岡の風土と文学			2	1				前期	古郡康人			
地域創造フィールドワーク			2	1				後期	毛利康秀			
計 12 単位以上												
合計 26 単位以上												

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1				前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 14 単位以 上履修
	人間学基礎	2		1				前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1				前期		
	社会学基礎		2	1				前期	志田倫子(A)・毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1				後期	菅 隆彦・市川充俊	
	経営学基礎		2	1				後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1				前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1				後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1				後期	久保博雅 (前半)・ 石山久美 (後半)	
	社会福祉総論 I	2		1	◎	◎		前期	呉羽かおる	
	社会福祉総論 II		2	1	◎			後期	呉羽かおる	
	地域福祉論 I		2	1	◎			前期	梓川 一	
	地域福祉論 II		2	1	◎			後期	梓川 一	
数理・データサイエンス・AI 基礎	2		1				前期	飯塚重善		
基 幹 科 目	保育原理 I		2	1		◎	◎	前期	永倉みゆき	30 単位以上 選択履修
	保育原理 II		2	1		◎	◎	後期	永倉みゆき	
	教育原理		2	1		◎	◎	前期	金田健司	
	幼児教育課程総論		2	2		◎	◎	前期	加藤寿子	
	ソーシャルワーク論 I		2	2	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論 II		2	2	◎			後期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論 III		2	2	◎			前期	鈴木 瑞	
	ソーシャルワーク論 IV		2	2	◎			後期	梓川 一	
	高齢者福祉論		2	2	◎			前期	呉羽かおる	
	介護概論		2	2				後期	大村貴美	
	障害者福祉論		2	2	◎			後期	磯野 博	
	社会保障論 I		2	2	◎			前期	磯野 博	
	社会保障論 II		2	2	◎			後期	磯野 博	
	公的扶助論		2	2	◎			前期	磯野 博	
	社会理論と社会システム		2	2	◎	○		後期	志田倫子	
	福祉サービスの組織と経営		2	2	◎			前期	曾根 允	
	医療福祉論		2	2	◎			後期	呉羽かおる	
	社会調査法		2	2	◎			前期	志田倫子	
	児童家庭福祉		2	2	◎	◎	○	後期	川島貴美江	
	保育内容総論		1	2		◎	◎	前期	菊地篤子	
	社会的養護		2	2		◎	○	前期	川島貴美江	
	保育の心理学		1	2		◎	○	後期	松野 真	
	教育・学校心理学		2	2			○	後期	林 智幸	
	発達心理学		2	2		◎	○	前期	松野 真	
	子どもの食と栄養 I		1	2		◎		前期	杉本富士子	
	子どもの食と栄養 II		1	2		◎		後期	杉本富士子	
子どもの保健		2	2		◎		前期	片川智子		
保育内容論－健康		2	2		○	◎	前期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容論－人間関係		2	2		○	◎	前期	志田倫子		
保育内容論－環境		2	2		○	◎	前期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容論－言葉		2	2		○	◎	前期	赤羽尚美		
保育内容論－表現		2	2		○	◎	前期	内山尚美		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 幹 科 目	教師論		2	1			◎	後期	金田健司	30 単位以上 選択履修
	教育社会学		2	1			◎	後期	金田健司	
	教育方法論 (ICT 活用の理論と実践を含む)		2	2				前期	園田明人	
	幼児教育の方法と技術		2	2			◎	後期	加藤寿子	
	社会・集団・家族心理学		2	2				後期	波多野純	
	心理学特殊講義		2	2				前期	林 智幸	
展 開 科 目	人体の構造と機能及び疾病		2	2	◎			後期	片川智子	40 単位以上 選択履修
	心理学		2	3	◎			前期	松野 真	
	ソーシャルワーク論Ⅴ		2	3	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論Ⅵ		2	3	◎			前期	川島貴美江	
	司法福祉論		2	3	◎			前期	飯田智子	
	権利擁護を支える法制度		2	3	◎			後期	増田京子	
	スクールソーシャルワーク論		2	3				後期	栗原拓也	
	ソーシャルサービス・イノベーション演習		1	3				後期	志田倫子・梓川 一・栗原拓也	
	社会福祉特講Ⅰ		2	4				前期	梓川 一 他	
	社会福祉特講Ⅱ		2	4				後期	梓川 一 他	
	子ども家庭支援論		2	3		◎		前期	川島貴美江	
	生活学		2	3		○		前期	犬塚協太	
	精神保健論 (精神疾患とその治療)		2	3				後期	呉羽かおる	
	総合リハビリテーション論		2	3		○		前期	橋本尚幸・山内一之	
	介護技術論		2	3		○		後期	木林身江子・大石桂子	
	老年学		2	3				前期	呉羽かおる	
	女性福祉論		2	3					開講せず	
	NPO 論		2	3				前期	梓川 一・飯田智子	
	臨床心理学概論		2	2				後期		
	レクリエーション論Ⅰ		2	3				前期	青野宏子	
	レクリエーション論Ⅱ		2	3				後期	青野宏子	
	体育・表現		1	2		◎	○	後期前半	山田美代子	
	音楽療法入門		2	2		○		後期	山田美代子	
	海外福祉現地研究		2	1					開講せず	
幼児理解		2	3		○	◎	前期	永倉みゆき		
保育内容演習－健康		1	2		◎	◎	後期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容演習－人間関係		1	2		◎	◎	後期	菊地篤子		
保育内容演習－環境		1	2		◎	◎	後期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容演習－言葉		1	2		◎	◎	後期	赤羽尚美		
保育内容演習－表現		1	2		◎	◎	後期	内山尚美		

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
	必修	選択							
教育・保育相談		1	3		◎	◎	後期	松野 真	40 単位以上 選択履修
ピアノ教育		1	1		○	○	前期・後期	山田美代子	
音楽表現		1	1		◎	○	前期・後期	内山尚美(A 前期・B 後期)	
歌唱伴奏法		1	2		○		前期・後期	内山尚美(A 前期・B 後期)	
造形 I		1	1		◎	○	前期	木俣創志(A・B)	
造形 II		1	1		○		前期	木俣創志	
乳児保育 I		2	1		◎		前期	片川智子	
乳児保育 II		1	1		◎		後期	片川智子	
障害児保育 I		1	2		◎		前期	金子明子	
障害児保育 II		1	2		◎		後期	金子明子	
子どもと言葉		1	2		◎	○	後期	赤羽尚美	
社会的養護内容		1	2		◎		後期	川島貴美江	
子ども家庭支援の心理学		2	3		◎		前期	松野 真	
ミュージカル I		2	3		○		前期	内山尚美	
ミュージカル II		2	3		○		後期	内山尚美	
国際福祉		2	1				後期	鈴木 瑞	
相談援助演習 I		1	2	◎			前期	鈴木 瑞・呉羽かおる	
相談援助演習 II		1	2	◎			後期	栗原拓也・梓川 一	
相談援助演習 III		1	2	◎			後期	栗原拓也・梓川 一	
相談援助演習 IV		1	3	◎			前期	増田京子	
相談援助演習 V		1	3	◎			後期	梓川 一・栗原拓也	
スクールソーシャルワーク演習		1	4				前期前半	開講せず	
ソーシャルワーク実習指導 I		1	2	◎			後期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習指導 II		1	3	◎			前期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習指導 III		1	3	◎			後期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習 I		1	2	◎			後期集中	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習 II		5	3	◎			前期集中	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
スクールソーシャルワーク実習指導		1	4				通年	開講せず	
スクールソーシャルワーク実習		2	4				集中	開講せず	
子どもの健康と安全		1	3		◎		後期	片川智子	
感情・人格心理学		2	3				後期	林 智幸	
障害者・障害児心理学		2	3				後期	松野 真	
心理的アセスメント		2	3				後期	松野 真	
教育相談(心理学的支援法)		2	3				前期		
福祉心理学		2	3				後期	波多野純	
司法・犯罪心理学		2	3				後期	ジェイムス朋子	
産業・組織心理学		2	3				後期	波多野純	
心理演習		2	4				後期		
心理実習		2	3				集中	林 智幸・波多野純	

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼稚園 教諭	期 間	担 当 者	備 考	
	必修	選択								
展 開 科 目		2	2		◎		後期集中	永倉みゆき・内山尚美・赤羽尚美	40 単位以上 選択履修	
	保育実習Ⅰ（施設）		2	3		◎	後期集中	川島貴美江・松野真		
	保育実習Ⅱ		2	4		☆	前期集中	永倉みゆき・山田美代子・赤羽尚美		
	保育実習Ⅲ		2	4		☆	前期集中	川島貴美江・栗原拓也		
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		1	2		◎	後期	永倉みゆき・内山尚美・赤羽尚美		
	保育実習指導Ⅰ（施設）		1	3		◎	後期	川島貴美江・松野真		
	保育実習指導Ⅱ		1	4		★	前期	永倉みゆき・山田美代子・赤羽尚美		
	保育実習指導Ⅲ		1	4		★	前期	川島貴美江・栗原拓也		
	幼稚園教育実習指導		1	3		◎	前期	内山尚美・永倉みゆき		
	幼稚園教育実習		4	3		◎	前期	内山尚美・永倉みゆき		
	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	4		◎	◎	後期		川島貴美江・永倉みゆき・赤羽尚美
	ICTと福祉		2	1				前期		飯塚重善
	障害者スポーツ		2	1				後期		黒岩一雄
	キャリア形成論		1	1				前期		宇賀田栄次
	インターンシップ		1	3				前期集中		宇賀田栄次
	キャリアスタディ		2	2				後期		開講せず
	キャリアデザイン演習Ⅰ		1	3				前期		宇賀田栄次
	キャリアデザイン演習Ⅱ		1	3				後期		宇賀田栄次
基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに4単位を選択のうえ88単位以上										
演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1			前期	松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、呉羽		
	基礎演習Ⅱ	1		1			後期	梓川、松野、飯塚、金田、志田、赤羽、鈴木、呉羽		
	基礎演習Ⅲ	1		2			前期	金田、志田、赤羽、飯塚		
	基礎演習Ⅳ	1		2			後期	金田、志田、赤羽、飯塚		
	専門演習Ⅰ	1		3			前期	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
	専門演習Ⅱ	1		3			後期	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
	卒業研究	4		4			通年	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
合計 98 単位以上										

◎必修科目 ○選択必修科目

**保育士資格について**

専門教育科目の○から6単位以上選択必修。

☆と★は、それぞれⅡ、Ⅲのうち、どちらか同じ数字のものを合せて3単位選択必修。

**幼稚園教諭免許について**

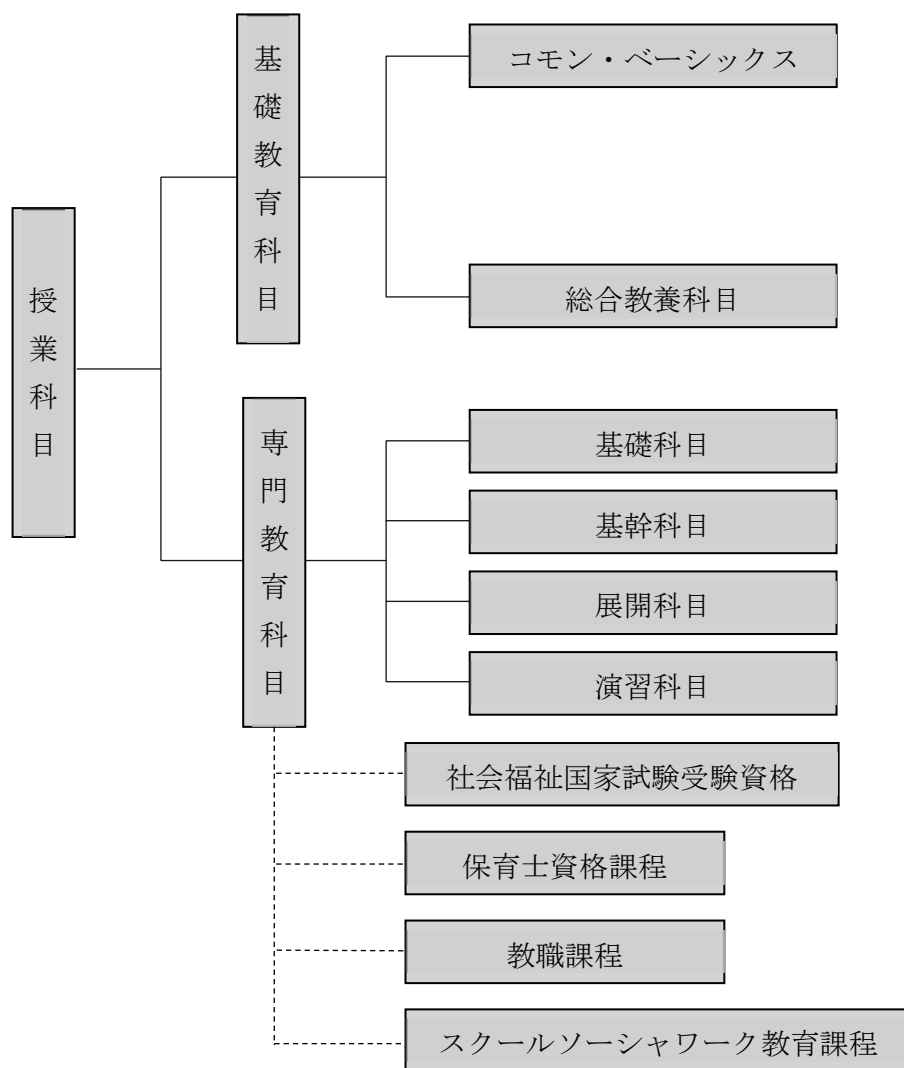
「教育・学校心理学」または「発達心理学」のうちどちらかを選択必修。

資格に関する科目選択については、該当するページの説明を参照。

# コミュニティ福祉学科 (Department of Community and Social Welfare)

授業科目の分類

2024・2025・2026 年度入学生用



卒業要件単位数

		科目群	必修	選択		卒業要件単位
基礎教育科目	コモン・ベーシックス	日本語表現力	2	2	2 ※	14
		外国語表現力	2	2		
		情報処理	2	—		
		健康と余暇	—	2		
基礎教育科目	総合教養科目	キリスト教と人間の理解	2	2		12
		現代社会と国際理解	—	4		
		科学と環境の理解	—	4		
		地域の理解	—	4		
専門教育科目		基礎科目	10	4	4 ◎	98
		基幹科目	—	30		
		展開科目	—	40		
		演習科目	10	—		
合計			28	96		124

※さらにコモン・ベーシックス全体から2単位選択する。

◎さらに基礎科目、基幹科目、展開科目全体から4単位選択する。

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考	
	必修	選択								
日本語表現力	日本語表現法	2	1				前期	菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・久保博雅(B)、磯貝信二(C 再履修)	必修2単位を含め4単位以上	
	日本語朗読法		2	1			前期・後期	今村政司(A 前期・B 後期)		
	日本語読解法		2	1			後期	久保博雅・菊池綾香(A 留学生)、鈴木正和・古郡康人(B)		
	日本語文章構成法		2	1			前期・後期	畑恵里子(A 前期・B 後期)		
外国語表現力	総合英語基礎	2	1		◎	◎	前期	ハリントン(A)、松永ジョアンナ(B)、マックローリー(C)、鬼塚大輔(D)、幸田明子(E)、鈴木恵子(G・J)、森 雅人(H・K)	必修2単位を含め4単位以上	
	英語リスニング&スピーキングⅠ	1	1				前期	ハリントン(A)、クレイナー(B)		
	英語リスニング&スピーキングⅡ	1	1				後期	ハリントン(A)、クレイナー(B)		
	英語スピーチクリニック		1	1		○	○	前期・後期		松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)
	英語リスニングスキル		1	1		○	○	前期・後期		松永ジョアンナ(A 前期・B 後期)、ハリントン(C 前期)
	英語ボキャブラリービルディング		1	1		○	○	前期・後期		ピーターズ(A・B 前期、C 後期)
	英語構文理解		1	1		○	○	後期		鬼塚大輔(A)、ピーターズ(B・C)
	英語文章理解		1	2				前期・後期		鬼塚大輔(A 前期)、幸田明子(B・C 後期)
	英語文章表現法		1	2		○	○	前期		幸田明子(A)、鬼塚大輔(B)
	総合英語応用Ⅰ		1	1		○	○			開講せず
	総合英語応用Ⅱ		1	1		○	○	後期		松永ジョアンナ
	総合英語応用Ⅲ		1	1				後期		鈴木恵子
	総合英語応用Ⅳ		1	1						開講せず
	総合英語応用Ⅴ		1	1				後期		鬼塚大輔
	フランス語Ⅰ		1	1		○	○	前期・後期		今野喜和人(A・B 前期・C 後期)
	フランス語Ⅱ		1	1		○	○	後期		今野喜和人
	ドイツ語Ⅰ		1	1		○	○	前期		小柴浩稔
	ドイツ語Ⅱ		1	1		○	○	後期		小柴浩稔
	中国語Ⅰ		1	1		○	○	前期・後期		望月裕之(A・B 前期・C 後期)
	中国語Ⅱ		1	1		○	○	後期		望月裕之
韓国語Ⅰ		1	1		○	○	前期・後期	大木喜義(A・B 前期・C・D 後期)		
韓国語Ⅱ		1	1		○	○	前期・後期	大木喜義(A・B)		
日本語Ⅰ(留学生用)		1	1				前期	菊池綾香		
日本語Ⅱ(留学生用)		1	1				後期	菊池綾香		
情報処理	ネットワーク・リテラシー	2	1		◎	○	通年	湯瀬裕昭(A)、渡邊貴之(B・C)、渡辺 司(D・E)、柳川信一(G・J)、沖山貴裕(H・I)、飯塚重善(F)、永田正樹(Z 再履修 前期2コマ)	必修2単位を含め2単位以上	
	情報発信演習Ⅰ		1	1		○	○	前期・後期		渡辺 司(A 前期・C 後期)、金承子(B 前期)
	情報発信演習Ⅱ		1	2		○	○	前期		沖山貴裕
	Webクリエイター演習		1	2		○	○	後期		飯塚重善(A・B)
	社会基盤のICT概論		2	2				後期		飯塚重善
	アルゴリズムとプログラミングの基本		2	2				前期		相良陸成
	データベース		2	2				前期・後期		湯瀬裕昭(A 前期・B 後期)

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考		
		必修	選択									
コ モ ン ・ ベ ー シ ッ ク ス	健康余暇論		2	1		◎		後期	赤田信一	2 単位以上		
	健康行動学 (健康・医療心理学)		2	1				後期	赤田信一			
	スポーツ実技 I		1	1		◎	◎	前期・後期	祝原 豊(バスケットボール A・B)			
								前期・後期	森 啓彰(卓球 A・B)			
	スポーツ実技 II		1	1		◎	◎	前期・後期	森 啓彰(バレーボール A・B)			
								前期・後期	黒岩一雄(バドミントン A・B)			
	ヨガ I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目	
	ヨガ II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)		※単位互換科目	
フィットネス・セルフケア I		1	1				前期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
フィットネス・セルフケア II		1	1				後期	佐鳥明子(JU フィットネスインストラクター)	※単位互換科目			
コモン・ベーシックス全体から、さらに2単位を選択のうえ計14単位以上												
総 合 教 養 科 目	キ リ ス ト 教 と 人 間 の 理 解	キリスト教学	2		1		◎		後期	佐々木謙一	必修2単位を 含め4単位以上	
		キリスト教と現代社会		2	1				前期	佐々木謙一		
		人間と哲学		2	1				後期	佐々木謙一		
		人間と教育		2	1				前期	金田健司		
		人間と文学		2	1				後期	古郡康人		
		人間の心と行動		2	1			○	後期	永山ルツ子		
	現 代 社 会 と 国 際 理 解	人間と社会生活		2	1			○	前期	毛利康秀	4 単位以上	
		社会生活と法		2	1			○	後期	板倉美奈子		
		日本国憲法		2	1			○	◎	前期		板倉美奈子
		経済と社会		2	1			○	後期	勝田佳裕		
		現代の国際社会		2	1			○	後期	服部慶亘		
		歴史と社会		2	1			○	後期	毛利康秀		
	科 学 と 環 境 の 理 解	異文化の理解		2	1				後期	鈴木 瑞	4 単位以上	
		生命の科学		2	1			○	前期	池谷和子		
		健康と栄養科学		2	1			○	前期	杉本富士子		
		自然と災害		2	1				後期	湯佐泰久		
地 域 の 理 解	科学技術と地球環境		2	1				後期	雨谷敬史	4 単位以上		
	静岡の自然と環境		2	1				前期	湯佐泰久			
	静岡の歴史と文化		2	1				前期	小和田泰経			
	静岡の風土と文学		2	1				前期	古郡康人			
	地域創造フィールドワーク		2	1				後期	毛利康秀			
計 12 単位以上												
合計 26 単位以上												

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 礎 科 目	人間社会総論	2		1				前期	オムニバス	必修 10 単位を 含む 14 単位以 上履修
	人間学基礎	2		1				前期	佐々木謙一	
	心理学基礎 (心理学概論)	2		1				前期		
	社会学基礎		2	1				前期	志田倫子(A)・毛利康秀(B)	
	経済学基礎		2	1				後期	菅 隆彦・市川充俊	
	経営学基礎		2	1				後期	川島美奈子	
	日本文化論基礎		2	1				前期	畑恵里子	
	英米文化論基礎		2	1				後期	狭間敏行	
	言語学基礎		2	1				後期	久保博雅 (前半)・石山久美 (後半)	
	社会福祉総論 I	2		1	◎	◎		前期	呉羽かおる	
	社会福祉総論 II		2	1	◎			後期	呉羽かおる	
	地域福祉論 I		2	1	◎			前期	梓川 一	
	地域福祉論 II		2	1	◎			後期	梓川 一	
	数理・データサイエンス・AI 基礎	2		1				前期	飯塚重善	
基 幹 科 目	保育原理 I		2	1		◎	◎	前期	永倉みゆき	30 単位以上 選択履修
	保育原理 II		2	1		◎	◎	後期	永倉みゆき	
	教育原理		2	1		◎	◎	前期	金田健司	
	幼児教育課程総論		2	2		◎	◎	前期	加藤寿子	
	ソーシャルワーク論 I		2	2	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論 II		2	2	◎			後期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論 III		2	2	◎			前期	鈴木 瑞	
	ソーシャルワーク論 IV		2	2	◎			後期	梓川 一	
	高齢者福祉論		2	2	◎			前期	呉羽かおる	
	介護概論		2	2				後期	大村貴美	
	障害者福祉論		2	2	◎			後期	磯野 博	
	社会保障論 I		2	2	◎			前期	磯野 博	
	社会保障論 II		2	2	◎			後期	磯野 博	
	公的扶助論		2	2	◎			前期	磯野 博	
	社会理論と社会システム		2	2	◎	○		後期	志田倫子	
	福祉サービスの組織と経営		2	2	◎			前期	曾根 允	
	医療福祉論		2	2	◎			後期	呉羽かおる	
	社会調査法		2	2	◎			前期	志田倫子	
	児童家庭福祉		2	2	◎	◎	○	後期	川島貴美江	
	保育内容総論		1	2		◎	◎	前期	菊地篤子	
	社会的養護		2	2		◎	○	前期	川島貴美江	
	保育の心理学		1	2		◎	○	後期	松野 真	
	教育・学校心理学		2	2			○	後期	林 智幸	
	発達心理学		2	2		◎	○	前期	松野 真	
	子どもの食と栄養 I		1	2		◎		前期	杉本富士子	
	子どもの食と栄養 II		1	2		◎		後期	杉本富士子	
	子どもの保健		2	2		◎		前期	片川智子	
	保育内容論－健康		2	2		○	◎	前期	永倉みゆき・山田美代子	
	保育内容論－人間関係		2	2		○	◎	前期	志田倫子	
	保育内容論－環境		2	2		○	◎	前期	永倉みゆき・山田美代子	
保育内容論－言葉		2	2		○	◎	前期	赤羽尚美		
保育内容論－表現		2	2		○	◎	前期	内山尚美		

	授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
		必修	選択							
基 幹 科 目	教師論		2	1			◎	後期	金田健司	30 単位以上 選択履修
	教育社会学		2	1			◎	後期	金田健司	
	教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	2				前期	園田明人	
	幼児教育の方法と技術		2	2			◎	後期	加藤寿子	
	社会・集団・家族心理学		2	2				後期	波多野純	
	心理学特殊講義		2	2				前期	林 智幸	
展 開 科 目	人体の構造と機能及び疾病		2	2	◎			後期	片川智子	40 単位以上 選択履修
	心理学		2	3	◎			前期	松野 真	
	ソーシャルワーク論Ⅴ		2	3	◎			前期	栗原拓也	
	ソーシャルワーク論Ⅵ		2	3	◎			前期	川島貴美江	
	司法福祉論		2	3	◎			前期	飯田智子	
	権利擁護を支える法制度		2	3	◎			後期	増田京子	
	スクールソーシャルワーク論		2	3				後期	栗原拓也	
	ソーシャルサービス・イノベーション演習		1	3				後期	志田倫子・梓川 一・栗原拓也	
	社会福祉特講Ⅰ		2	4				前期	梓川 一 他	
	社会福祉特講Ⅱ		2	4				後期	梓川 一 他	
	子ども家庭支援論		2	3		◎		前期	川島貴美江	
	生活学		2	3		○		前期	犬塚協太	
	精神保健論（精神疾患とその治療）		2	3				後期	呉羽かおる	
	総合リハビリテーション論		2	3		○		前期	橋本尚幸・山内一之	
	介護技術論		2	3		○		後期	木林身江子・大石桂子	
	老年学		2	3				前期	呉羽かおる	
	女性福祉論		2	3					開講せず	
	NPO 論		2	3				前期	梓川 一・飯田智子	
	臨床心理学概論		2	2				後期		
	レクリエーション論Ⅰ		2	3				前期	青野宏子	
	レクリエーション論Ⅱ		2	3				後期	青野宏子	
	体育・表現		1	2		◎	○	後期前半	山田美代子	
	音楽療法入門		2	2		○		後期	山田美代子	
	海外福祉現地研究		2	1					開講せず	
幼児理解		2	3		○	◎	前期	永倉みゆき		
保育内容演習－健康		1	2		◎	◎	後期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容演習－人間関係		1	2		◎	◎	後期	菊地篤子		
保育内容演習－環境		1	2		◎	◎	後期	永倉みゆき・山田美代子		
保育内容演習－言葉		1	2		◎	◎	後期	赤羽尚美		
保育内容演習－表現		1	2		◎	◎	後期	内山尚美		

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼 稚 園 教 諭	期 間	担 当 者	備 考
	必修	選択							
教育・保育相談		1	3		◎	◎	後期	松野 真	40 単位以上 選択履修
ピアノ教育		1	1		○	○	前期・後期	山田美代子	
音楽表現		1	1		◎	○	前期・後期	内山尚美(A 前期・B 後期)	
歌唱伴奏法		1	2		○		前期・後期	内山尚美(A 前期・B 後期)	
造形 I		1	1		◎	○	前期	木俣創志(A・B)	
造形 II		1	1		○		前期	木俣創志	
乳児保育 I		2	1		◎		前期	片川智子	
乳児保育 II		1	1		◎		後期	片川智子	
障害児保育 I		1	2		◎		前期	金子明子	
障害児保育 II		1	2		◎		後期	金子明子	
子どもと言葉		1	2		◎	○	後期	赤羽尚美	
社会的養護内容		1	2		◎		後期	川島貴美江	
子ども家庭支援の心理学		2	3		◎		前期	松野 真	
ミュージカル I		2	3		○		前期	内山尚美	
ミュージカル II		2	3		○		後期	内山尚美	
国際福祉		2	1				後期	鈴木 瑞	
相談援助演習 I		1	2	◎			前期	鈴木 瑞・呉羽かおる	
相談援助演習 II		1	2	◎			後期	栗原拓也・梓川 一	
相談援助演習 III		1	2	◎			後期	栗原拓也・梓川 一	
相談援助演習 IV		1	3	◎			前期	増田京子	
相談援助演習 V		1	3	◎			後期	梓川 一・栗原拓也	
スクールソーシャルワーク演習		1	4				前期前半	開講せず	
ソーシャルワーク実習指導 I		1	2	◎			後期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習指導 II		1	3	◎			前期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習指導 III		1	3	◎			後期	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習 I		1	2	◎			後期集中	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
ソーシャルワーク実習 II		5	3	◎			前期集中	梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・ 呉羽かおる	
スクールソーシャルワーク実習指導		1	4				通年	開講せず	
スクールソーシャルワーク実習		2	4				集中	開講せず	
子どもの健康と安全		1	3		◎		後期	片川智子	
感情・人格心理学		2	3				後期	林 智幸	
障害者・障害児心理学		2	3				後期	松野 真	
心理的アセスメント		2	3				後期	松野 真	
教育相談（心理学的支援法）		2	3				前期		
福祉心理学		2	3				後期	波多野純	
司法・犯罪心理学		2	3				後期	ジェイムス朋子	
産業・組織心理学		2	3				後期	波多野純	
心理演習		2	4				後期		
心理実習		2	3				集中	林 智幸・波多野純	

授 業 科 目	単位数		開講 学年	社 会 福祉士	保 育 士	幼稚園 教諭	期 間	担 当 者	備 考	
	必修	選択								
展 開 科 目		2	2		◎		後期集中	永倉みゆき・内山尚美・赤羽尚美	40 単位以上 選択履修	
	保育実習Ⅰ（施設）		2	3		◎	後期集中	川島貴美江・松野真		
	保育実習Ⅱ		2	4		☆	前期集中	永倉みゆき・山田美代子・赤羽尚美		
	保育実習Ⅲ		2	4		☆	前期集中	川島貴美江・栗原拓也		
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		1	2		◎	後期	永倉みゆき・内山尚美・赤羽尚美		
	保育実習指導Ⅰ（施設）		1	3		◎	後期	川島貴美江・松野真		
	保育実習指導Ⅱ		1	4		★	前期	永倉みゆき・山田美代子・赤羽尚美		
	保育実習指導Ⅲ		1	4		★	前期	川島貴美江・栗原拓也		
	幼稚園教育実習指導		1	3		◎	前期	内山尚美・永倉みゆき		
	幼稚園教育実習		4	3		◎	前期	内山尚美・永倉みゆき		
	保育・教職実践演習（幼稚園）		2	4		◎	◎	後期		川島貴美江・永倉みゆき・赤羽尚美
	ICTと福祉		2	1				前期		飯塚重善
	障害者スポーツ		2	1				後期		黒岩一雄
	キャリア形成論		1	1				前期		宇賀田栄次
	インターンシップ		1	3				前期集中		宇賀田栄次
	キャリアスタディ		2	2				後期		開講せず
	キャリアデザイン演習Ⅰ		1	3				前期		宇賀田栄次
	キャリアデザイン演習Ⅱ		1	3				後期		宇賀田栄次
基礎科目、基幹科目、展開科目全体からさらに4単位を選択のうえ88単位以上										
演 習 科 目	基礎演習Ⅰ	1		1			前期	松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、呉羽		
	基礎演習Ⅱ	1		1			後期	梓川、松野、飯塚、金田、志田、赤羽、鈴木、呉羽		
	基礎演習Ⅲ	1		2			前期	金田、志田、赤羽、飯塚		
	基礎演習Ⅳ	1		2			後期	金田、志田、赤羽、飯塚		
	専門演習Ⅰ	1		3			前期	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
	専門演習Ⅱ	1		3			後期	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
	卒業研究	4		4			通年	川島、山田、梓川、松野、飯塚、金田、内山、志田、赤羽、鈴木、栗原、呉羽		
合計 98 単位以上										

◎必修科目 ○選択必修科目

**保育士資格について**

専門教育科目の○から6単位以上選択必修。

☆と★は、それぞれⅡ、Ⅲのうち、どちらか同じ数字のものを合せて3単位選択必修。

**幼稚園教諭免許について**

「教育・学校心理学」または「発達心理学」のうちどちらかを選択必修。

資格に関する科目選択については、該当するページの説明を参照。

## コミュニティ福祉学科 履修登録上の注意事項

### 【一般事項】

- 1 履修登録後は、原則として変更は認められません。
- 2 授業科目は、基本的にそれぞれに割り当てられた学年で履修してください。
- 3 授業科目のうちで、A、B、C等の区分のあるものは、いずれか一つしか履修できません。
- 4 クラス指定がされている授業科目は、自分が指定された授業科目を履修してください。
- 5 本学に入学する前に、他の大学、短大または教育施設等において修得した単位が、本学の単位として認定されることがあります。1年入学後2週間以内に学部事務室まで申し出てください。
- 6 卒業要件は分野、系列ごとに必要単位数を満たさなければならないので、注意してください。

### 【基礎教育科目】

- 1 スポーツ実技Ⅰ・Ⅱについて
  - (1) 「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」の履修順序に制限はありません。
  - (2) 異なるスポーツ種目であっても、「スポーツ実技Ⅰ」「スポーツ実技Ⅱ」からはそれぞれ1種目しか履修できません。
- 2 フランス語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、韓国語Ⅰ・Ⅱについて
  - (1) 原則としてⅠの単位を修得していないとⅡを履修できません。

### 【専門教育科目】

- 1 資格・免許に関連する科目（実習など）については、本「履修要項」の該当ページ及び各資格のガイダンスを参考にし、遺漏のないよう注意してください。
- 2 単位不認定のため、再履修になった科目がある場合は保育士・幼稚園教諭などの資格が取得できなくなる場合があります。

# コミュニティ福祉学科 資格別履修モデル

開講学年	メジャー	社会福祉メジャー		保育・幼児教育メジャー	
	取得資格	「社会福祉士」+「スクールソーシャルワーカー」		「保育士」+「幼稚園教諭」	
1年次	基礎科目	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ
	基幹科目			保育原理Ⅰ 乳児保育Ⅰ 教育原理 教育社会学	保育原理Ⅱ 乳児保育Ⅱ 教師論
	展開科目	ICTと福祉 海外福祉現地研究	障害者スポーツ キャリア形成論	ピアノ教育 造形Ⅰ	音楽表現 造形Ⅱ
	演習科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
2年次	基幹科目	ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅲ 高齢者福祉論 障害者福祉論 社会保障論Ⅰ 社会理論と社会システム 福祉サービスの組織と経営 社会調査法	ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅳ 公的扶助論 社会保障論Ⅱ 児童家庭福祉 医療福祉論	幼児教育課程総論 児童家庭福祉 幼児教育の方法と技術 教育・学校心理学 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの保健 保育内容論-人間関係 保育内容論-言葉	保育内容総論 社会的養護 保育の心理学 発達心理学 子どもの食と栄養Ⅱ 保育内容論-健康 保育内容論-環境 保育内容論-表現
	展開科目	スクールソーシャルワーク論 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅲ	体育・表現 保育内容演習-健康 保育内容演習-環境 保育内容演習-表現 障害児保育Ⅰ 子どもと言葉 保育実習Ⅰ（保育所）	音楽療法入門 保育内容演習-人間関係 保育内容演習-言葉 歌唱伴奏法 障害児保育Ⅱ 社会的養護内容 保育実習指導Ⅰ（保育所）
	演習科目	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ
3年次	展開科目	人体の構造と機能及び疾病 ソーシャルワーク論Ⅴ 女性福祉論 権利擁護を支える法制度 介護技術論 臨床心理学概論 レクリエーション論Ⅱ 相談援助演習Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅱ キャリアデザイン演習Ⅰ インターンシップ	心理学 ソーシャルワーク論Ⅵ 司法福祉論 精神保健論（精神疾患とその治療） 老年学 レクリエーション論Ⅰ 相談援助演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習Ⅰ スクールソーシャルワーク演習 キャリアデザイン演習Ⅱ	子ども家庭支援論 生活学 総合リハビリテーション論 教育・保育相談 保育実習指導Ⅰ（施設） 幼稚園教育実習指導 ミュージカルⅠ	社会的養護内容 介護技術論 幼児理解 子どもの健康と安全 保育実習Ⅰ（施設） 幼稚園教育実習 ミュージカルⅡ
	演習科目	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ
4年次	展開科目	社会福祉特講Ⅰ スクールソーシャルワーク実習指導	社会福祉特講Ⅱ スクールソーシャルワーク実習	保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ
	演習科目		卒業研究		卒業研究

# コミュニティ福祉学科 資格別履修モデル

開講学年	メジャー 取得資格	福祉心理メジャー			
		「社会福祉士」+「公認心理師」	「保育士」または「幼稚園教諭」+「認定心理士」		
1年次	基礎科目	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 健康行動学（健康・医療心理学）	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 人間の心と行動●	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ
	基幹科目			保育原理Ⅰ 乳児保育Ⅰ 教育原理 教育社会学	保育原理Ⅱ 乳児保育Ⅱ 教師論
	展開科目			ピアノ教育 造形Ⅰ	音楽表現 造形Ⅱ
	演習科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
2年次	基幹科目	ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅲ 高齢者福祉論 障害者福祉論 社会保障論Ⅰ 医療福祉論 公的扶助論 発達心理学 心理学特殊講義 学習・言語心理学☆ 心理学研究法☆ 心理学実験Ⅰ☆	ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅳ 児童家庭福祉 福祉サービスの組織と経営 社会保障論Ⅱ 社会調査法 臨床心理学概論 教育・学校心理学 社会・集団・家族心理学 心理学統計法Ⅰ☆	幼児教育課程総論 社会的養護 幼児教育の方法と技術 発達心理学● 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの保健 保育内容論-健康 保育内容論-環境 保育内容論-表現 心理学研究法●☆ 心理学実験Ⅰ●☆	保育内容総論 児童家庭福祉 保育の心理学 教育・学校心理学● 子どもの食と栄養Ⅱ 保育内容論-人間関係 保育内容論-言葉 臨床心理学概論● 社会・集団・家族心理学● 心理学統計法Ⅰ●☆
	展開科目	相談援助演習Ⅰ	相談援助演習Ⅱ・Ⅲ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	体育・表現 保育内容演習-健康 保育内容演習-環境 保育内容演習-表現 障害児保育Ⅰ 保育実習Ⅰ（保育所） 子どもと言葉	社会的養護内容 保育内容演習-人間関係 保育内容演習-言葉 歌唱伴奏法 障害児保育Ⅱ 保育実習指導Ⅰ（保育所）
	演習科目	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ
3年次	展開科目	ソーシャルワーク論Ⅴ 相談援助演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ 司法福祉論 ソーシャルワーク実習Ⅰ 人体の構造と機能及び疾病 精神保健論（精神疾患とその治療） 教育相談（心理学的支援法） 福祉心理学 心理実習 心理学実験Ⅱ☆ 心理学統計法Ⅱ☆ 知覚・認知心理学☆	ソーシャルワーク論Ⅵ 相談援助演習Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 権利擁護を支える法制度 ソーシャルワーク実習Ⅱ 感情・人格心理学 心理的アセスメント 産業・組織心理学 障害者・障害児心理学 神経・生理心理学☆ 司法・犯罪心理学 関係行政論☆ 公認心理師の職責☆	子ども家庭支援論 子どもの健康と安全 幼稚園教育実習指導 保育実習指導Ⅰ（施設） 精神保健論（精神疾患とその治療）● 心理学● 福祉心理学● 教育相談（心理学的支援法）● 知覚・認知心理学● 心理学実験Ⅱ●☆	幼児理解 子ども家庭支援の心理学 幼稚園教育実習 保育実習Ⅰ（施設） 教育・保育相談 司法・犯罪心理学● 感情・人格心理学● 障害者・障害児心理学● 神経・生理心理学●
	演習科目	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅰ★	専門演習Ⅱ★
4年次	展開科目	社会福祉特講Ⅰ 心理演習	社会福祉特講Ⅱ	保育実習指導ⅡorⅢ 保育・教職実践演習（幼稚園）	保育実習ⅡorⅢ
	演習科目		卒業研究		卒業研究★

●は認定心理士のための科目（36単位必要、詳細は認定心理士の説明頁）

★心理学ゼミであれば認定心理士の必要単位数となる

☆は他学科開講科目

# コミュニティ福祉学科 資格別履修モデル

開講学年	メジャー 取得資格	ソーシャルサービスイノベーションメジャー			
		「アントレプレナー育成プログラム」		「アントレプレナー育成プログラム」+「社会福祉士」	
1年次	基礎科目	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 経営学基礎 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 現代の国際社会 地域創造フィールドワーク☆	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会学基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ 異文化の理解	人間社会総論 心理学基礎（心理学概論） 経営学基礎 社会福祉総論Ⅰ 地域福祉論Ⅰ 現代の国際社会 地域創造フィールドワーク☆	人間学基礎 数理・データサイエンス・AI基礎 社会学基礎 社会福祉総論Ⅱ 地域福祉論Ⅱ 異文化の理解
	展開科目	国際福祉 外国文化フィールドワーク☆	キャリア形成論 海外福祉現地研究	国際福祉 ICTと福祉	キャリア形成論 海外福祉現地研究
	演習科目	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ	基礎演習Ⅰ	基礎演習Ⅱ
2年次	基幹科目	マーケティング論☆ ビジネスと法☆ 観光地域フィールドワーク論☆ 障害者福祉論 社会理論と社会システム 医療福祉論 高齢者福祉論	商法☆ 地域社会学☆ 起業・経営戦略実践論 公的扶助論 福祉サービスの組織と経営 社会的養護	マーケティング論☆ ビジネスと法☆ 観光地域フィールドワーク論☆ 障害者福祉論 社会理論と社会システム 医療福祉論 高齢者福祉論 ソーシャルワーク論Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅲ 社会保障論Ⅰ 介護概論	商法☆ 地域社会学☆ 起業・経営戦略実践論 公的扶助論 福祉サービスの組織と経営 社会的養護 社会調査法 ソーシャルワーク論Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅳ 社会保障論Ⅱ 児童家庭福祉
	展開科目			スクールソーシャルワーク論 相談援助演習Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅲ ソーシャルワーク実習Ⅰ
	演習科目	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ	基礎演習Ⅲ	基礎演習Ⅳ
3年次	展開科目	地域政策論☆ 中小企業論☆ 子ども家庭支援論 女性福祉論 インターンシップ キャリアデザイン演習Ⅱ	ソーシャル・ビジネス論☆ NPO論 生活学 ソーシャルサービス・イノベーション演習 キャリアデザイン演習Ⅰ	地域政策論☆ 中小企業論☆ 子ども家庭支援論 女性福祉論 インターンシップ キャリアデザイン演習Ⅱ ソーシャルワーク論Ⅵ 相談援助演習Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ 人体の構造と機能及び疾病 心理学 司法福祉論	ソーシャル・ビジネス論☆ NPO論 生活学 ソーシャルサービス・イノベーション演習 キャリアデザイン演習Ⅰ ソーシャルワーク論Ⅴ 相談援助演習Ⅳ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習Ⅱ 権利擁護を支える法制度 精神保健論(精神疾患とその治療)
	演習科目	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ
4年次	展開科目			社会福祉特講Ⅰ	社会福祉特講Ⅱ
	演習科目		卒業研究		卒業研究

☆は他学科開講科目

## 「卒業研究」について【コミュニティ福祉学科】

### 1 卒業研究の位置づけ

- (1) 本学の教育課程における卒業認定単位数は 124 単位となっており、卒業研究は 4 年次にこれまでの学習の総括として行なう必修科目です。履修により 4 単位が取得できます。
- (2) 学生の関心に応じてテーマを設定し、3 年次専門演習に所属した教員の指導を受けながら研究にあたるものとします。

### 2 卒業研究の形式

#### (1) 論文・実践研究の卒業研究

- ア 様式 本文 12,000 字以上（但し、表紙・目次・脚注は本文に含めない）  
A4 版、横書き、1 ページあたりの字数 1,600 字（40 字×40 行に設定）、フォント 10.5

#### (2) 論文形式以外の卒業研究

- ア 作品概要 作品の目的・意図、製作過程・方法、考察・作品の意義を 5000 字にまとめ提出する。  
イ 様式 A4 版、横書き、1 ページあたりの字数 1,600 字（40 字×40 行に設定）、フォント 10.5

### 3 共同研究

- (1) 指導教員が適切であると認めた場合に限り、卒業研究において、複数の学生が共同研究を行い、共同執筆することができます。但し、論文・作品において各人が共同研究で担った論文、役割を明記すること。
- (2) 共同研究における各人の形式は、前記「2 卒業研究の形式」に基づくものとします。

### 4 その他

詳細については、ガイダンスで説明します。

## 社会福祉士国家試験受験資格取得について

- 1 社会福祉士とは、「社会福祉士及び介護福祉士法」に定められた資格で、「社会福祉士」の名称を用い、専門的知識・技術をもって、福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者または医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡および調整その他の援助を行うこと（相談援助）を業とする者である。
- 2 社会福祉士国家試験受験資格指定科目と本学該当科目について  
社会福祉士の国家試験受験資格を取得するためには、厚生労働大臣が指定する科目を取得しなければならない。コミュニティ福祉学科では、別表に定める指定科目に対応する科目を置いている。
- 3 履修方法について
  - (1) コミュニティ福祉学科の学生で資格取得を希望する者は、入学時から計画的に履修する必要があるため、社会福祉士受験資格のための履修ガイダンスを必ず受けること。
  - (2) 指定科目は全て必修である。
- 4 ソーシャルワーク実習について
  - (1) ソーシャルワーク実習Ⅰは、原則として2年次の春季休暇間に大学が定める福祉施設・機関において、5日間以上かつ40時間以上行う。ソーシャルワーク実習Ⅱは、原則として3年次の夏季休暇間に大学が定める福祉施設・機関において、20日間以上かつ200時間以上行う。
  - (2) ソーシャルワーク実習の履修登録は原則として2年次に行うが、時間割表の集中講義欄に記載があるので十分注意する。
  - (3) 要件
    - ア 社会福祉士国家試験受験資格の取得を希望する者であること。
    - イ 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」実習前までに、「社会福祉総論Ⅰ」「地域福祉論Ⅰ」「相談援助演習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の全てを単位取得済みであること。
    - ウ 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」実習前までに、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「相談援助演習Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」の全てを単位取得済みであること。

## 社会福祉士国家試験受験資格取得に必要な指定科目（別表）

厚生労働大臣の定める指定科目	指定科目に対応する本学授業科目	単位数
医学概論	人体の構造と機能及び疾病（2）	2
心理学と心理的支援	心理学（2）	2
社会学と社会システム	社会理論と社会システム（2）	2
社会福祉の原理と政策	社会福祉総論Ⅰ（2） 社会福祉総論Ⅱ（2）	4
社会福祉調査の基礎	社会調査法（2）	2
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論Ⅰ（2）	2
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワーク論Ⅱ（2）	2
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワーク論Ⅲ（2） ソーシャルワーク論Ⅳ（2）	4
ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワーク論Ⅴ（2） ソーシャルワーク論Ⅵ（2）	4
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ（2） 地域福祉論Ⅱ（2）	4
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営（2）	2
社会保障	社会保障論Ⅰ（2） 社会保障論Ⅱ（2）	4
高齢者福祉	高齢者福祉論（2）	2
障害者福祉	障害者福祉論（2）	2
児童・家庭福祉	児童家庭福祉（2）	2
貧困に対する支援	公的扶助論（2）	2
保健医療と福祉	医療福祉論（2）	2
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度（2）	2
刑事司法と福祉	司法福祉論（2）	2
ソーシャルワーク演習	相談援助演習Ⅰ（1）	1
ソーシャルワーク演習（専門）	相談援助演習Ⅱ（1） 相談援助演習Ⅲ（1） 相談援助演習Ⅳ（1） 相談援助演習Ⅴ（1）	4
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1） ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（1） ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（1）	3
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ（1） ソーシャルワーク実習Ⅱ（5）	6

## 保育士資格課程について

- 1 保育士とは  
保育所などの児童福祉施設における保育や地域の子育てを担う専門職。
- 2 保育士資格取得について  
コミュニティ福祉学科の学生で、所定の科目を履修し、所定の単位を修得した者は、卒業時に保育士資格を取得することができる。
- 3 履修方法について
  - (1) 保育士資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほかに、厚生労働省告示により定められた保育士資格を取得するために必要な科目と単位を修得しなければならない。
  - (2) したがって保育士資格取得を希望する者は、入学時から計画的に履修する必要がある、保育士資格取得に関する履修ガイダンスを必ず受けること。
  - (3) 保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲを履修したものは「保育・教職実践演習（幼稚園）」を4年次後期に履修すること。
  - (4) 厚生労働省告示の科目と単位に対応する本学の該当科目と単位を次ページ以降に示す。
- 4 保育実習について
  - (1) 保育実習は、本学では次のとおり実施する。
    - ア 保育実習Ⅰ（保育所実習2単位・施設実習2単位 必修）  
この実習は、2年次後期（春期休暇中）における、おおむね12日間の保育所での実習、同じく3年次後期（春期休暇中）における、おおむね12日間の保育所以外の児童養護施設等での実習及び実習終了後の事後指導からなっている。
    - イ 保育実習指導Ⅰ（演習2単位 必修）  
この授業は、保育実習の意義・目的、また実習の内容を理解し、自らの課題を明確化し、実習に際しての留意事項や計画・記録等の方法について具体的に理解する。また、事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。  
保育実習指導Ⅰ（保育所）は2年次後期、保育実習指導Ⅰ（施設）は3年次後期に行う。
    - ウ 保育実習ⅡまたはⅢ（実習2単位 選択必修）  
この授業は、4年次前期（夏期休暇中）における、おおむね12日間の保育所での実習（保育実習Ⅱ）、または12日間の児童養護施設などでの実習及び実習終了後の事後指導からなっている。
    - エ 保育実習指導ⅡまたはⅢ（演習1単位 選択必修）  
この授業は、保育実習による総合的な学び、既習の教科の内容やその関連性を踏まえ保育実践力を培い、保育士の専門性と職業倫理について理解する。実習の事後指導を通して自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。4年次前期に行う。
  - (2) 保育実習Ⅱと保育実習Ⅲはいずれか1科目を必ず履修すること。
  - (3) 保育実習履修のための条件  
保育実習の履修を希望する者は、次の条件を満たしている必要がある。
    - ア 実習生の条件
      - ・ 実習前に単位修得すべき科目の条件を満たしていること。
      - ・ 実習前に行なわれる事前指導に全出席していること。
      - ・ 実習を行うにあたり求められている提出物が、期限内にすべて提出されていること。
      - ・ これまでの学習に対する態度がまじめで、主体的に学習する意欲があること。
      - ・ 保育士資格取得のために実習を希望する者であること。
    - イ 実習前に単位修得すべき科目
      - ・ 保育実習Ⅰ（保育所）では、原則として「保育原理Ⅰ」の単位を修得済みであること。かつ、「保育原理Ⅱ」の単位を修得済みまたは履修し、単位修得予定であること。
      - ・ 保育実習Ⅰ（施設）では、原則として「社会的養護」の単位を修得済みであること。
      - ・ 保育実習Ⅱ（保育所）、保育実習Ⅲ（施設）は、ともに保育実習Ⅰが履修済みであること。加えて、保育士資格取得のための必修科目の履修計画がしっかり立ててあること。
  - (4) 保育実習の履修登録について
    - ・ 保育実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰ（保育所）の履修登録は、2年次に行う。
    - ・ 保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習指導Ⅰ（施設）の履修登録は、3年次に行う。
    - ・ 保育実習Ⅱ・Ⅲ及び保育実習指導Ⅱ・Ⅲの履修登録は、4年次に行う。

	区分	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
教 養 科 目	外 国 語	総合英語基礎	演習	1		1 単位以上 選択履修
		英語スピーチクリニック	演習		1	
		英語リスニングスキル	演習		1	
		英語ボキャブラリービルディング	演習		1	
		英語構文理解	演習		1	
		英語文章表現法	演習		1	
		総合英語応用Ⅰ	演習		1	
		総合英語応用Ⅱ	演習		1	
		フランス語Ⅰ	演習		1	
		フランス語Ⅱ	演習		1	
		ドイツ語Ⅰ	演習		1	
		ドイツ語Ⅱ	演習		1	
		中国語Ⅰ	演習		1	
		中国語Ⅱ	演習		1	
	韓国語Ⅰ	演習		1		
	韓国語Ⅱ	演習		1		
	体 育	健康余暇論	講義	2		教養科目全体から、 必修を含め 12 単位 以上選択履修
		スポーツ実技Ⅰ	実技	1		
		スポーツ実技Ⅱ	実技	1		
	そ の 他	キリスト教学	講義	2		
		人間の心と行動	講義		2	
		人間と社会生活	講義		2	
		社会生活と法	講義		2	
		日本国憲法	講義		2	
		経済と社会	講義		2	
		現代の国際社会	講義		2	
歴史と社会		講義		2		
生命の科学		講義		2		
健康と栄養科学		講義		2		
他	ネットワーク・リテラシー	演習	2			
	情報発信演習Ⅰ	演習		1		
	情報発信演習Ⅱ	演習		1		
	Webクリエイター演習	演習		1		
	小 計				12 単位以上	

(注) 厚生労働省告示では、保育士資格取得に必要な教養科目を 8 単位以上（この中には、体育に関する講義および実技をともに含む）履修することと指定しているが、本学では、上表のとおり 12 単位以上を履修するものとする。

なお、コミュニティ福祉学科の基礎教育科目では、健康余暇論、スポーツ実技Ⅰ、スポーツ実技Ⅱを選択科目としているが、保育士資格取得を希望する学生は、3 科目（4 単位）を履修すること。

	系列	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
必修科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2		14
		保育原理Ⅱ	講義	2		
		教育原理	講義	2		
		児童家庭福祉	講義	2		
		社会福祉総論Ⅰ	講義	2		
		子ども家庭支援論	講義	2		
		社会的養護	講義	2		
	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	講義	2		9
		保育の心理学	演習	1		
		子どもの保健	講義	2		
		子ども家庭支援の心理学	講義	2		
		子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1		
		子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1		
	保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程総論	講義	2		20
		保育内容総論	演習	1		
		保育内容演習－健康	演習	1		
		保育内容演習－人間関係	演習	1		
		保育内容演習－環境	演習	1		
		保育内容演習－言葉	演習	1		
		保育内容演習－表現	演習	1		
		乳児保育Ⅰ	講義	2		
		乳児保育Ⅱ	演習	1		
		子どもの健康と安全	演習	1		
		障害児保育Ⅰ	演習	1		
		障害児保育Ⅱ	演習	1		
		社会的養護内容	演習	1		
		教育・保育相談	演習	1		
		音楽表現	演習	1		
造形Ⅰ		演習	1			
子どもと言葉		演習	1			
体育・表現		演習	1			
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		4	
	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2			
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1		2	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1			
総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2		2	
小 計						51

	系列	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目	生活学	講義		2	6 単位以上
	保育の対象の理解に関する科目	社会理論と社会システム	講義		2	
		総合リハビリテーション論	講義		2	
		幼児理解	講義		2	
	保育の内容・方法に関する科目	介護技術論	講義		2	
		音楽療法入門	講義		2	
		保育内容論－健康	講義		2	
		保育内容論－人間関係	講義		2	
		保育内容論－環境	講義		2	
		保育内容論－言葉	講義		2	
		保育内容論－表現	講義		2	
		ピアノ教育	演習		1	
		歌唱伴奏法	演習		1	
		造形Ⅱ	演習		1	
		ミュージカルⅠ	講義		2	
	ミュージカルⅡ	講義		2		
	保育実習	保育実習Ⅱ	実習		2	} ☆ 3 単位 } ★
		保育実習指導Ⅱ	演習		1	
		保育実習Ⅲ	実習		2	
保育実習指導Ⅲ		演習		1		
小 計						9 単位以上

(注) 厚生労働省告示のとおり、選択必修科目を上表より 9 単位以上履修すること。  
 保育実習は、☆または★のいずれかの組み合わせを選択すること。

本学における保育士資格取得要件単位数

教 養 科 目	12 単位以上 (うち外国語 2 単位以上、体育講義、体育実技を含む)
必 修 科 目	51 単位
選 択 必 修 科 目	9 単位以上 (うち保育実習・保育実習指導を含む)
合 計	72 単位以上

	区分	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
教 養 科 目	外 国 語	総合英語基礎	演習	2		教養科目全体から、 必修を含め 12 単位 以上選択履修
		英語スピーチクリニック	演習		1	
		英語リスニングスキル	演習		1	
		英語ボキャブラリービルディング	演習		1	
		英語構文理解	演習		1	
		英語文章表現法	演習		1	
		総合英語応用Ⅰ	演習		1	
		総合英語応用Ⅱ	演習		1	
		フランス語Ⅰ	演習		1	
		フランス語Ⅱ	演習		1	
		ドイツ語Ⅰ	演習		1	
		ドイツ語Ⅱ	演習		1	
		中国語Ⅰ	演習		1	
		中国語Ⅱ	演習		1	
	韓国語Ⅰ	演習		1		
	韓国語Ⅱ	演習		1		
	体 育	健康余暇論	講義	2		
		スポーツ実技Ⅰ	実技	1		
		スポーツ実技Ⅱ	実技	1		
	そ の 他	キリスト教学	講義	2		
		人間の心と行動	講義		2	
		人間と社会生活	講義		2	
		社会生活と法	講義		2	
		日本国憲法	講義		2	
		経済と社会	講義		2	
		現代の国際社会	講義		2	
		歴史と社会	講義		2	
生命の科学		講義		2		
健康と栄養科学		講義		2		
	ネットワーク・リテラシー	演習	2			
	情報発信演習Ⅰ	演習		1		
	情報発信演習Ⅱ	演習		1		
	Webクリエイター演習	演習		1		
	小 計					12 単位以上

(注) 厚生労働省告示では、保育士資格取得に必要な教養科目を 8 単位以上（この中には、体育に関する講義および実技をともに含む）履修することと指定しているが、本学では、上表のとおり 12 単位以上を履修するものとする。

なお、コミュニティ福祉学科の基礎教育科目では、健康余暇論、スポーツ実技Ⅰ、スポーツ実技Ⅱを選択科目としているが、保育士資格取得を希望する学生は、3 科目（4 単位）を履修すること。

	系列	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
必修科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2		14
		保育原理Ⅱ	講義	2		
		教育原理	講義	2		
		児童家庭福祉	講義	2		
		社会福祉総論Ⅰ	講義	2		
		子ども家庭支援論	講義	2		
		社会的養護	講義	2		
	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学	講義	2		9
		保育の心理学	演習	1		
		子どもの保健	講義	2		
		子ども家庭支援の心理学	講義	2		
		子どもの食と栄養Ⅰ	演習	1		
		子どもの食と栄養Ⅱ	演習	1		
		保育の内容・方法に関する科目	幼児教育課程総論	講義	2	
	保育内容総論		演習	1		
	保育内容演習－健康		演習	1		
	保育内容演習－人間関係		演習	1		
	保育内容演習－環境		演習	1		
	保育内容演習－言葉		演習	1		
	保育内容演習－表現		演習	1		
	乳児保育Ⅰ		講義	2		
	乳児保育Ⅱ		演習	1		
	子どもの健康と安全		演習	1		
	障害児保育Ⅰ		演習	1		
	障害児保育Ⅱ		演習	1		
	社会的養護内容		演習	1		
	教育・保育相談		演習	1		
	音楽表現		演習	1		
	造形Ⅰ		演習	1		
	子どもと言葉	演習	1			
体育・表現	演習	1				
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		4	
	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2			
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1		2	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1			
総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2		2	
小計						51

	系列	授業科目	授業形態	単位数		資格取得に必要な単位数
				必修	選択	
選択必修科目	保育の本質・目的に関する科目	生活学	講義		2	6 単位以上
	保育の対象の理解に関する科目	社会理論と社会システム	講義		2	
		総合リハビリテーション論	講義		2	
		幼児理解	講義		2	
	保育の内容・方法に関する科目	介護技術論	講義		2	
		音楽療法入門	講義		2	
		保育内容論－健康	講義		2	
		保育内容論－人間関係	講義		2	
		保育内容論－環境	講義		2	
		保育内容論－言葉	講義		2	
		保育内容論－表現	講義		2	
		ピアノ教育	演習		1	
		歌唱伴奏法	演習		1	
		造形Ⅱ	演習		1	
		ミュージカルⅠ	講義		2	
	ミュージカルⅡ	講義		2		
	保育実習	保育実習Ⅱ	実習		2	} ☆ 3 単位
		保育実習指導Ⅱ	演習		1	
		保育実習Ⅲ	実習		2	} ★
保育実習指導Ⅲ		演習		1		
小 計						9 単位以上

(注) 厚生労働省告示のとおり、選択必修科目を上表より9単位以上履修すること。  
 保育実習は、☆または★のいずれかの組み合わせを選択すること。

本学における保育士資格取得要件単位数

教 養 科 目	12 単位以上 (うち外国語 2 単位以上、体育講義、体育実技を含む)
必 修 科 目	51 単位
選 択 必 修 科 目	9 単位以上 (うち保育実習・保育実習指導を含む)
合 計	72 単位以上

# スクールソーシャルワーク教育課程について

## 1 スクールソーシャルワーカーとは

スクールソーシャルワーカーとは、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の「スクールソーシャルワーク教育課程認定事業に関する規程」に定められた資格で、学校教育法第1条で定める学校現場等において、学校及び日常での生活を営む上で課題の解決を要する児童生徒とその家庭及びその児童を取り巻く環境・学校・社会・制度等を対象としたソーシャルワークの業務を行う者である。

## 2 スクールソーシャルワーカー資格の取得要件

スクールソーシャルワーカーの資格取得のためには、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が定める別表のスクールソーシャルワーク指定科目を履修、かつ社会福祉士国家試験に合格・登録を経て、本学からの申請に基づき「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクールソーシャルワーク教育課程修了者」として修了証の交付を受けなければならない。

## 3 履修方法について

- (1) コミュニティ福祉学科の学生で資格取得を希望する者は、社会福祉士受験資格と併せて計画的に履修する必要があるため、入学時から社会福祉士受験資格及びスクールソーシャルワーク教育課程のための履修ガイダンスを必ず受けること。
- (2) (別表) の指定科目はすべて必修である。

## 4 スクールソーシャルワーク実習について

- (1) スクールソーシャルワーク実習は、原則として4年次開講の「スクールソーシャルワーク実習指導(事前指導)」を受講後、大学が定める学校現場等実習先にて、10日間以上かつ80時間以上行う。

### (2) スクールソーシャルワーク実習履修のための要件

#### ア 次の科目の単位を取得している者

「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」、「スクールソーシャルワーク論」、「スクールソーシャルワーク演習」、「教育原理」、「発達心理学」。但し3年次編入生においてはこの限りではない。

#### イ 実習事前指導となる前学期開講分のスクールソーシャルワーク実習指導において、3回以上出席している者

スクールソーシャルワーク資格取得に必要な指定科目（別表）

	指定科目	指定科目に対応する 本学授業科目	時間数	単位数
専門科目群	スクールソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク論	30	2
	スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	15	1
	スクールソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	15	1
	スクールソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	80	2
教育関連科目群	教育の基礎理論に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目（1科目以上）	教育原理	30	2
	教育の基礎理論に関する科目のうち「幼児、児童及び生徒（障害のある幼児、児童及び生徒を含む）の心身の発達及び学習の過程に関する事項」を含む科目及び生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目（1科目以上）	発達心理学	30	2
追加科目群	精神保健の課題と支援	精神保健論（精神疾患とその治療）	30	2
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童家庭福祉	30	2

スクールソーシャルワーク教育課程 指定科目

	指定科目	指定科目に対応する本学授業科目	開講学年	時間数	期間	単位数	担当教員名
専門科目群	スクールソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク論	3	30	後期	2	栗原拓也
	スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	4	15	後期	1	増田京子
	スクールソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	4	15	通年(集中)	1	栗原拓也
	スクールソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	4	80	集中	2	栗原拓也
教育関連科目群	教育の基礎理論に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目（1科目以上）	教育原理	1	30	前期	2	金田健司
	教育の基礎理論に関する科目のうち「幼児、児童及び生徒（障害のある幼児、児童及び生徒を含む）の心身の発達及び学習の過程に関する事項」を含む科目及び生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目（1科目以上）	発達心理学	2	30	前期	2	松野 真
追加科目群	精神保健の課題と支援	精神保健論（精神疾患とその治療）	3	30	集中	2	呉羽かおる
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童家庭福祉	2	30	後期	2	川島貴美江

スクールソーシャルワーク実習履修要件

(1) 次の科目の単位を取得している者

「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ」「スクールソーシャルワーク論」「スクールソーシャルワーク演習」「教育原理」「発達心理学」但し3年次編入生においてはこの限りではない。

(2) 実習事前指導となる前学期開講分のスクールソーシャルワーク実習指導（全4回）において、3回以上出席している者

## レクリエーション・インストラクター資格取得について

### 1 レクリエーション・インストラクターについて（日本レクリエーション協会 HP）

「レクリエーション・インストラクター」は、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、「集団をリードする」「コミュニケーションを促進する」「楽しい空間をつくる」など、対象や目的に合わせてプログラムを企画・展開できる人材です。

### 2 履修方法

レクリエーション・インストラクターを取得しようとする学生は、別表に掲げる日本レクリエーション協会所定の科目を修得します。

### 3 レクリエーション・インストラクター資格登録

レクリエーション・インストラクターを取得しようとする学生は、3年次終了までに以下の別表の科目をすべて履修済みであること。卒業年次に所定の手続きを行うことで、日本レクリエーション協会認定のレクリエーション・インストラクターとして資格登録することができます。

#### (1) 手続等について

11月頃にポータルでお知らせします。

#### (2) 資格登録費用

資格登録費用として17,600円を納入します。（登録料及び2年間の登録。以降は資格登録更新料が必要となる）

#### 別表 レクリエーション・インストラクター課程に関する科目

協会所定科目	本学開講科目名	授業形態	単位数	
レクリエーション理論	レクリエーション論Ⅱ	講義	必修	2
レクリエーション実技	レクリエーション論Ⅰ	演習	必修	2
	相談援助演習Ⅰ	演習	必修	1
現場実習	保育実習Ⅰ（施設）	実習	選択	2
	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	選択	2
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	選択	1

○「レクリエーション論Ⅰ・Ⅱ」で紹介される実習を行うことが必要です。

○レクリエーション実技は「レクリエーション論Ⅰ」かつ「相談援助演習Ⅰ」の単位修得が必要です。

○現場実習は、「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅰ（保育所）」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」のいずれか1つの単位修得が必要です。

## 認定心理士の資格申請と履修科目について【コミュニティ福祉学科向け】

コミュニティ福祉学科の学生で、卒業後に『認定心理士』の資格取得を希望する人は、以下を参考にして履修計画を立ててください。認定心理士の資格取得についてさらに詳しく知りたい学生は、社団法人 日本心理学会のウェブサイト (<http://www.psych.or.jp/qualification/>) を参照して下さい。

### 認定心理士資格の概略と本学科の科目構成

『認定心理士』は、社団法人 日本心理学会が認定する資格です。学会が定める心理学関係の単位を修得し、日本心理学会に申請して審査を受け、認定されることで資格が得られます。資格取得に必要な単位数を、本学科のカリキュラムと対応させて以下に示します。

コミュニティ福祉学科には認定心理士に関連する科目が、合計 29 科目 (58 単位分)、設置されています。資格取得のためには合計 36 単位以上を取得する必要があります。

(1) 基礎科目 (12 単位以上) ただし A 領域から 4 単位以上、BC 領域から合計 8 単位以上履修 (ただし、C 領域から 4 単位以上) すること。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名 ・他の教育機関 (No.)	基	副	備考
A 心理学概論	人間の心と行動	2	心理学入門講義	永山ルツ子 教授	2		
	心理学基礎 (心理学概論)	2	心理学概説講義 (歴史方法・発達・性格・行動など)		2		
	心理学 (コミュニティ福祉)	2	心理学概説講義 (歴史方法・発達・性格・行動など)	松野 真 教授	2		
	心理学特殊講義	2	心理学検定対策を通しての心理学各分野の基礎知識の学習	林 智幸 教授	2		
B 心理学研究法	心理学研究法	2	研究法の講義 (基礎領域の各種研究法・処理法の概説を含む)	永山ルツ子 教授	2		他学科開放科目
	心理学統計法 I	2	初歩統計学を含む心理統計学の基礎的講義	林 智幸 教授	2		他学科開放科目
	心理学統計法 II	2	多変量解析などの心理統計学の応用的講義	林 智幸 教授	2		他学科開放科目
C 心理学実験	心理学実験 I	2	知覚・記憶・社会心理など 7 種の実験実習	永山ルツ子 教授 林 智幸 教授	2		他学科開放科目
	心理学実験 II	2	認知実験・行動観察法・調査・質的分析など 6 種の実験演習	林 智幸 教授	2		他学科開放科目
	心理演習	2	心理支援に関する基本的知識と技能習得の演習			1	

修得単位小計【20 単位】

(2) 選択科目 (16 単位以上) D~H のうち 3 領域で、各領域 4 単位以上を含み履修すること。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名 ・他の教育機関 (No.)	基	副	備考
D 知覚心理学 学習心理学	学習・言語心理学	2	学習心理学の理論と方法論を中心とした講義	林 智幸 教授	2		他学科開放科目
	知覚・認知心理学	2	認知心理学の基礎と現代的トピックスを中心とした講義	永山ルツ子 教授	2		他学科開放科目
E 生理心理学 比較心理学	神経・生理心理学	2	脳神経系の構造と様々な認知機能の生理心理学的反応の講義	松岡恵子 講師 (蒲田寺子屋)	2		他学科開放科目
F 教育心理学 発達心理学	教育・学校心理学	2	教育場面における心理学理論の講義	林 智幸 教授	2		
	発達心理学	2	発達論一般と発達心理学の講義	松野 真 教授	2		
G 臨床心理学 人格心理学	感情・人格心理学	2	性格論一般と性格心理学の講義	林 智幸 教授	2		
	臨床心理学概論	2	臨床心理学の理論と方法に関する講義		2		
	教育相談 (心理学的支援法)	2	カウンセリングの諸派の理論と技法に関する講義		2		
	障害者・障害児心理学	2	様々な障害の概要と障害者・児の心理社会的支援の講義	松野 真 教授	2		
	心理的アセスメント	2	心理的アセスメントを理解し、方法や	松野 真 教授	2		

	ント		技術を身に付ける講義と演習			
	健康行動学（健康・医療心理学）	2	心の健康を維持・促進させるための話題に関する講義	赤田信一 講師 （静岡大学）	2	
	福祉心理学	2	福祉現場における心理的支援に関する基本的事項の講義	波多野純 教授	2	
	精神保健論（精神疾患とその治療）	2	精神疾患に関する知識や支援、薬剤の影響に関する講義			1
H 社会心理学 産業心理学	産業・組織心理学	2	産業・組織心理学の歴史と現代的トピックスに関する講義	波多野純 教授	2	
	社会・集団・家族心理学	2	社会心理学の歴史と現代的トピックスに関する講義	波多野純 教授	2	
	司法・犯罪心理学	2	司法・犯罪分野の心理的支援に関する制度及び基本的事項の講義	ジェイムス册子 講師 （京都橘大学）	2	

修得単位小計【32単位】

(3) その他の科目 専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究は心理系教員が担当している科目にのみ適用。

領域	科目名	単位	内容	担当者氏名・職名 ・他の教育機関 (No.)	基	副	備考
I 心理学関連科目 卒業論文 卒業研究	専門演習Ⅰ（心理系教員による）	1	心理学的手法を用いた実験と調査に関する演習Ⅰ※	心理系教員☆	1		
	専門演習Ⅱ（心理系教員による）	1	心理学的手法を用いた実験と調査に関する演習Ⅱ※	心理系教員☆	1		
	卒業研究（心理系教員による）	4	各自の卒論テーマを記載※	心理系教員☆	4		

修得単位小計【6単位】

修得単位総計【58単位】

※専門演習Ⅰ・Ⅱ、卒業研究についても受講した授業内容・テーマを「内容」欄に記入すること。

☆心理系教員は受講した授業科目の「担当者氏名・職名」などの情報を具体的に記述すること。

## 公認心理師の受験資格と履修科目について【コミュニティ福祉学科向け】

### ●公認心理とは？

公認心理師とは、「公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健・医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者」を指します。

- ① 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ② 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④ 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

この資格を取得するためには、国が実施する公認心理師試験に合格する必要があります。公認心理師試験の受験資格を得るためには、公認心理師法で定められた所定の科目を大学在学中に全て取得して卒業した上で、(A) 大学院で別に定められた所定科目を取得するか、あるいは、(B) 公認心理師法第7条2号に規定する認定施設で一定期間の実務経験を積むか、のいずれかの条件を満たす必要があります。 大学で単位取得しただけでは公認心理師資格を得られないので注意してください。

### ●公認心理師の受験資格に必要な本学で取得すべき科目

公認心理師法に定められた科目に対応するものとして、本学では下表の科目を開講しています。受験資格を得るためには下記の27科目全てを取得しなければなりません。

省令名称	本学の科目名称	学年	備考
心理学概論	心理学基礎（心理学概論）	1	
健康・医療心理学	健康行動学（健康・医療心理学）	1	
心理学研究法	心理学研究法	2	他学科
心理学統計法	心理学統計法Ⅰ	2	Ⅱもあり、他学科
心理学実験	心理学実験Ⅰ	2	Ⅱもあり、他学科
発達心理学	発達心理学	2	
教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	
学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	他学科
社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	
臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	
心理学統計法	心理学統計法Ⅱ	3	Ⅰもあり、他学科
心理学実験	心理学実験Ⅱ	3	Ⅰもあり、他学科
知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	3	他学科
感情・人格心理学	感情・人格心理学	3	
神経・生理心理学	神経・生理心理学	3	他学科
産業・組織心理学	産業・組織心理学	3	
心理学的支援法	教育相談（心理学的支援法）	3	
公認心理師の職責	公認心理師の職責	3	他学科
心理的アセスメント	心理的アセスメント	3	
障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	3	
福祉心理学	福祉心理学	3	
司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	3	

関係行政論	関係行政論	3	他学科
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	
精神疾患とその治療	精神保健論（精神疾患とその治療）	3	
心理実習	心理実習	3	人数制限あり
心理演習	心理演習	4	人数制限あり

●履修において注意を要する科目

(1) 「心理学統計法Ⅰ」「心理学統計法Ⅱ」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」について

全ての科目を取得する必要があります。また授業受講者に想定する知識・技能や、授業難易度から「Ⅰ」を先に取得後に「Ⅱ」を取得してください。

(2) 他学科開放科目について

以下の10科目は人間社会学科の学科開放科目になります。コミュニティ福祉学科の学生も通常の履修登録手続によって受講できますが、通常、他学科開放科目として習得できる単位数の上限は30単位です。

科目分類	他学科開放科目名
基幹科目	心理学研究法、心理学統計法Ⅰ、心理学実験Ⅰ、学習・言語心理学
展開科目	心理学統計法Ⅱ、心理学実験Ⅱ、知覚・認知心理学、神経・生理心理学、関係行政論、公認心理師の職責

(3) 「心理実習（3年開講）」「心理演習（4年開講）」について

授業担当者の実習生担当可能人数の問題や、実習先施設の受入可能の都合の問題により、また、受講に必要となる知識・技能などの問題から、この2科目については履修者に制限をかけます。この制限は人間社会学科・コミュニティ福祉学科合わせての人数です。

- ・両科目の履修者人数の制限：それぞれの科目は上限を約10人とする。
- ・「心理実習」の履修条件：3年次開始までに「心理学検定2級以上合格」を前提とする。  
また履修希望者が多い場合は、履修の明確な意思を確認した上で、「公認心理師対応科目の取得状況」「心理学検定の成績」を考慮して履修者の選抜を行う予定である。
- ・「心理演習」の履修条件：前年度までに「心理実習」の単位取得を前提とする。

## アントレプレナー育成プログラムについて【コミュニティ福祉学科向け】

激しく変化する社会情勢等により、多くの既存企業が変革を迫られ、在宅ワークを始め今までの業態が大きく変わってきています。そのため、専門知識と起業家精神により、社会の問題解決にビジネスという手法を使って取り組んでいく人材育成を目的とし、このプログラムを修得した学生に対し本学独自の認証資格としてオープンバッジ（デジタル証明書）を発行します。発行希望者は、プログラム修了後、学部事務室へ申し込みください。

### 【オープンバッジとは？】

可視化された「学習歴」であり、就職活動等に利用できます。

（一般財団法人オープンバッジ・ネットワーク <https://www.openbadge.or.jp/about-ob>）

### 【修得すべき科目】

次の全ての科目を修得する必要があります。

科目名称	学年	備考
現代の国際社会	1	
異文化の理解	1	
経営学基礎	1	
社会学基礎	1	志田倫子教員の科目の単位を修得
社会福祉総論Ⅰ	1	
地域福祉論Ⅰ	1	
地域創造フィールドワーク	1	
外国文化フィールドワーク	1	他学科（任意修得）
国際福祉	1	
キャリア形成論	1	
マーケティング論	2	他学科
起業・経営戦略実践論	2	他学科
商法	2	他学科
ビジネスと法	2	他学科
地域社会学	2	他学科
観光地域フィールドワーク論	2	他学科
地域政策論	3	他学科
ソーシャル・ビジネス論	3	他学科
中小企業論	3	他学科
NPO論	3	
インターンシップ	3	任意修得

### 【履修可能メジャー】

ソーシャルサービス・イノベーションメジャーに所属する（予定を含む）学生が対象です。

## 教員免許状取得について（人間社会学科・コミュニティ福祉学科）

### 1 本学で取得できる教員免許

本学部で取得できる教員免許は以下の通りです。

学 科	免許状の種類	教 科
人 間 社 会 学 科	中学校教諭一種免許状	国語、英語
	高等学校教諭一種免許状	国語、公民、英語
コ ミ ュ ニ テ ィ 福 祉 学 科	高等学校教諭一種免許状	福祉
	幼稚園教諭一種免許状	—

### 2 免許取得のために必要な科目及び単位数

教員免許状は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則により、以下のように科目の修得が義務付けられています。

科目の種類	中学校	高等学校	幼稚園
(1) 教科及び教科の指導法に関する科目	28	24	
(2) 領域及び保育内容の指導法に関する科目	—	—	16
(3) 教育の基礎的理解に関する科目	10	10	10
(4) 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目	10	8	4
(5) 教育実践に関する科目	7	5	7
(6) 大学が独自に設定する科目 + (1)～(4)の超過分	4	12	14
(7) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8	8	8
合 計	67	67	59

### 3 教職履修カルテの作成

中学校・高校教諭免許課程、幼稚園教諭免許課程いずれにおいても、教職履修カルテを作成し、4年間の学習を継続的に記録することが、教職実践演習の履修に際しての必須条件です。

### 4 介護等体験

中学校教諭免許取得のためには、介護等体験の実施と、その終了証明書が必要です。介護等体験の実施に際して、事前に準備学習を、事後に振り返りの学習を行います。

5 中学校教員・高校教員一種免許取得までの履修モデル（例）

区分（ ）内は必要単位数		1年次	2年次	3年次	4年次
1	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学28・高校24)	「各教科に関する専門的事項」の科目			
		「各教科の指導法」(「国語科教育法Ⅰ」等)			
2	領域及び保育内容の指導法に関する科目 (幼稚園のみ)				
3	教育の基礎的理解に関する科目 (中学・高校10)	教育原理 教師論 教育社会学(中・高)	教育課程の意義と編成の方法 教育・学校心理学 発達心理学	特別支援教育	
4	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (中学10・高校8)		特別活動と総合的な学習の時間の指導法 教育の方法及び技術 生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む) 道徳の理論と指導法	教育相談(心理学的支援法)	
5	教育実践に関する科目 (中学7・高校5)				教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ※ 教職実践演習(中・高)
6	大学が独自に設定する科目 + 1～4の超過分 (中学4・高校12)	1～4の超過分			
7	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目 (中学・高校8)	総合英語基礎 スポーツ実技Ⅰ スポーツ実技Ⅱ ネットワーク・リテラシー	日本国憲法 (外国語科目)		

※「教育実習Ⅱ」中学校…4週間、高校…2週間

※中学校は別途介護等体験（特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間）が必須です（3年次）

## ■教職課程継続の資格要件（中高）

- ・ 2年次終了時まで卒業要件単位数を62単位以上修得していること。
- ・ 2年次終了時以降、累計GPAを2.0以上維持すること。
- ・ 3年次開始までに指定の教職課程履修登録用紙を学部事務室へ提出していること。
- ・ 教職課程委員会の教職課程継続許可承認を得ていること。

※学生本人の責めに帰さない理由（病気や怪我等）により2年次終了時まで卒業要件単位数62単位以上修得していない者、2年次終了時以降、累計GPAを2.0以上維持していない者は、委員長を含む教職課程委員2名と面談し、その結果に基づいて教職課程委員会で審議、認められた場合のみ教職課程を継続（履修）することができる。

※経過措置として2024年度以前に入学した学生は、2年次終了以降、累計GPAが2.0以上ない場合、必ず委員長を含む教職課程委員2名と面談する必要があります。

## ■教育実習の資格要件

### 【中学校・高等学校】

- (1) 以下に掲げる科目を履修済みであること。  
「教師論」、「教育原理」、「教育社会学(中・高)」、「教育・学校心理学」か「発達心理学」、「各教科教育法Ⅰ・Ⅲ」(中学校)、「各教科教育法Ⅰ」(高校)、「道徳の理論と指導法」(中学校)、「特別活動と総合的な学習の時間の指導法」。
- (2) 「教育実習Ⅰ」(4年次/前期担当)を受講し、教育実習のための事前指導を受けていること。
- (3) 「教科に関する科目」を10単位以上取得していること。
- (4) 教育実習校校長の実習受入承認を得ていること。

### 【幼稚園】

- (1) 以下に掲げる科目を履修済みであること。  
「教育原理」
- (2) 以下に掲げる条件を満たしていること。  
実習前に「保育原理Ⅰ」「保育原理Ⅱ」を履修済み、あるいは「保育原理Ⅰ」「幼児教育課程総論」を履修中であること。
- (3) 「幼稚園教育実習指導」(3年次 前期担当)を受講していること。
- (4) 「幼稚園教育実習」を履修したものは「保育・教職実践演習(幼稚園)」(4年次 後期担当)を履修すること。

免許法施行規則に定める科目区分等	必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック		
		授業科目 「○」は教職必修 「△」は中学必修	単位数						
			卒業必修	選択					
教科及び教科の指導法に関する科目	中 28 高 24	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語表現法	2		鈴木正和・久保博雅 他	1		
			日本語朗読法		2	今村政司	1		
			日本語読解法		2	鈴木正和	1		
			日本語文章構成法		2	畑恵里子	1		
			言語文化論		2	久保博雅	2		
			日本語資料研究		2	久保博雅	3		
			○日本語学研究		2	久保博雅	3		
			人間と文学		2	古郡康人	1		
			静岡の風土と文学		2	古郡康人	1		
			日本文学ジャンル論		2	古郡康人	3		
			児童文学研究		2	鈴木正和	3		
			○日本古典文学研究		2	畑恵里子	3		
			○日本近代文学研究		2	鈴木正和	3		
			文芸創作技法		2	上田日差し	3		
			演劇論		2	宮城 聡	2		
			漢文学	○中国文学研究		2	埋田重夫	3	
			書道(書写を中心とする。) ※中学免許のみ	△書道Ⅰ		1	鈴木千恵美	2	
				書道Ⅱ		1	鈴木千恵美	2	
			各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○国語科教育法Ⅰ		2	鈴木正和	2	
				△国語科教育法Ⅱ		2	大塚 浩	3	
		○国語科教育法Ⅲ		2	鈴木正和	3			
		△国語科教育法Ⅳ		2	大塚 浩	4			
教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理		2	金田健司	1			
		○教師論		2	金田健司	1			
		○教育社会学		2	金田健司	1			
		教育・学校心理学		2	林 智幸	2			
		発達心理学		2	松野 真	2			
		○特別支援教育		1	山元 薫	3			
		○教育課程の意義と編成の方法		2	金田健司	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中 10 高 8	△道徳の理論と指導法		2	金田健司	2			
		○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2			
		○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2			
		○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2			
		○教育相談(心理学的支援法)		2		3			
教育実践に関する科目	中 7 高 5	○教育実習Ⅰ		1	金田健司	4			
		△教育実習Ⅱ-A		4	金田健司	4			
		教育実習Ⅱ-B		2	金田健司	4			
		学校体験活動		1	開講せず	2			
		○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4			
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
第66条の6に定める科目	2	日本国憲法	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1		
		体育	○スポーツ実技Ⅰ		1	祝原 豊 他	1		
			○スポーツ実技Ⅱ		1	祝原 豊 他	1		
		外国語コミュニケー	○総合英語基礎	1		ハリントン 他	1		

シヨン		英語スピーチクリニック	1	松永ジョアンナ	1	
		英語リスニングスキル	1	松永ジョアンナ、ハリントン	1	
		英語ボキャブラリービルディング	1	ピーターズ	1	
		英語構文理解	1	鬼塚大輔、ピーターズ	1	
		英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
		総合英語応用Ⅰ	1	開講せず	1	
		総合英語応用Ⅱ	1	松永ジョアンナ	1	
		フランス語Ⅰ	1	今野喜和人	1	
		フランス語Ⅱ	1	今野喜和人	1	
		ドイツ語Ⅰ	1	小柴浩稔	1	
		ドイツ語Ⅱ	1	小柴浩稔	1	
		中国語Ⅰ	1	望月裕之	1	
		中国語Ⅱ	1	望月裕之	1	
		韓国語Ⅰ	1	大木喜義	1	
		韓国語Ⅱ	1	大木喜義	1	
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1
情報発信演習Ⅰ			1	渡辺 司、金 承子	1	
情報発信演習Ⅱ			1	沖山貴裕	2	
Webクリエイター演習			1	飯塚重善	2	
必要単位数計			67			

免許法施行規則に定める科目区分等	必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック
		授業科目 「○」は教職必修 「△」は中学必修	単位数				
			卒業必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語表現法	2		鈴木正和・久保博雅 他	1	
		日本語朗読法		2	今村政司	1	
		日本語読解法		2	鈴木正和	1	
		日本語文章構成法		2	畑恵里子	1	
		言語文化論		2	久保博雅	2	
		日本語資料研究		2	久保博雅	3	
		○日本語学研究		2	久保博雅	3	
		人間と文学		2	古郡康人	1	
		静岡の風土と文学		2	古郡康人	1	
		日本文学ジャンル論		2	古郡康人	3	
	国文学(国文学史を含む。)	児童文学研究		2	鈴木正和	3	
		○日本古典文学研究		2	畑恵里子	3	
		○日本近代文学研究		2	鈴木正和	3	
		文芸創作技法		2	上田日差し	3	
		演劇論		2	宮城 聡	2	
		○中国文学研究		2	埋田重夫	3	
		△書道Ⅰ		1	鈴木千恵美	2	
		書道Ⅱ		1	鈴木千恵美	2	
		○国語科教育法Ⅰ		2	鈴木正和	2	
		△国語科教育法Ⅱ		2	大塚 浩	3	
漢文学	○中国文学研究		2	埋田重夫	3		
	△書道Ⅰ		1	鈴木千恵美	2		
	書道Ⅱ		1	鈴木千恵美	2		
	○国語科教育法Ⅲ		2	鈴木正和	3		
書道(書写を中心とする。) ※中学免許のみ	△国語科教育法Ⅳ		2	大塚 浩	4		
	○国語科教育法Ⅲ		2	鈴木正和	3		
	△国語科教育法Ⅳ		2	大塚 浩	4		
	○国語科教育法Ⅳ		2	大塚 浩	4		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○国語科教育法Ⅳ		2	大塚 浩	4		
	○教育原理		2	金田健司	1		
	○教師論		2	金田健司	1		
	○教育社会学		2	金田健司	1		
	教育・学校心理学		2	林 智幸	2		
	発達心理学		2	松野 真	2		
	○特別支援教育		1	山元 薫	3		
教育の基礎的理解に関する科目	○教育課程の意義と編成の方法		2	金田健司	2		
	△道徳の理論と指導法		2	金田健司	2		
	○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2		
	○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2		
	○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2		
	○教育相談(心理学的支援法)		2		3		
	○教育実践Ⅰ		1	金田健司	4		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	△教育実践Ⅱ-A		4	金田健司	4		
	教育実践Ⅱ-B		2	金田健司	4		
	学校体験活動		1	開講せず	2		
	○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4		
	○教育実践Ⅰ		1	金田健司	4		
教育実践に関する科目	△教育実践Ⅱ-A		4	金田健司	4		
	教育実践Ⅱ-B		2	金田健司	4		
	学校体験活動		1	開講せず	2		
	○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4		
	○教育実践Ⅰ		1	金田健司	4		
大学が独自に設定する科目	「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
	「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
	「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
第6条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法	2	板倉美奈子	1	
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ	1	祝原 豊 他	1	
		○スポーツ実技Ⅱ	1	祝原 豊 他	1		
	外国語コミュニケー	2	○総合英語基礎	2	ハリントン 他	1	

シヨン		英語スピーチクリニック	1	松永ジョアンナ	1	
		英語リスニングスキル	1	松永ジョアンナ、ハリントン	1	
		英語ボキャブラリービルディング	1	ピーターズ	1	
		英語構文理解	1	鬼塚大輔、ピーターズ	1	
		英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
		総合英語応用 I	1	開講せず	1	
		総合英語応用 II	1	松永ジョアンナ	1	
		フランス語 I	1	今野喜和人	1	
		フランス語 II	1	今野喜和人	1	
		ドイツ語 I	1	小柴浩稔	1	
		ドイツ語 II	1	小柴浩稔	1	
		中国語 I	1	望月裕之	1	
		中国語 II	1	望月裕之	1	
		韓国語 I	1	大木喜義	1	
		韓国語 II	1	大木喜義	1	
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1
情報発信演習 I			1	渡辺 司、金 承子	1	
情報発信演習 II			1	沖山貴裕	2	
Web クリエイター演習			1	飯塚重善	2	
必要単位数計			67			

免許法施行規則に定める科目区分等		必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック	
			授業科目 「○」は教職必修 「△」は中学必修	単位数					
				卒業必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	○英語学研究		2	石山久美	3		
			日英語比較		2	石山久美	3		
			第二言語習得論		2	石山久美	3		
			英語文学	○イギリス文学研究		2	有元志保	3	
				○アメリカ文学研究		2	狭間敏行	3	
				英語文章理解		1	鬼塚大輔、幸田明子	2	
		英語コミュニケーション	○英語リスニング&スピーキングⅠ		1	ハリントン、クレイナー	1		
			○英語リスニング&スピーキングⅡ		1	ハリントン、クレイナー	1		
			総合英語応用Ⅲ		1	鈴木恵子	1		
			総合英語応用Ⅳ		1	開講せず	1		
			○Communicative English Ⅰ		2	クレイナー	2		
			○Communicative English Ⅱ		2	クレイナー	2		
	○Communicative English Advanced			2	クレイナー	3			
	English Presentation skills			2	クレイナー	3			
	国際ビジネスコミュニケーション			2	狭間敏行	2			
	国際観光コミュニケーション			2	ハリントン	2			
	異文化理解	○日英比較文化論		2	ハリントン	3			
		○日米比較文化論		2	狭間敏行	3			
		○英米文化論基礎		2	狭間敏行	1			
		イギリス文化論		2	鬼塚大輔	2			
		アメリカ文化論		2	狭間敏行	2			
		○英語科教育法Ⅰ		2	石山久美	2			
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	△英語科教育法Ⅱ		2	鈴木恵子	3			
		○英語科教育法Ⅲ		2	石山久美	3			
		△英語科教育法Ⅳ		2	鈴木恵子	4			
	教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理		2	金田健司	1		
			○教師論		2	金田健司	1		
○教育社会学				2	金田健司	1			
教育・学校心理学				2	林 智幸	2			
発達心理学				2	松野 真	2			
○特別支援教育				1	山元 薫	3			
○教育課程の意義と編成の方法				2	金田健司	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中 10 高 8	△道徳の理論と指導法		2	金田健司	2			
		○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2			
		○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2			
		○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2			
		○教育相談(心理学的支援法)		2		3			
教育実践に関する科目	中 7 高 5	○教育実習Ⅰ		1	金田健司	4			
		△教育実習Ⅱ-A		4	金田健司	4			
		教育実習Ⅱ-B		2	金田健司	4			
		学校体験活動		1	開講せず	2			
		○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4			
大学が独自に設定する科目	中 4 高 12	「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1	
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ		1	祝原 豊 他	1	
			○スポーツ実技Ⅱ		1	祝原 豊 他	1	
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	1		ハリントン 他	1	
			英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1	
			英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1	
			英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1	
			英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1	
			英語文章表現法		1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
			総合英語応用Ⅰ		1	開講せず	1	
			総合英語応用Ⅱ		1	松永ジョアンナ	1	
			フランス語Ⅰ		1	今野喜和人	1	
			フランス語Ⅱ		1	今野喜和人	1	
			ドイツ語Ⅰ		1	小柴浩稔	1	
			ドイツ語Ⅱ		1	小柴浩稔	1	
			中国語Ⅰ		1	望月裕之	1	
			中国語Ⅱ		1	望月裕之	1	
	韓国語Ⅰ		1	大木喜義	1			
	韓国語Ⅱ		1	大木喜義	1			
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2		飯塚重善 他	1	
情報発信演習Ⅰ				1	渡辺 司、金 承子	1		
情報発信演習Ⅱ				1	沖山貴裕	2		
Webクリエイター演習				1	飯塚重善	2		
必要単位数計					67			

免許法施行規則に定める科目区分等		必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック	
			授業科目 「○」は教職必修 「△」は中学必修	単位数					
				卒業必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	○英語学研究		2	石山久美	3		
			日英語比較		2	石山久美	3		
			第二言語習得論		2	石山久美	3		
			英語文学	○イギリス文学研究		2	有元志保	3	
				○アメリカ文学研究		2	狭間敏行	3	
				英語文章理解		1	鬼塚大輔、幸田明子	2	
		英語コミュニケーション	○英語リスニング&スピーキングⅠ		1	ハリントン、クレイナー	1		
			○英語リスニング&スピーキングⅡ		1	ハリントン、クレイナー	1		
			総合英語応用Ⅲ		1	鈴木恵子	1		
			総合英語応用Ⅳ		1	開講せず	1		
			○Communicative English Ⅰ		2	クレイナー	2		
			○Communicative English Ⅱ		2	クレイナー	2		
	○Communicative English Advanced			2	クレイナー	3			
	English Presentation skills			2	クレイナー	3			
	国際ビジネスコミュニケーション			2	狭間敏行	2			
	国際観光コミュニケーション			2	ハリントン	2			
	異文化理解	○日英比較文化論		2	ハリントン	3			
		○日米比較文化論		2	狭間敏行	3			
		○英米文化論基礎		2	狭間敏行	1			
		イギリス文化論		2	鬼塚大輔	2			
		アメリカ文化論		2	狭間敏行	2			
		○英語科教育法Ⅰ		2	石山久美	2			
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)	△英語科教育法Ⅱ		2	鈴木恵子	3			
		○英語科教育法Ⅲ		2	石山久美	3			
		△英語科教育法Ⅳ		2	鈴木恵子	4			
	教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理		2	金田健司	1		
			○教師論		2	金田健司	1		
○教育社会学				2	金田健司	1			
教育・学校心理学				2	林 智幸	2			
発達心理学				2	松野 真	2			
○特別支援教育				1	山元 薫	3			
○教育課程の意義と編成の方法				2	金田健司	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	中10 高8	△道徳の理論と指導法		2	金田健司	2			
		○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2			
		○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2			
		○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2			
		○教育相談(心理学的支援法)		2		3			
教育実践に関する科目	中7 高5	○教育実習Ⅰ		1	金田健司	4			
		△教育実習Ⅱ-A		4	金田健司	4			
		教育実習Ⅱ-B		2	金田健司	4			
		学校体験活動		1	開講せず	2			
		○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4			
大学が独自に設定する科目	中4 高12	「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
		「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							

第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法	2	板倉美奈子	1	
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ	1	祝原 豊 他	1	
			○スポーツ実技Ⅱ	1	祝原 豊 他	1	
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	2	ハリントン 他	1	
			英語スピーチクリニック	1	松永ジョアンナ	1	
			英語リスニングスキル	1	松永ジョアンナ、ハリントン	1	
			英語ボキャブラリービルディング	1	ピーターズ	1	
			英語構文理解	1	鬼塚大輔、ピーターズ	1	
			英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
			総合英語応用Ⅰ	1	開講せず	1	
			総合英語応用Ⅱ	1	松永ジョアンナ	1	
			フランス語Ⅰ	1	今野喜和人	1	
			フランス語Ⅱ	1	今野喜和人	1	
			ドイツ語Ⅰ	1	小柴浩稔	1	
			ドイツ語Ⅱ	1	小柴浩稔	1	
			中国語Ⅰ	1	望月裕之	1	
			中国語Ⅱ	1	望月裕之	1	
	韓国語Ⅰ	1	大木喜義	1			
	韓国語Ⅱ	1	大木喜義	1			
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1	
情報発信演習Ⅰ			1	渡辺 司、金 承子	1		
情報発信演習Ⅱ			1	沖山貴裕	2		
Webクリエイター演習			1	飯塚重善	2		
必要単位数計			67				

免許法施行規則に定める科目区分等	必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック	
		授業科目 「○」は教職必修	単位数					
			卒業必修	選択				
教科及び教科の指導法に関する専門的事項	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	○法学概論		2	井柳美紀	2		
		社会生活と法		2	板倉美奈子	1		
		民法		2	朱 曄	2		
		国際関係論		2	服部慶亘	3		
		「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	○人間社会総論	2		オムニバス	1	
			○社会学基礎	2		志田倫子、毛利康秀	1	
			地域社会学		2	志田倫子	2	
			○経済学基礎	2		菅 隆彦・市川充俊	1	
			経済と社会		2	勝田佳裕	1	
			ミクロ経済学		2	菅 隆彦	2	
			マクロ経済学		2	菅 隆彦	2	
			国際経済学		2	菅 隆彦	3	
			金融論		2	勝田佳裕	2	
	国際金融論			2	勝田佳裕	3		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	人間学基礎	2		佐々木謙一	1		
		キリスト教学	2		佐々木謙一	1		
		心理学基礎(心理学概論)	2			1		
		知覚・認知心理学		2	永山ルツ子	3		
		社会・集団・家族心理学		2	波多野純	2		
	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	○公民科教育法 I		2	三輪昭子	3		
○公民科教育法 II			2	三輪昭子	3			
教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理		2	金田健司	1		
		○教師論		2	金田健司	1		
		○教育社会学		2	金田健司	1		
		教育・学校心理学		2	林 智幸	2		
		発達心理学		2	松野 真	2		
		○特別支援教育		1	山元 薫	3		
		○教育課程の意義と編成の方法		2	金田健司	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2		
		○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2		
		○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2		
		○教育相談(心理学的支援法)		2		3		
教育実践に関する科目	5	○教育実習 I		1	金田健司	4		
		○教育実習 II-B		2	金田健司	4		
		学校体験活動		1	開講せず	2		
		○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4		
大学が独自に設定する科目	12	道徳の理論と指導法		2	金田健司	2		
		「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
		「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
第6条の6に定める科目	日本国憲法	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1		
		○スポーツ実技 I		1	祝原 豊 他	1		
	体育	○スポーツ実技 II		1	祝原 豊 他	1		
		○総合英語基礎	1		ハリントン 他	1		
	外国語コミュニケーション	英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1		
		英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1		
		英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1		
		英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1		

		英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
		総合英語応用Ⅰ	1	開講せず	1	
		総合英語応用Ⅱ	1	松永ジョアンナ	1	
		フランス語Ⅰ	1	今野喜和人	1	
		フランス語Ⅱ	1	今野喜和人	1	
		ドイツ語Ⅰ	1	小柴浩稔	1	
		ドイツ語Ⅱ	1	小柴浩稔	1	
		中国語Ⅰ	1	望月裕之	1	
		中国語Ⅱ	1	望月裕之	1	
		韓国語Ⅰ	1	大木喜義	1	
		韓国語Ⅱ	1	大木喜義	1	
情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1	
		情報発信演習Ⅰ	1	渡辺 司、金 承子	1	
		情報発信演習Ⅱ	1	沖山貴裕	2	
		Webクリエイター演習	1	飯塚重善	2	
必要単位数計			67			

免許法施行規則に定める科目区分等		必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック
			授業科目 「○」は教職必修	単位数				
				卒業必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目	「法学(国際法を含む。)、政治学(国際政治を含む。)」	24	○法学概論		2	井柳美紀	2	
			社会生活と法		2	板倉美奈子	1	
			民法		2	朱 嘩	2	
			国際関係論		2	服部慶亘	3	
	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」		○人間社会総論	2		オムニバス	1	
			○社会学基礎	2		志田倫子、毛利康秀	1	
			地域社会学		2	志田倫子	2	
			○経済学基礎		2	菅 隆彦・市川充俊	1	
			経済と社会		2	勝田佳裕	1	
			ミクロ経済学		2	菅 隆彦	2	
			マクロ経済学		2	菅 隆彦	2	
			国際経済学		2	菅 隆彦・市川充俊	3	
			金融論		2	勝田佳裕	2	
			国際金融論		2	勝田佳裕	3	
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		人間学基礎	2		佐々木謙一	1	
			キリスト教学	2		佐々木謙一	1	
			心理学基礎(心理学概論)	2			1	
			知覚・認知心理学		2	永山ルツ子	3	
			社会・集団・家族心理学		2	波多野純	2	
			各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		2	三輪昭子	3	
			2	三輪昭子	3			
教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理		2	金田健司	1		
		○教師論		2	金田健司	1		
		○教育社会学		2	金田健司	1		
		教育・学校心理学		2	林 智幸	2		
		発達心理学		2	松野 真	2		
		○特別支援教育		1	山元 薫	3		
		○教育課程の意義と編成の方法		2	金田健司	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	○特別活動と総合的な学習の時間の指導法		2	堀井啓幸、木村光男	2		
		○教育方法論(ICT 活用の理論と実践を含む)		2	園田明人	2		
		○生徒指導(進路指導とキャリア教育を含む)		2	園田明人	2		
		○教育相談(心理学的支援法)		2		3		
教育実践に関する科目	5	○教育実習Ⅰ		1	金田健司	4		
		○教育実習Ⅱ-B		2	金田健司	4		
		学校体験活動		1	開講せず	2		
		○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4		
大学が独自に設定する科目	12	道徳の理論と指導法		2	金田健司	2		
		「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
		「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1	
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ		1	祝原 豊 他	1	
			○スポーツ実技Ⅱ		1	祝原 豊 他	1	
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	2		ハリントン 他	1	
			英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1	
			英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1	
			英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1	
			英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1	

		英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1	
		総合英語応用Ⅰ	1	開講せず	1	
		総合英語応用Ⅱ	1	松永ジョアンナ	1	
		フランス語Ⅰ	1	今野喜和人	1	
		フランス語Ⅱ	1	今野喜和人	1	
		ドイツ語Ⅰ	1	小柴浩稔	1	
		ドイツ語Ⅱ	1	小柴浩稔	1	
		中国語Ⅰ	1	望月裕之	1	
		中国語Ⅱ	1	望月裕之	1	
		韓国語Ⅰ	1	大木喜義	1	
		韓国語Ⅱ	1	大木喜義	1	
情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1	
		情報発信演習Ⅰ	1	渡辺 司、金 承子	1	
		情報発信演習Ⅱ	1	沖山貴裕	2	
		Webクリエイター演習	1	飯塚重善	2	
必要単位数計			67			

免許法施行規則に定める科目区分等	必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック
		授業科目 「○」は教職必修	単位数				
			卒業必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目 教科に関する専門的事項	24	○社会福祉総論Ⅰ	2		呉羽かおる	1	
		○社会福祉総論Ⅱ		2	呉羽かおる	1	
		○地域福祉論Ⅰ		2	梓川 一	1	
		○地域福祉論Ⅱ		2	梓川 一	2	
		○高齢者福祉論		2	呉羽かおる	2	
		○障害者福祉論		2	磯野 博	2	
		○児童家庭福祉		2	川島貴美江	2	
		○ソーシャルワーク論Ⅰ		2	栗原拓也	2	
		○ソーシャルワーク論Ⅱ		2	栗原拓也	2	
		○ソーシャルワーク論Ⅲ		2	鈴木 瑞	2	
		○ソーシャルワーク論Ⅳ		2	梓川 一	2	
		○ソーシャルワーク論Ⅴ		2	栗原拓也	2	
		○介護概論		2	大村貴美	2	
		○介護技術論		2	木林身江子・大石桂子	2	
		○相談援助演習Ⅰ	1		鈴木 瑞・呉羽かおる	1	
		○相談援助演習Ⅱ	1		栗原拓也・梓川 一	2	
		○相談援助演習Ⅲ	1		栗原拓也・梓川 一	2	
		○相談援助演習Ⅳ	1		増田京子	3	
		○相談援助演習Ⅴ	1		梓川 一・栗原拓也	3	
		○ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	2	
		○ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
		○ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
		○ソーシャルワーク実習Ⅰ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
		○ソーシャルワーク実習Ⅱ	5		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
○健康行動学 (健康・医療心理学)	2		赤田信一	1			
○総合リハビリテーション論	2		橋本尚幸・山内一之	3			
人体の構造と機能及び疾病	2		片川智子	3			
○老年学	2		呉羽かおる	3			
○福祉科教育法Ⅰ	2		梓川 一	3			
○福祉科教育法Ⅱ	2		梓川 一	3			
教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理	2		金田健司	1	
		○教師論	2		金田健司	1	
		○教育社会学	2		金田健司	1	
		教育・学校心理学	2		林 智幸	2	
		発達心理学	2		松野 真	2	
		○特別支援教育	1		山元 薫	3	
		○教育課程の意義と編成の方法	2		金田健司	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	○特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2		堀井啓幸、木村光男	2	
		○教育方法論 (ICT 活用の理論と実践を含む)	2		園田明人	2	
		○生徒指導 (進路指導とキャリア教育を含む)	2		園田明人	2	
		○教育相談 (心理学的支援法)	2			3	
教育実践に関する科目	5	○教育実習Ⅰ	1		金田健司	4	
		○教育実習Ⅱ-B	2		金田健司	4	
		学校体験活動	1		開講せず	2	

			○教職実践演習(中・高)		2	金田健司	4		
大学が独自に設定する科目	※ (12)		道徳の理論と指導法		2	金田健司	2		
			「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
			「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
			「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)						
第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1		
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ		1	祝原 豊 他	1		
			○スポーツ実技Ⅱ		1	祝原 豊 他	1		
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	1		ハリントン 他	1		
			英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1		
			英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1		
			英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1		
			英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1		
			英語文章表現法		1	幸田明子、鬼塚大輔	1		
			総合英語応用Ⅰ		1	開講せず	1		
			総合英語応用Ⅱ		1	松永ジョアンナ	1		
			フランス語Ⅰ		1	今野喜和人	1		
			フランス語Ⅱ		1	今野喜和人	1		
			ドイツ語Ⅰ		1	小柴浩稔	1		
			ドイツ語Ⅱ		1	小柴浩稔	1		
			中国語Ⅰ		1	望月裕之	1		
			中国語Ⅱ		1	望月裕之	1		
	韓国語Ⅰ		1	大木喜義	1				
	韓国語Ⅱ		1	大木喜義	1				
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2		飯塚重善 他	1		
情報発信演習Ⅰ				1	渡辺 司、金 承子	1			
情報発信演習Ⅱ				1	沖山貴裕	2			
Webクリエイター演習				1	飯塚重善	2			
必要単位数計				67	(必修科目の関係上最低単位数 82)				

※「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位超過分で充当できる。

免許法施行規則に定める科目区分等		必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック
			授業科目 「○」は教職必修	単位数				
				卒業必修	選択			
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	○社会福祉総論Ⅰ	2		呉羽かおる	1	
			○社会福祉総論Ⅱ		2	呉羽かおる	1	
			○地域福祉論Ⅰ		2	梓川 一	1	
			○地域福祉論Ⅱ		2	梓川 一	2	
			○高齢者福祉論		2	呉羽かおる	2	
			○障害者福祉論		2	磯野 博	2	
			○児童家庭福祉		2	川島貴美江	2	
			○ソーシャルワーク論Ⅰ		2	栗原拓也	2	
			○ソーシャルワーク論Ⅱ		2	栗原拓也	2	
			○ソーシャルワーク論Ⅲ		2	鈴木 瑞	2	
			○ソーシャルワーク論Ⅳ		2	梓川 一	2	
			○ソーシャルワーク論Ⅴ		2	栗原拓也	2	
			○介護概論		2	大村貴美	2	
			○介護技術論		2	木林身江子・大石桂子	2	
			○相談援助演習Ⅰ	1		鈴木 瑞・呉羽かおる	1	
			○相談援助演習Ⅱ	1		栗原拓也・梓川 一	2	
			○相談援助演習Ⅲ	1		栗原拓也・梓川 一	2	
			○相談援助演習Ⅳ	1		増田京子	3	
			○相談援助演習Ⅴ	1		梓川 一・栗原拓也	3	
			○ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	2	
			○ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
			○ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
			○ソーシャルワーク実習Ⅰ	1		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
			○ソーシャルワーク実習Ⅱ	5		梓川 一・栗原拓也・鈴木 瑞・呉羽かおる	3	
			○健康行動学（健康・医療心理学）	2		赤田信一	1	
			○総合リハビリテーション論	2		橋本尚幸・山内一之	3	
			人体の構造と機能及び疾病	2		片川智子	3	
			○老年学	2		呉羽かおる	3	
○福祉科教育法Ⅰ	2		梓川 一	3				
○福祉科教育法Ⅱ	2		梓川 一	3				
教育の基礎的理解に関する科目	10	○教育原理	2		金田健司	1		
		○教師論	2		金田健司	1		
		○教育社会学	2		金田健司	1		
		教育・学校心理学	2		林 智幸	2		
		発達心理学	2		松野 真	2		
		○特別支援教育	1		山元 薫	3		
		○教育課程の意義と編成の方法	2		金田健司	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	8	○特別活動と総合的な学習の時間の指導法	2		堀井啓幸、木村光男	2		
		○教育方法論（ICT 活用の理論と実践を含む）	2		園田明人	2		
		○生徒指導（進路指導とキャリア教育を含む）	2		園田明人	2		
		○教育相談（心理学的支援法）	2			3		
教育実践に関する科目	5	○教育実習Ⅰ	1		金田健司	4		
		○教育実習Ⅱ-B	2		金田健司	4		
		学校体験活動	1		開講せず	2		

			○教職実践演習(中・高)	2	金田健司	4		
大学が独自に設定する科目	※ (12)		道徳の理論と指導法	2	金田健司	2		
			「教科及び教科の指導法に関する科目」からの充当(必要単位超過分)					
			「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)					
			「教育実践に関する科目」からの充当(必要単位超過分)					
第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法	2	板倉美奈子	1		
	体育	2	○スポーツ実技Ⅰ	1	祝原 豊 他	1		
			○スポーツ実技Ⅱ	1	祝原 豊 他	1		
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	2	ハリントン 他	1		
			英語スピーチクリニック	1	松永ジョアンナ	1		
			英語リスニングスキル	1	松永ジョアンナ、ハリントン	1		
			英語ボキャブラリービルディング	1	ピーターズ	1		
			英語構文理解	1	鬼塚大輔、ピーターズ	1		
			英語文章表現法	1	幸田明子、鬼塚大輔	1		
			総合英語応用Ⅰ	1	開講せず	1		
			総合英語応用Ⅱ	1	松永ジョアンナ	1		
			フランス語Ⅰ	1	今野喜和人	1		
			フランス語Ⅱ	1	今野喜和人	1		
			ドイツ語Ⅰ	1	小柴浩稔	1		
			ドイツ語Ⅱ	1	小柴浩稔	1		
			中国語Ⅰ	1	望月裕之	1		
			中国語Ⅱ	1	望月裕之	1		
	韓国語Ⅰ	1	大木喜義	1				
	韓国語Ⅱ	1	大木喜義	1				
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2	飯塚重善 他	1		
情報発信演習Ⅰ			1	渡辺 司、金 承子	1			
情報発信演習Ⅱ			1	沖山貴裕	2			
Webクリエイター演習			1	飯塚重善	2			
必要単位数計			67	(必修科目の関係上最低単位数 82)				

※「教科及び教科の指導法に関する科目」の必要単位超過分で充当できる。

免許法施行規則に定める科目区分等			必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック
				授業科目 「○」は教職必修	単位数				
					卒業必修	選択			
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	○保育内容論－健康		2	永倉みゆき・山田美代子	2		
		人間関係	○保育内容論－人間関係		2	志田倫子	2		
		環境	○保育内容論－環境		2	永倉みゆき・山田美代子	2		
		言葉	○保育内容論－言葉		2	赤羽尚美	2		
		表現	○保育内容論－表現		2	内山尚美	2		
	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)		○保育内容総論		1	菊地篤子	2		
			○保育内容演習－健康		1	永倉みゆき・山田美代子	2		
			○保育内容演習－人間関係		1	菊地篤子	2		
			○保育内容演習－環境		1	永倉みゆき・山田美代子	2		
			○保育内容演習－言葉		1	赤羽尚美	2		
			○保育内容演習－表現		1	内山尚美	2		
		教育の基礎的理解に関する科目		○教育原理		2	金田健司	1	
				○教師論		2	金田健司	1	
				○教育社会学		2	金田健司	1	
	教育・学校心理学			2	林 智幸	2			
	発達心理学			2	松野 真	2			
	○特別支援教育			1	山元 薫	3			
	○幼児教育課程総論			2	加藤寿子	2			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		○幼児教育の方法と技術		2	加藤寿子	2			
		○幼児理解		2	永倉みゆき	3			
		○教育・保育相談		1	松野 真	3			
教育実践に関する科目		○幼稚園教育実習指導		1	内山尚美・永倉みゆき	3			
		○幼稚園教育実習		4	内山尚美・永倉みゆき	3			
		○保育・教職実践演習(幼稚園)		2	川島貴美江・永倉みゆき	4			
大学が独自に設定する科目		子どもと言葉		1	赤羽尚美	2			
		ピアノ教育		1	山田美代子	1			
		音楽表現		1	内山尚美	1			
		造形 I		1	木俣創志	1			
		体育・表現		1	山田美代子	2			
		○保育原理 I		2	永倉みゆき	1			
		○保育原理 II		2	永倉みゆき	1			
		児童家庭福祉		2	川島貴美江	2			
		社会的養護		2	川島貴美江	2			
		保育の心理学		1	松野 真	2			
		「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当(必要単位超過分)							
	「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当(必要単位超過分)								
第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1		
	体育	2	○スポーツ実技 I		1	祝原 豊 他	1		
			○スポーツ実技 II		1	祝原 豊 他	1		
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎	1		ハリントン 他	1		
			英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1		
			英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1		
			英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1		
			英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1		
			英語文章表現法		1	幸田明子、鬼塚大輔	1		
			総合英語応用 I		1	開講せず	1		
			総合英語応用 II		1	松永ジョアンナ	1		
	フランス語 I		1	今野喜和人	1				
	フランス語 II		1	今野喜和人	1				

		ドイツ語Ⅰ		1	小柴浩稔	1		
		ドイツ語Ⅱ		1	小柴浩稔	1		
		中国語Ⅰ		1	望月裕之	1		
		中国語Ⅱ		1	望月裕之	1		
		韓国語Ⅰ		1	大木喜義	1		
		韓国語Ⅱ		1	大木喜義	1		
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー		2	飯塚重善 他	1	
			情報発信演習Ⅰ		1	渡辺 司、金 承子	1	
			情報発信演習Ⅱ		1	沖山貴裕	2	
			Webクリエイター演習		1	飯塚重善	2	
必要単位数計				59				

免許法施行規則に定める科目区分等			必要単位数	左記に対応する開設授業科目			担当者	配当年次	履修チェック			
				授業科目 「○」は教職必修	単位数							
					卒業必修	選択						
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	16	○保育内容論－健康		2	永倉みゆき・山田美代子	2				
		人間関係		○保育内容論－人間関係		2	志田倫子	2				
		環境		○保育内容論－環境		2	永倉みゆき・山田美代子	2				
		言葉		○保育内容論－言葉		2	赤羽尚美	2				
		表現		○保育内容論－表現		2	内山尚美	2				
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			○保育内容総論		1	菊地篤子	2				
				○保育内容演習－健康		1	永倉みゆき・山田美代子	2				
				○保育内容演習－人間関係		1	菊地篤子	2				
				○保育内容演習－環境		1	永倉みゆき・山田美代子	2				
				○保育内容演習－言葉		1	赤羽尚美	2				
				○保育内容演習－表現		1	内山尚美	2				
				教育の基礎的理解に関する科目			○教育原理		2	金田健司	1	
							○教師論		2	金田健司	1	
							○教育社会学		2	金田健司	1	
教育・学校心理学		2	林 智幸				2					
発達心理学		2	松野 真				2					
○特別支援教育		1	山元 薫				3					
○幼児教育課程総論		2	加藤寿子				2					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目			○幼児教育の方法と技術		2	加藤寿子	2					
			○幼児理解		2	永倉みゆき	3					
			○教育・保育相談		1	松野 真	3					
教育実践に関する科目			○幼稚園教育実習指導		1	内山尚美・永倉みゆき	3					
			○幼稚園教育実習		4	内山尚美・永倉みゆき	3					
			○保育・教職実践演習（幼稚園）		2	川島貴美江・永倉みゆき	4					
大学が独自に設定する科目			子どもと言葉		1	赤羽尚美	2					
			ピアノ教育		1	山田美代子	1					
			音楽表現		1	内山尚美	1					
			造形 I		1	木俣創志	1					
			体育・表現		1	山田美代子	2					
			○保育原理 I		2	永倉みゆき	1					
			○保育原理 II		2	永倉みゆき	1					
			児童家庭福祉		2	川島貴美江	2					
			社会的養護		2	川島貴美江	2					
			保育の心理学		1	松野 真	2					
			「教育の基礎的理解に関する科目」からの充当（必要単位超過分）									
「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」からの充当（必要単位超過分）												
第66条の6に定める科目	日本国憲法	2	○日本国憲法		2	板倉美奈子	1					
	体育	2	○スポーツ実技 I		1	祝原 豊 他	1					
			○スポーツ実技 II		1	祝原 豊 他	1					
	外国語コミュニケーション	2	○総合英語基礎		2	ハリントン 他	1					
			英語スピーチクリニック		1	松永ジョアンナ	1					
			英語リスニングスキル		1	松永ジョアンナ、ハリントン	1					
			英語ボキャブラリービルディング		1	ピーターズ	1					
			英語構文理解		1	鬼塚大輔、ピーターズ	1					
			英語文章表現法		1	幸田明子、鬼塚大輔	1					
			総合英語応用 I		1	開講せず	1					
			総合英語応用 II		1	松永ジョアンナ	1					
	フランス語 I		1	今野喜和人	1							
	フランス語 II		1	今野喜和人	1							

		ドイツ語Ⅰ		1	小柴浩稔	1		
		ドイツ語Ⅱ		1	小柴浩稔	1		
		中国語Ⅰ		1	望月裕之	1		
		中国語Ⅱ		1	望月裕之	1		
		韓国語Ⅰ		1	大木喜義	1		
		韓国語Ⅱ		1	大木喜義	1		
	情報機器の操作	2	ネットワーク・リテラシー	2		飯塚重善 他	1	
			情報発信演習Ⅰ		1	渡辺 司、金 承子	1	
			情報発信演習Ⅱ		1	沖山貴裕	2	
			Webクリエイター演習		1	飯塚重善	2	
必要単位数計				59				

## 「数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）」について

静岡英和学院大学（以降、本学）は、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が作成した「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」（以降、「数理・DS・AI（LMC）」）にもとづく教育プログラム「数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）」を、2023 年度以降の本学入学生を対象として設置しています。本プログラムは、2023 年度以降に本学へ入学する学生に必修科目として提供される「数理・データサイエンス・AI 基礎」（1 年次前期開講の必修科目）と「ネットワーク・リテラシー」（1 年次通年開講の必修科目）の 2 科目で構成されています。

### 『数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）』と『数理・DS・AI（LMC）』

『数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）』は、建学の精神の下、次の 1～2 のように『数理・DS・AI（LMC）』の「オプション」以外のすべての内容へ対応しており、さらにネットワークのリテラシーをも学ぶことができます；

- 1 『数理・DS・AI（LMC）』における【導入】、【基礎】、【心得】、【オプション】のうち、【基礎】のデータリテラシーを「ネットワーク・リテラシー」の中で学び、【導入】と【心得】を「数理・データサイエンス・AI 基礎」でそれぞれ学びます。
- 2 「ネットワーク・リテラシー」では、【基礎】（データリテラシー）以外に、ネットワークのリテラシーについても学びます。

『数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）』において身に付けることのできる能力、ならびに、プログラムの構成科目における授業の方法及び内容の詳細は、シラバスを参照して下さい。

### 修了要件・申請方法

本プログラム『数理・DS・AI 教育プログラム（英和 LL）』の修了には、以下の科目で合計 4 単位の修得が必要です。

「数理・データサイエンス・AI 基礎」（2 単位）

「ネットワーク・リテラシー」（2 単位）

必修科目のため、学生の皆さんは本プログラムへの申し込み手続きは不要です。

なお、「数理・DS・AI（LMC）」は、「数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム」が次の背景のもとで策定したものです；

『政府の「AI 戦略 2019」（2019 年 6 月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約 50 万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AI を習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」を数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定。』（[http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model\\_literacy.pdf](http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy.pdf) より引用）

